



月に照らされる千手観音像 (唐招提寺・観月会)

ともしびを消せ
 今宵は長月十三夜
 月をまつり、枝豆・栗を供え
 収穫を喜ぶ言葉を交わそう
 蒼ざめがかった茜色の夕景に
 つつましく寄りすがる影に
 後の名月は曇って朧に映る
 はるか山に笛の音流れ
 われは見る 美しき汝の夢を
 降り注ぐしろがねの光は
 一瞬に苦へと運ぶ
 月の光を浴びる御仏は
 この世にありとあらゆる
 すべてのものに
 愛の言葉をささやく

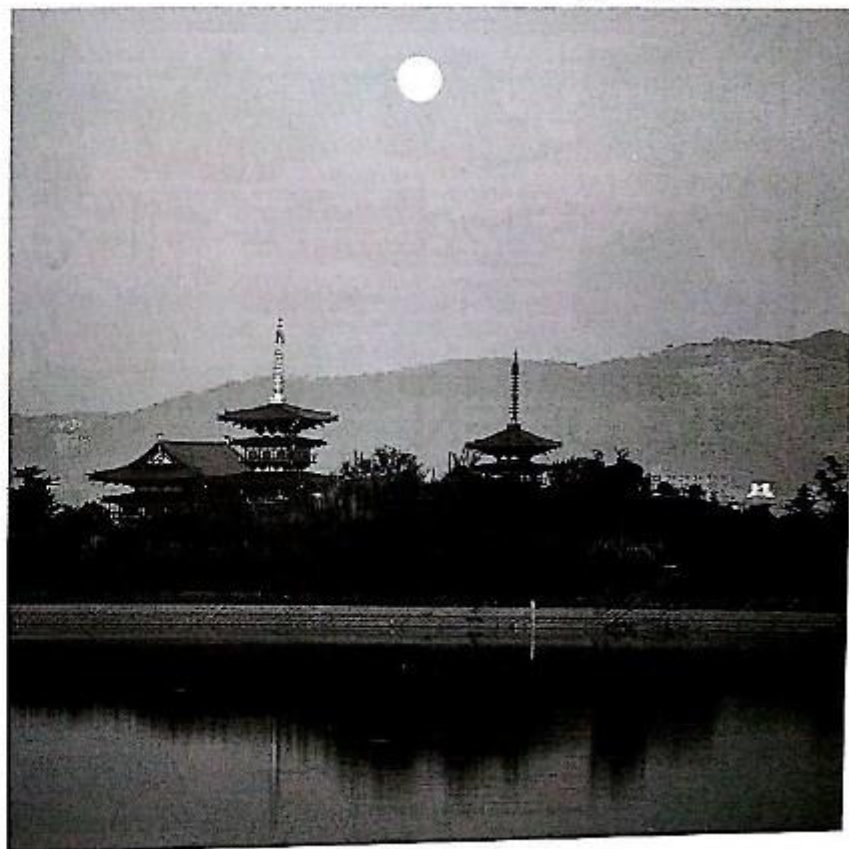


雲間の月 (生駒山麓公園)

Photo essay

十三夜

題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一



宵月 (証師寺)

季節の



実りの秋



初秋のソバ畑（桜井市笠地区）



高原の秋

実景

撮影 武市通治

初秋



秋気



秋色



秋の小太郎谷（鈴鹿）

小林 実



パノラマコースから見る前穂高岳（北アルプス）

三浦 弘幸



千草越え・藤切谷の蓮如上人遺跡付近のイヌシデの古木（鈴鹿）

小林 実



夜明けの北穂高岳南稜（北アルプス）

三浦 弘幸



克



克

随想 (山のエッセイ)

「おいする」点の記

山下 博也

平成8年5月4日、笈ヶ岳はおそらく空前の登山者を迎えたのではなからうか。私は三万石岳から、そして冬成山から大笠山方面からこの日だけで数十名以上が登ったようだ。おそろしくかつてなかったことで、本誌28号と「新ハイ」(東巻)5月号の記事のためものであらうか。山行後、気になっていた笈ヶ岳、点名「笈岳」の「点の記」を入手した。すでに本誌4号に内田嘉孝氏がその一部を引用していますが、この「点の記」の備考欄の内容にはさらに注目すべき記載があるので紹介したい。

「一、本点ハ笈岳ト称シ昔時笈ヲ之ノ頂上ニ埋メタリト伝ヘ来セル故、三十八年山林局ニ於テ三角点設置ノ際笈ヲ掘起

シタリ、刀剣及甲冑銀錢ノ佛像等ニシテ……」(京報の國上地理院から東京大手町の同院東地方測量部宛にフックシミリで送ったもの)「たためもあって以下判読しにくい」。

笈ヶ岳の山名由来については、笈を背に登ったから、笈の形をした岩が山頂にあったから等、とされている。これについて、笈(「おい」)「字で「おいする」とも読む)を山頂に埋めたというこの伝承を有力な山名由来とするのはいかがなものであらうか。ところで、掘り起こされたときとされる笈はどうなったのだろうか。「東京国立博物館蔵版目録 経家遺物編」には、笈岳頂上出土品の写真と経家の銘文が載っているが、笈ながら発掘されたという笈は収蔵されていない。経家の銘文にある年号、永正十五年(1518)の頃に埋められたとすると、明治三十八年(1905)の発見ま

で387年を経ている。板か竹で作られた笈が、土中において果して腐らずに残り得たのだろうか。疑問が残る。

さらに注目すべき点は、「三十八年山林局ニ於テ三角点設置ノ際……」(点線とは測量用やぐらのこと)の記事だ。これまでは、三十八年陸軍参謀本部陸地測量部が、前人未踏と見られた山頂から経家をはじめとした遺物を発見した。とされている。ところがこの「点の記」によれば、発見者は山林局である。陸地測量部ではないということになる。「点の記」によれば、陸地測量部による笈岳遺物の調査は明治二十九年六月十三日、翌年七月二十四日、観測十月十五日とあるから山林局の一年後ということになる。ところが山林局というものは、当時の農商務省に属し国有林管理のための三角測量を行っていた。(この山林局の三角点の多くはその後陸地測量

測量部の要請に基づいて移されたという)。

したがって「日本3000名山ガイド」や「日本の山1000」をはじめとした冊物の中の遺物発見者に関する記事は今後両者を要するのではなからうか。

ところでこれらの遺物がなぜ笈ヶ岳に埋められたのだろうか。出土した経家の一つには、「六十六管内一節所」、他には「奉納六十六部如法蓮道順」とあるから、いわゆる六十六部だとわかる。仏像・絹懸・銅鑊・刀身・小柄・小刀・剣・槍身・鎌(法華経は収蔵されていない)については何のために埋められたのか不明ながら、経家に閉じては全国六十六州の霊廟(主として一の宮)に寄附した法華経を納めて回る廻國奉祀であったことは明らかだ。加賀国一の宮は白山比咩神社であるから、これは笠岳より白山を過拜し埋蔵した

ものと考えるのが妥当だろう。

備考欄の最後には「三、山林局三角点ハ本点ノ西約十米ニアリ」とある。「点の記」にその記載が無いのでこの三角点に陸地測量部に「移管、転換」されていまいか。ということはその三角点笈ヶ岳とそのまわりに残っているのではあるまいか。もし存在ならば、3等三角点ながら三角点が二つある山となるのではないだろうか。

笈ヶ岳山頂には、まだまだ遺物が埋もれているのだろうか。日光・男林山をはじめとする山頂からも遺物が発掘されている。地元民人や学術関係者による山頂発掘は考えられていないのだろうか。発掘ともなると山頂の植生をばくことになるので、本誌4号で前述の内田氏が陸地測量部「自然環境と山の回復」で書かれているように議論のあり得るところだが、興味ある問題ではなからうか。

北山の蜂

藤佐次 盛一

ある年の夏、仲間たちと京部北山へ向かった。登る山は京部町の東にあり、地形図では無名の山だが、北山をよく知る人にはジョウラク峠の北、あるいは単にジョウラクとも呼ばれている671・4尺の三角点峰だ。釣り人などにきわう桂川を渡り、支流の小野内谷の林道に少し入った所に丑を置き、あとは徒歩。右にジョウラク峠への分岐を過ぎ、左に林道終点に替く。左側に丸本橋を見つけ小谷に沿った相道をたどり、西尾根から登ることにした。

源流からいよいよ西尾根にあらみだす。しんがりの私は、踏みしめた草の上をゆっくりと進む。ふと足もとに転がる石に目をやると、石の上で何か



随想 (山のエッセイ)



瓦

四方山話

芝野 照明

劇場内の照明が徐々に消え、スクリーンにまず映画製作会社のシンボルマークが映る。星が取り巻く輪の中に厳しく屹立する三角錐型の山、白い雲が去来する。視線は鋭い刃物で斬り割ったように冷たい。その鐘降はマッターホルンと呼ばれている。私がこの画面に魅せられてから半世紀が過ぎた。実際に自分のこの目で見たものだと夢見ていた。戦争・敗戦、こんな生活では夢は夢で終わらそうであった。春巻手術のリハビリにと山歩きを始めてから、再び夢が頭を擧げた。温湯を少し過ぎた年ツェルマットのゴルナグラードに行き、私の網膜にその実姿を印すことができた。その日は風が強く、雲が忙し

く流れていたが、突然雲の裂目に三角錐の峻峰が姿を現した。寒さと感動で体が震えるのを止めることができなかった。山と映画の結びつきは意外に少ない。「駒馬車」等のミニチュメントパレーは山とはいえない。「シェーン」では残雪のあるワイオミングの山脈が緑の農地の彼方に望まれた。「K2」は転落シーンが動的で迫り感があり、「クリフハンガー」は南チロルドロミテ山塊に繰り広げられる活劇ものである。「黒い補表」もアルプスが舞台であるが、むしろスキー映画といえよう。「女子陸下の007」はシルトホルン・プライトホルンはじめベルナーオーバーラント三山が美しくとらえられている。「ザ・サウンド・オブ・ミュージック」にはオーストリア東チロル地方のアルプが登場した。戦前の「コンドル」は南米アンデス地方の雪と氷河を冠く神々の座

をバックに物音が盛況した。最近パキスタンで見たインディアンからみのテレビ映画は、ロッキーの山や谷を随所に見ることができて背道の地を懐かしくした。邦画では松竹映画がシンボルマークに富士山を選んでいるが、迫力に欠け振舞いしない。といって槍ヶ岳では力不足になるだろう。古い松竹映画の「新道」は明るい信州霧ヶ峰高原から霧が開いた。一昨年の吉永小百合主演の映画の中で、あの横溝彌生のロッキーの山々や湖の深淵まで茂るカナディアンシーターの林を借しげなく見せてくれた。概して山に驚がるものにはなぜか「陸」のものが多く、「お岩山・岩山」など東北の山を代表とする民族的なもの。「火山・楡山・姥岩」などでの死を連想させるもの。「大峰山・白山・羽黒山」など行者の山と呼ばれる宗教的で静かなもの。小説の分野でもテーマになる

が舞っている。姪だ！人の気配を察知したらしい数匹の蜂が、石の上で吸口を上にして立ち立ちになっていないか。夏草の途切れた所で皆の足もとを点検する。靴やズボンに吸いついている蜂を見つけて払い落とす。靴を脱ぎ踵下を脱いでみると、やはり数人が吸口の被害に遭っていた。いちおうの手当てをして、杉の植林帯に入る。ここも蜂が多く、杉の落ち葉の中から確実に蜂がにじり寄ってくる。なんとも不気味で自然と足早やになり早々にジョウラクの頂上に着いた。ここまでは蜂も来ないだろうと昼食にしたが、相手も空腹らしく、時々取虫みたいに寄ってくる。ヒル飯などと駄洒落を言っている場合ではなかった。南のジョウラク峠まで歩くつもりだったが、急遽コースを変更して山頂から西へ道なき植林帯を急降下、植道を見つけて

元の林道終点に戻った。注意していたはずだったが、またもや数人に被害が出た。私たちのグループでは、いやいや一段でも、京都北山と比良山には蜂はいないという迷信みたいなものがあったが、見事にうち破られた。しかし、「漢陰閑話」(西尾舞一著)では、昭和30年代頃に、著者自身が芦花峠付近で頭上から降ってくる山蜂を経験しているし、最近は大丁川でも蜂の被害があるらしい。今まで私たちがたまたま蜂の産息圏外の山を歩いていただけで、蜂はいないと勝手にきめつけていたようだ。思い出してみると大阪の金剛山や湖南の阿房山でも、足もとににじり寄る蜂を目撃している。要するにその棲息密度が薄いか薄いかで、どこの山でも蜂は棲息しているのではなからうか。その棲息密度は、残存する自然の樹かまの尺度になるのかも知

れない。その意味では、北山の蜂は不気味ではあるが貴重な存在だとも言えよう。この日は偶然にも、私を含めた数人に被害がなく、蜂はコロンに弱いのかと話題になった。先に紹介した西尾氏の著書でも、ニコチンを足にすり込む予防法が書かれている。ところがヘビースモーカーを自認する私でも、鈴鹿・大峰・台高山系で道云河も被害に遭っている。パンテイスティックングを常用すると、蜂の被害に遭わないとも聞くが、私は試したことがない。昔から塩の効用がよく知られているが、いずれも決定防が予防法はなく、要は早く蜂を見つけて、すみやかに棲息地から脱出することである。最後にこの日発見した蜂の取退法は、アワトドア用の山除けスプレーである。さっと吹きつける。一瞬のうちに小さくなつて、ぼろりと落ちてしまった。



随想 (山のエッセイ)

ものが夏の盛りから冬への血の臭いのする「〇〇殺人事件」で、しかも通院殺人の凄惨な死体の発見者が登山者となっている。私が切に望んでいるのは、太陽の光を呼吸している生々としたテラックスな華のある山である。

さあ、私たち中高年者も隠者や修行僧のようではなく、生命を謳歌しながら明らかに山を歩き、青春しようではありませんか。山から新しい3Kを取りのぞくためにも……。

愛宕三山

前中 毅

7月某日、岳友のF氏とともに愛宕三山にチャレンジ、愛宕に富んだ面白いコースを楽しんだ。

滝滝から表参道を登り、愛宕神社(924m)に到着したのは

11時、早めの昼食をとる。全国に800余ある愛宕神社の総本社らしく、堂々と構えるその本殿を見ていると、4-4年前の出来事が偲ばれる。明神昇秀がこの地で詠んだ「詩は今天が下しる五月かな」は、信長への逆心を秘めた連歌の発句で、彼はその直後に本能寺を急襲し、歴史の流れを変えた。

キャクピラー正用の赤土道をくだり、曹見谷溪流へ向かった。ほればれる美溪を15回ほども徒渉しながらくだること約40分、三本丸太の橋を渡った所が竜ヶ岳への登り口。早速取りつくが、前方を見上げると首が痛くなるような急登が続く、いつ来ても登りがいがある。右ヘトラバースするポイントで小休をとり、そこからは相棒の提案で右へは行かずに正面の尾根を直登することになった。ハイキングの常識を否定するような急勾配だったが、数分で主峰に登り立った。

竜ヶ岳山頂(921m)から40分で愛宕森林道、さらに10分で地蔵山への取りつきまで、笹原をゆるやかに登ると、一等三角点(947.6m)の待つ地蔵山の山頂に着いた。

ゆっくり休んで15時20分以下山開路。西河地蔵から越前へ直降する。左尾根から谷へは崖のような急傾斜だが、ジグザグ道が上手に作られている。谷へおりても急坂が続く、割木などで荒れた湖れ谷はやや緩急感に感じられたが、伏流していた水が、突然ドツと谷を奔りだすと、観音が一変する。いくつも小滝を繋げたこの谷は、越前地区の上水源である。汚さないように十分な配慮が望まれる。

簡易水道設備が見えてくると、道はプロムナードロードのようになり、16時20分、ゴール地の越前バス停に着いた。達成感に満ち、充実した旅次(多山行)だった。

深い原生林と明るい笹原

木ノ実ヤ塚から薊岳・明神平

高台

酒井賢治

薊岳は、台高山脈北部の楽園・明神平から西へ派生する大きな尾根の中段に盛り上がる雄峰で標高1400m、山頂部は東西に細長く、石垣花茂る密着のヤセ尾根となっている。母岩、山頂西面の灌木が茂り取られていっそう風切が長くなり、大峰・台高の二天山脈を遊ぶ愛好のポイントとなる。

この山へは通常、大又バス停前の笹野神社から山道に取りつき、古池辻を経て大鏡山北側を絡み、西尾根を越えし巖岩のヤセ尾根を登って山頂に立つ。さらに東へブナなどの自然林の太尾根を縦走して明神平で憩い、明神谷を大又林道にくだって元のバス停に戻るのが一般的で、近年どのが

イド法でも取り上げられるほどのポピュラーなコースとなった。

奈良に住む私にとって台高山脈の山々は、最も身近に感じられる存在であり、種々のコースで四季折々の登山を楽しんでいるが、昨年の秋は少し変化を求めて薊岳から南へおじる支尾根を辿りたどって山頂に登り、通常コースを明神平へ縦走した。

本コースの前半、二階谷から薊岳までは一般コースをはずれるため、いっそう人気がない静寂かつ深山の趣のある山歩きが楽しめ、道回りに登るだけの価値は十分にあると思えた。

10月14日7時前、久しぶりに次男連転のマイカーで自宅を出発。藤原経由で東吉野

薊岳からの南空 (遠くかすむ大峰山脈)



村に入り四郷川に沿った山脈を奥に通む。大豆畑を過ぎたあたりの溪谷沿いに、新しく「やわた温泉」や廃校を利用したキャンプ場が開設されている。近年どこでも村おこし・町おこしが盛んだ。表谷口で大又への道を左に抜け、右へ表谷への急坂を登り、静かな佇まいの表谷の集落を過ぎる。表谷バス停から道は美しい杉の植林の中、雑木林道となり、表谷川左岸・右岸に沿って走り高度をかせぐ。小屋の尾根山脈の美



明神平よりきょう歩いた山と尾根（左に三ツ塚、中央に木ノ実や塚と窟岳、手前は東尾根）

ら廻折間はわずかに0.01kmの距離だが、本コース最高のプロムナードだった。広々とした鞍部は、西側近くまで楢林が接近しているが、あたり一帯ブナの大本などが密生し、さながら原生林に踏み込んだ感じがした。近づいた窟岳から東へのびる巨大な尾根は、色づき始めた山肌を急傾斜で谷に落ち、中奥川源流の谷にくる踏み跡らしきものがあつたが、これは谷歩き熟練者だけに許されるルートである。

露岩凝じりの急坂を登り、剣先から南下する小尾根をゆく。小笹のじゅうたん目自然林とが何とも感じのよいプロムナードだ。所どころに、アクセントをつけるかのようには露岩が点在する。横長の窟岳頂上部の山腹や西尾根の険しい稜線の刻みが目前に迫ると、いよいよ山頂への最後の登りとなった。山頂直下の露岩右側に踏み跡を見つけ、山頂を右に回り込むように右側花の多い岩場を登り、11時15分山頂の一角に着く。最高点から20分ほど東に寄った所だった。灌木にテープが巻かれており、よい目印になる。窟岳は明るく、大展望が開ける。

南を向けば、左近くに脈々と連なる高高山脈の山々、右遠く青く霞む大峰山脈、そ

ら廻折間はわずかに0.01kmの距離だが、本コース最高のプロムナードだった。広々とした鞍部は、西側近くまで楢林が接近しているが、あたり一帯ブナの大本などが密生し、さながら原生林に踏み込んだ感じがした。近づいた窟岳から東へのびる巨大な尾根は、色づき始めた山肌を急傾斜で谷に落ち、中奥川源流の谷にくる踏み跡らしきものがあつたが、これは谷歩き熟練者だけに許されるルートである。

露岩凝じりの急坂を登り、剣先から南下する小尾根をゆく。小笹のじゅうたん目自然林とが何とも感じのよいプロムナードだ。所どころに、アクセントをつけるかのようには露岩が点在する。横長の窟岳頂上部の山腹や西尾根の険しい稜線の刻みが目前に迫ると、いよいよ山頂への最後の登りとなった。山頂直下の露岩右側に踏み跡を見つけ、山頂を右に回り込むように右側花の多い岩場を登り、11時15分山頂の一角に着く。最高点から20分ほど東に寄った所だった。灌木にテープが巻かれており、よい目印になる。窟岳は明るく、大展望が開ける。

南を向けば、左近くに脈々と連なる高高山脈の山々、右遠く青く霞む大峰山脈、そ



しい吉野杉の植林や狼谷の枝谷の清流を忍びこりに進み、やがて林道はきょうから木ノ実や塚にかけての緑の植林と、色づき始めた山頂部が、朝の光を受けて頭上にそびえていた。

9時ちょうど、林道距離「20K.9.0」のプレートが立つ二階岳への取り付き点に着く。林道はさらに西へジョウブツ山あたりまで、太尾根上をゆるやかにのびている。ここですでに高度は1100mを超えているので登りがすいぶん助かった。表谷口から歩けば約8分、2時間はかかるであろう。

息子は上手にリターンし林道をくだっていった。

灌木に巻きつけられた赤や黄のテープに導かれて山道に入る。楢の植林中のゆるやかな踏み跡を東へ進む。眼下の林道からトラックのエンジン音が聞こえてきた。息子の車はうまくすれちがえるだろうかと心配になる。10分も歩くとあたりは自然林となり勾配も急になった。取り付きから20分ばかりで横間の尾根分岐点の止まりに着く。東の谷からの霧が汗ばんだ肌を心地よくかいた。北に向きを変え、灌木と笹をかき分けゆるやかに登るとすぐ二階岳であった。

樹間から台頂主稜の山々を垣間見る。ガイドマップでは林道から直接この山に登る破線が記されているが、それらしき道はなかった。小休して二階岳をくだると、鞍部に大きなヌタ場があり動物の足跡が無数についていた。案の定、東の谷の楢林からキーンという鹿の鳴き声が静寂を破って響きわたった。

次のピークへ背丈ほどある世のブッシュをかき分けて登った。細長い尾根状のピークからは、深い中奥川の谷を隔てて池木山、赤尾山、王石山の山塊が見えた。前面次の鞍部よりお椀を伏せたような木ノ実や

家が大きく盛り上がり、東の山脈を深い谷に傾斜させている。再び鞍部に駆けおちる。太い倒木を降ぎ、樹林の鞍部にくだると、また大きなヌタ場があった。このルート一帯、野生動物の活動が活発なようだ。

ヌタ場といえば以前この山城では、国見山近くの主稜線や窟岳東尾根などでよく見かけたものだが、最近あまり見られなくなつた。動物を人間がよく通るところは避けているのかも知れぬ。このあたりからブナの大本が目立ちはじめ、いっそう深い自然林の様相となる。

木ノ実や塚への急斜面の踏み跡を登り返して、10時10分山頂に着く。小笹を敷きつめたブナの大樹が孤立するチリひつとない清潔な山頂であった。展望は楢間越しに窟岳や東尾根、その向こうに国見山や水無山が顔を出し、深く楢林におおわれた台頂主稜の山々が階へ長々とのびていた。樹木が邪魔をして胸のすくような展望ではないが、この山にはむしろこのほうが似つかわしいように思えた。いっまでもこの状態が保持されることを願う。三角点標の板に盛り、私だけの静かな山頂のひとときを過ごした。

10時30分、山頂をくだる。木ノ実や塚か

原のスロープが広がっていた。

正面には、近くに深い崖海の中の明神
唐がやさしい山容を見せて、遠くに二峰山
のスカイラインを望む。左を見れば明神平
から盛り上がる水無山や風格ある国見山、
カヤト色の伊勢止山がつながっている。少
し上ったヌスタケの斜面で、明るい展望
を楽しみながらゆくり昼食をとる。

13時ニツ探出典、明神平にくる。道端
にやたらと塵の薫がころがっている。明神
平は塵にとっても羨望の的だろう。以恩明神
嘗した夜、テントのすぐ前て草を食む鴉子
鹿の群れを見たことがある。私にとっても
ここはいろいろ思い出のある所だ。単独行
で初めて登ったのもここだった。池木屋
山や高見山からの長い縦走も、いつも明神
平での静かな旅費が一日の締めくくりだっ
た。10分程小休止明神平を後にする。

四河の横から西へ大又への山道をくだる。
南を仰ぐときより歩いてきた山と尾根が手
にこるようには眺められた。道は東吉野村の
人たちの手が加えられ、以前に比べずいぶ
ん良くなった。水にも思われ山頂から五分
もくだると岩隙の斜面から清らかな水が湧
き出ている。直下より左へ曲がり、小さな
瀑流を二か所渡り、ヒメシヤラなどの樹林

の中を大きく雷光形にくる。いっときく

だと、先の瀑流が小谷となり滝状に落ち
する岩壁に着く。何となく休憩したくなる
場所だ。以前ここで作った冷しソーメンは
おいしかった。

流れを渡り、いったん谷から遠のき山肌
を登りようにくる。明神流の上流から南
び谷谷いにくだると、左に明神流が40分程
の落差で堂々と流れ落ちている。明神谷沿
いに山道をくだり、谷と出合って左岸に渡
る。深谷の清流で車を潤し、ひと息つく。
すぐ下流で右岸に渡り、右上に小屋を見て
薄暗い植林の中の道をくだる。馬酔木山荘
と名づけられた山小屋を右に見て、まもなく
立派な橋を左岸に渡る。ここから流や淵
などの渓谷美を楽しみ、14時20分大又林道
終点におり着いた。

ここから大又のバス停までは、右に左に
大又川の渓谷を見ながらの林道歩き、林道
といえども見逃さぬ風景が続く。途中、荒
神谷にかかる七滝八壺(七つび八壺)のゴッ
合わせ……東吉野村)を探訪、河原で汗を
ふいたりして15時40分バス停に着く。52分
発の菊野野町ゆき小型バスの客は山屋はか
り四人……、きょうの成果を語り合った。
(平成7年10月14日歩く)

北アルプスの大展望台

天生峠から初糠山

鷺見守康

飛 驒

飛驒の天生峠は、泉鏡花の小説「高野
聖」で世にその名を知られたという。その
峠から天生温泉を経て標高1744mの初
糠山に続く登山道があり、愛知県の大さん
ら自然観察会のグループがブナ林の紅葉を
求めて登るといふ知らせをもらった。

岐阜県に暮らしながら、今まで初糠山の
名を耳にしたことはない。けれど、どこか
異郷的な響きをもつ天生という名の峠のこと
とは聞いていた。世界文化遺産に登録され
た今泉東部の白川郷から高山市に抜ける峠
が天生峠で、一度は行ってみたいと思っ
ていた私は、Oさんとともに同行させてもら
うことにした。

各務原市を午前4時発。国道156号線

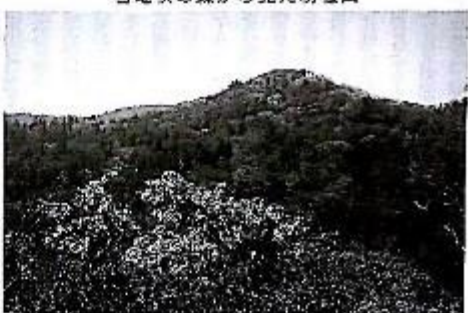
をひた走り、5時、郡上八幡町のドライ
ブインでKさんのグループと合流。この
グループは、前に一度初夏に天生温泉から
初糠山を歩いたそうで、その美しさに魅了
されての今回のアンコール山行は人気を呼
び、参加者も増えて19人となった。

トイレ休憩を終えて再び156号線を北
上、輝々野高原、井川村、白川郷を抜けて
360号線を進み、天生峠に到着したのは
午前7時であった。

くっきりと深いブルーの空から、やわら
かな秋の陽が降り注いでいる。軽い朝食を
とり、7時30分出発。

秋の山は、紅葉の美しさと木の実の榮し
みとで登山者を迎えてくれる。歩き始めて

台地状の森から見た初糠山



すく、たわねに突る熟したツノハシバミ
(カバノキ科)の葉を見つけた。コクのある、
まさにナッツの味である。そして、ブナ
の葉……。口の中に挟いほろ苦さが残っ
た。

初めての温泉から証歴戦跡のある温泉
へと歩く。温泉の湯はすでに冬枯れのよ
うなさびしい温泉だが、その向こう側に色
づいた森が見える。期待どおりの紅葉の盛
りと思っただけ、一盛りはわずかに過ぎ

近畿の山		七賢出版	
東海自然歩道	30冊	【関西版】	
大阪府社会体育研究所	1,400円	大阪府社会体育研究所	1,400円
京阪神さわやかハイキング	1,400円	大阪府社会体育研究所	1,400円
京阪神ベストハイク	1,500円	大阪府社会体育研究所	1,500円
京阪神花の山	1,500円	大阪府社会体育研究所	1,500円
京阪神ベストハイク	1,500円	大阪府社会体育研究所	1,500円
京阪神ベストハイク	1,500円	大阪府社会体育研究所	1,500円
近畿の山グレー	1,500円	大阪府社会体育研究所	1,500円

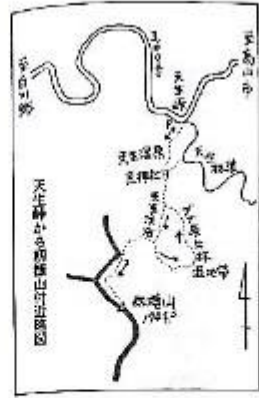
〒530 大阪府北区西天満4-15-10 フェニックスビル622F
TEL 06-345-5233 FAX 06-345-1773

表谷林道から山への取り付き点(25分)ニ
踏折(50分)木ノ交ヶ塚(50分)初岳(50
分)ニツ塚(5分)明神平(1時間)大又
林道終点(1時間10分)大又バス停
八地形園(2万5千1大豆生
昭文社「58大台ヶ原・大杉
谷・高見山」
*二階岳から初岳へは、表谷林道の登りが
大変なので逆コースが妥当であろう。また、
初岳の通常コースに木ノ交ヶ塚のみピスト
ン山行も考えられるが時間が間に留意すること。

「てらようです」とKさん。数日前の「体育の日」が興った盛りだったようだ。それでも森深くへと進むにつれ、華麗な箱根の世界となり、深緑、淡黄、光沢あるレモン色、つや消しの黄色、赤みを帯びた褐色、そしてくすんだ茶色など、さまざまな色彩で木々がその個性を見せてくれる。

やがて、天生溪谷とブナ原生林との分岐に至り、溪谷へと入る。あたりに甘くほのかな何ともいえない香りが漂い、パーティの中にいっせいにざわめきが起こった。カツラの落ち葉の香りだとKさんから解説がある。林床の朽ちかけたカツラの葉を拾い、葉裏から発散される甘い香りに酔いながら仰ぎ見ると、カツラ・トキノキ・サワグルミなどの巨木がそびえていた。

大木の生きている森には、森の精のひそかな声が開けるかのような独特の雰囲気がある。



る。真心に返ったように心が弾み、足取りもいっぺんと軽やかになる。

水音が聞こえ、小さな沢に出た。これから始まる登りを前に、パーティは思い思いの休息をとる。沢の水をカップにすくい口に含んだ。まるやかな喉ごしだ。

小休止ののち山腹に登る。台地の斜面でアケボノシユスラン(ラン科)の花、珍しいツルツケ(モチノキ科)の実に出会い、写真撮影のメンバーのために断続的に立ち止まる。

燦生化したアオモリトドマツ(オオシラビソ マツ科)も現れる。この榎山が生育の南限だという。白山でも出会ったが、太平洋側の山ではまっすぐに伸びるアオモリトドマツも、日本海側では、多雪のため地を這うように生きているのだから。

楳間からは冠岳のピラミッドな山が見えたようで、後方で歓声があがり、「山名は」との声が飛んだ。Oさんに促されて山の方向を見つめると、見事な三角錐の嶺岳であった。

「あれが御岳……」この夏嶺岳を踏破したOさんは、いかにもすっきりと嬉しな山容に感慨ひとしおの面持ちだ。「御岳」

という名が列の後へと口伝てに送られていく。

立山室堂から別山(別山)まで、目に飛び込んで来た御岳の姿は、けっしてピラミッドなものではなかった。むしろ全身の線におおわれたようなどっしりとした重厚な山岳であり、迫力に満ちた堂々たる存在感に圧倒され、ただ立ち尽くして息をのむばかりだった。そして、その印象の強烈さゆえに、人は心から山を好きになり、同時に山に対する敬意を覚えるのだから。

最後の急坂を登りつめると頭上が開け、大展望の檜山山頂に立った。西方向は雄ヶ馬場の山体に覆われているものの、南北、そして東の三方向は、透明な大気の下はるか地平の果てまで見渡すことができ

た。

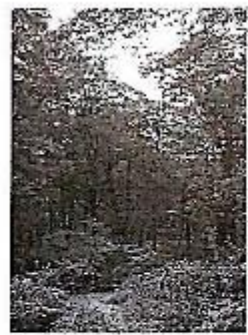
北アルプスの全景がすばらしい。この山頂に立つのは二重目のKさんが、往観な山岳展望を楽しもうとプロミネナー(地上空遠望)を担ぎ上げてきており、そのプロミネナーを利用してKさんと私とで山岳同定を始めた。北端に見える山をプロミネナーの20倍率の複製にとらえると、東は黒岳、西はなだらかな長大斜面の非対称山岳がはつきりと認められる。まさしく白馬岳だ。

北から、白馬・旭・杓子・剣・立山・栗師・野口五郎・北ノ保・水島・黒部五郎・三河原・穂・大坂・南・笠・北越・湖沢・奥越・前越・西越・雄・乗鞍と続き、その間に中央アルプス北嶺、御坂、さらに南アルプスの甲斐駒をも確認した。ジャンダルムも肉眼で判別でき、上高地の山、六吉山と霞ヶ岳も見分けられる。

北アルプスの峰々の美しさは言葉に尽くせない。ゆたしいばかりの輝きを見つめていると、全身が至極の思いに満たされてくる。いかにも飽いたくな山岳景観をわがものとしながら、ビールを飲みほした。

突然、Kさんが鋭い声を上げた。天高く高く飛翔するサシバを見つけたのだ。だれもがKさんの指し示す方向に眼を凝らし、慌ただしく双眼鏡を向ける。

「あっ！ こっちにはノスリ！」



ブナ林のプロムナード

「遠くにオオタカ！ 近づいて来る！」

タカの数種類が天生祥の上空を飛び、榎山の頂上は興奮にどよめいた。タカたちは悠然と舞い、やがて目にしみるほど青い空にひとつの点となっていく。タカたちが姿を消すと、次にはハリオアマツバメが細長い翼を鎌のように広げて何度も山頂をかすめた。

またたく間に一時閑余が過ぎ、下山開始の復路は、溪谷との分岐からブナ原生林に入る。原生林は台地状となり、温泉もあってまさに「森に遊ぶ」というのびやかな雰囲気となる。ふり返れば、榎山の山頂が見え、プロムナード気分だ。

ダケカンパが白っぽい幹にレモン色の葉の輝きをかぶり、まっ青な空を背にすっきりと立つ。絵画のような風景が展開して、パーティのあちこちで歓声が上がリ、潮息がもれる。ダケカンパは、幹肌と葉裏のコントラストがいかにも鮮やかで、このダケカンパの住む森の秋は、ひときわ華やかな装いとなる。

ブナの大木は、葉を黄金色に染めている。「この黄金色がブナ林の紅葉の料ですよね。日本海側のブナ林の良さというべきで、太平洋側のブナではこの黄金色が出ないんで

す」Kさんが感にたえない様子で解説してくる。日本海側のブナは、初め黄金色に輝き、やがてくすんだ茶色に変化していくのだが、太平洋側のブナは、往々にしてこの黄金色の輝きが欠けてしまうというのだ。私も、こんなに見事に黄金色となったブナは、初めて見たような気がする。風雪の厳しい地に育つブナが見せる驚異的な美しさだ。

ブナ原生林の台地をくだり、溪谷入り口との分岐に戻った。ブナの木にツキノヤケが見られ、林床にも秋の味覚のキノコが生えている。パーティの何人かはキノコ狩りを楽しんでいた。

天生祥に帰ると、イベントが開かれ地元物産品の店が軒を出していた。村人からさよらの天気は一年に数回あるかないかの絶好の日だった、と聞いた。

(平成7年10月14日歩く)

▲コースタイム▼

- 天生祥(30分) 福原匠数峰(15分) 天生溪谷とブナ原生林との分岐(2時間) 檜山(2時間) 天生溪谷とブナ原生林との分岐(15分) 榎原匠数峰(30分) 天生祥
- △地形図▽2万5千1:1 雄ヶ谷・平瀬

愛宕山

924

浅野孝一

愛宕神社



6月上旬、近畿地方が梅雨に入る直前に京都の愛宕山に登った。

かつて丹後地方の山旅の行き加りに、亀岡を通過する列車の窓から保津川とそれらしい山域を眺めたことがあった。

『日本山岳志』には「愛宕山(別稱愛宕山、阿波山、愛宕山、御日峰、白雲山、姥嶺山)山城國丹波郡ノ北方ニアリ、嵯峨村大字上藤原ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百三十八」と記している。

私たち三名は登山の前日、嵯峨大覚寺門前近くにある民宿「一休」に泊まった。夜半より降り出した雨は朝にやんだが、空には薄れず他の雲がたれこめていた。前か

ら清洲までタクシーに乗り、金鈴橋のたもとで降りた。

清洲川を渡った地点は「ア」所居であった。愛宕山の表参道は鳥居をくぐった所から始まる。途中弁当を賣うのを忘れたので、登山口の左手の茶屋で菓子パンを購入し登山道の様子を見た。

樹林の山の登山道はコンクリートでかためられた急坂。左へ曲がりこむ崖から清水が流れ落ちていた。一杯飲んでから歩く。コンクリート道が終わると不規則な石段のある道に変わり、山頂までの五十丁。丁目石は石仏がさままれ表参道の左右に置かれている。

十七丁目の茶屋の前でひと休みする。茶

屋は立派な建物であったが店は閉まっていた。

最近の私の山歩きでは、あとかん登ってくる人に追いつかれそすて抜かれてゆく。まず先行者を抜くことはなくなってしまう。安全登山をモットーとするとはあくまで建て前で、言うなれば体力の落ちこみが進んできたというわけである。はじめ表参道を登っているのは私たち三名であったが、あとから登ってくる人に抜かれる。相違の

年輩者もいるが、登ってゆくスピードは速い。

表参道のまわりは新緑の広葉樹。五合目の休憩所で休んでいたなら「新ハイ関西」所属の女性と会い、昔の愛宕山朝霧登山「ブル」に関するコピーを見せてもらい、水尻分岐にある遊園地跡の意味がわかった。ここから表参道はゆるやかな坂になり大

杉林を過ぎると平坦な道となり心がやすまる。途中左手から保津川周辺の麦畑が見え、霧は大つぶの雨になったがすぐやんだ。

水尻分岐の休憩所を過ぎると細小島があるが無人。下山する人たちと行き交うゆめい登りが続き、黒川をくぐる。愛宕山といわれる広い所に出る。社務所がある。愛宕神社へはさきと長い石段を登る。

愛宕山の神社のある地点は924m。付近に三角点を求めると神社の北方に890mの三角点がある。しかし愛宕山という名称は神社のある地点に対してのものであることが地形図上に読みとれることが出来る。

保津川と馬山街道にはさまれた山地では愛宕山は二百目に高い。一番目は愛宕山から北にのびる稜線上にある地蔵山(948m)である。愛宕神社は大きな社

殿である。「阿多古配符火酒宴儀」のお札をいただき、休憩所で昼食をとった。

『日本名勝地志』は愛宕神社について「雄略高麗曲盡山嶽に致る一の鳥居より登ること五十町許、峯頭を白雲山と云ふ、……山上に神社あり天應元年僧慶徳(嵯峨野藤ヶ峰の北方より遷座せし所に於て伊仲世尊火經尊を祀り雷神、廣大神を合祀す別に太郎坊社、飯塚社、子守勝手社、八大御社、春日社、十二社等……又山中に十羅殿の殿あり十羅を執つて雲中に扱てげ頭を踏つて輕捷し恰も飛鳥の如く之を久うして始めて深谷に墮つ……」と記している。

現在の祭神は稚産日命他四柱で昔から防火の神社として知られている。古来貞参りの代表がお札とお花(穂)を授かって帯り町内各戸へ配ったといわれている。現在も穂を手にした登山者が多い。

境内に二千回、二千回登山達成の碑がある。「お伊勢へ七度 熊野へ三度 愛宕さんへは月参り」といわれているが、千二千、三千の登山はすばらしい。下山路は月経寺経田の裏参道をとる。表参道に比較して木末の登山道らしくなっていて道は細いが、変化があって歩きやすい。歩き始めですぐの巨岩の上に立つと眼下に





月輪寺

保津川と嵯峨野の町並みを見ることができた。

月輪寺は昔も上人修行の地として知られている。お堂の前に豊富な清水が流れていて、汗まみれの手足を冷たい水でぬぐうことができた。老女が一人堂守りをしていて、「鎌倉山月輪寺「阿彌陀如来」のお札をいただいた。この地はまた法然上人二十万霊地の第十八番の霊地ともなっている。梨ノ木谷と大杉谷の分岐まで長く感じら

れた。大杉谷にある空也庵は石燈を見ただけで梨ノ木谷沿いの車道を歩く。瀧川沿いの車道に出ると高嶺山方面からの観光客が多い。
金沢橋を渡らず、瀧川の茶店の間を進み瀧川を渡り、バス停からタクシーに乗り、民宿に残った荷物を受け取ってからJR嵯峨駅に向かった。
(平成8年6月7日歩)

△参考タイム▼

表参道一ノ倉屋8・50一十七丁白茶屋8・53
9・00一五合目9・24一9・40一七合目10・00
一水尾分岐10・50一11・05一愛宕神社11・20
一11・40一月輪寺12・35一12・45
一梨ノ木谷林道13・45一瀧川バス停14・25
△地形図▼2万5千Ⅱ京産西北部



優雅な正円錐形の山

かいもんだけ 開聞岳

国民宿舎「かいもん荘」に旅装を解き、薩大風呂に入る頃になると、さすがの南国の豪雨もなりをひそめてきた。薄暗くなり始めたとはいえ、薩大風呂から見上げると待ちこがれていた開聞岳がようやくくっきりと現れた。さすが薩摩武士と呼ばれるだけあって、まさに薩摩武士の偉容を見せつけるがごとく九州最南端の岬辺の真横にその勇姿の全てを現してくれたのである。

薩大風呂から岬辺に出て眺めれば、小さいながら富士そのものである。日本全国津々浦々に何々富士と名のつく山は多いが、これぞまさしく富士山の小型コピー、ナンバードンである。

深田久弥氏の著書「日本百名山」による

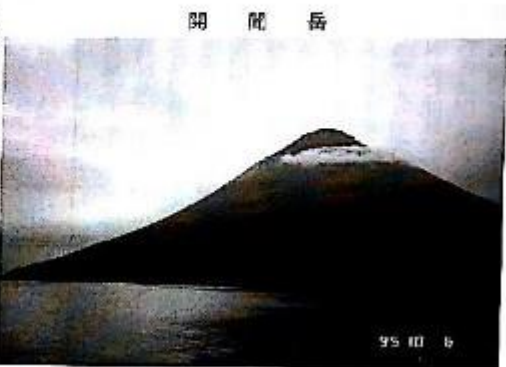
田中 誠

南九州

と、いきなりその全身を海岸よりせり上げてこれほどまで完璧にその斜面のほとんど全てを直線にて山の頂上に向け、これほど奇抜なる山は日本全国のいかなる名山、低山を問わずに何処にもない。

開聞岳は枚聞岳とも、また海門山とも呼ばれていたそうである。深田氏が戦後上海よりの船遊船の上にて、初めて見た本土の山がこの山のことである。開聞岳をしばし見つめて落涙の感に耐えなかつたとか。深田氏は落涙に噴んだかの山を百名山に選出した。

だれが見ようと、だれが百名山を選出しようとも、その一つに必ずやこの開聞岳は選出されるであろう。それほどにすばらしい。



開聞岳

く優雅な正円錐形の山である。しばし薩摩大風呂から出るのも忘れ、夕闇の中に静かにとけ込んでゆく開聞岳に我を忘れていたのである。

ここの温泉は黄土色で硫黄の臭いが非常に強く、温泉特有の温泉臭がある。底に岩を敷き詰め、藤で海岸との間を仕切ってはいるが、沖に係留してある漁船を眺めながら、のんびりと薩大風呂に入っているのはなかなか乙女ものである。道中の疲れがいっ

低山登山～本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイクの全日産で更に増強します。

とスキーのヨシミ

JR天王寺駅 北出口右へ 歩道橋渡ってスグ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70 TEL06(772)7231



小休止の後、また登り始める。行けども行けども同じような南国特有の樹林帯が続く。登山案内書にあるように、左、左と少しずつまわるとゆっくり、ゆっくり高度を稼いでいるのが、あたりの木々の変化から分かる。

以前、この山に登った岳友が、左、左と急激に変わるものだから、目がまわりそうだと書いていたのを思い出す。八合目あたりからは、ユロゴロした岩場が目立つようになっている。火山岩特有の岩に苔がいっぱい付いている。先ほどまでの雨でかなり滑りやすそうな感じの道だ。慎重に足を乗せ、ゆっくりクリアする。ただ、ありがたいいことには、木々の枝が道すじにはどことなく

のびており、それをつかみながらゆっくりと登れた。

岩場をクリアしたあたりからホトトギスの花が目立つようになってきた。かなりたくさん咲いているのは驚かされた。いつも登る京都の愛宕山では、たしか9月頃にしか咲く花なのだが、はたしてこれが南国の花かといふかりながら、可憐で名前のごとく優雅なものの悲しげな花に見えなから、なんとなく遠慮を稼いだ。八合目を過ぎると、火山特有の岩場もようやく終わり、九合目の標高にたどり着いた。

ここで今までの疲れが、いっぺんに吹き飛んだように感じられた。足の先から頭までツペンまで、さながら大バノラマの真ん中に立つがごとく目の前に、雄大な薩摩半島の秀姿がいきなりドカンと姿を現したのである。池田湖を望み、大平原が木々の間から、目の前に大きく広がったのである。

九合目を過ぎてからは、麓の景色を眺めながら、足場地に気をつけながらの急登となった。大げさな表現で言うところ、まるで急傾斜地にぶら下がっているような感じがしていたが、崖筋は木の根っこがしっかりと張りつており、つかみやすい背の低い笹も多く、

道もよく踏まれていて心強かった。早下ろせば登山口の公園の様子も手に取るごとく分かるようになってきた。これれようやくこの山を一周したことになる。最後の岩場をロープを頼りによじ登り、笹の間を通り抜けると、そこは開闢岳の頂上であった。夜間神社の分社社である奥宮、権現神社におまいりし頂上の大岩に立つ。9時ちょうどであった。

深田久弥氏の「日本百名山」のうちの九十九番目、標高922mのこの開闢岳頂上である。深田氏が百名山選出の基準は標高が1500m以上を一応の目安としたと聞く。この山と関東にある四十四番目の筑波山(標高976m)のみが例外となっている。この山のすばらしさが深田氏の目に強く焼きついたのであるかと思われた。

大岩の上に立ち四方を見渡す。目遣すかぎりじゃまものは何もない。円錐形の山の頂上には、誰の先に立っているような感じがある。ここからの眺めは見れば見るほどなるほど百名山だとうなづけた。このことは開闢岳に登った人にはしか分らない、とひとりで納得したのである。

頂上の大岩の横には、皇太子殿下が御成婚前に登られた時の記念のプレートが打ち

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 北アルプス絶頂 | 34 須賀山 |
| 2 白馬山 | 35 新白出羽三山 |
| 3 飯倉嶺・黒部湖 | 36 霧ヶ峰山 |
| 4 駒ヶ岳山 | 37 霧王 駒ヶ岳山 |
| 5 二重峠・徳兵衛 | 38 栗駒・早池峯 |
| 6 栗駒高原 | 39 八幡平 霧ヶ峰山 |
| 7 霧ヶ峰山 | 40 十和田湖 霧ヶ峰山 |
| 8 中央・南アルプス絶頂 | 41 二七コ・羊蹄山 |
| 9 木曾駒ヶ岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒ヶ岳 | 43 白山 |
| 11 碓氷・赤石・聖岳 | 44 霧山・伊吹・駒ヶ岳 |
| 12 妙高・戸隠 | 45 御在所・旗ヶ岳 |
| 13 志賀高原・草津 | 46 比叟山系 |
| 14 軽井沢・沢間 | 47 京北七山1 |
| 15 西上州・妙義 | 48 京北七山2 |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰 | 49 京北七山3 |
| 17 八ヶ岳・御科 | 50 北穂の山々 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 六甲・駿東・西馬 |
| 19 箱根 | 52 箱根高原・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 赤石山・赤石山 |
| 21 丹波 | 54 紀伊高原 |
| 22 高尾・陣馬 | 55 両義野 |
| 23 大菩薩温泉 | 56 大菩薩山系 |
| 24 奥多摩 | 57 大菩薩・大菩薩・高尾山 |
| 25 奥武蔵・秩父 | 58 赤石・奥武蔵高原 |
| 26 奥秩父1 奥秩父山 | 59 水ノ山 奥秩父 |
| 27 奥秩父2 奥秩父山 | 30 大山・霧山高原 |
| 28 谷川原 奥秩父山 | 31 四国山系 |
| 29 霧峰三山 奥秩父山 | 32 石碓山 |
| 30 尾瀬 | 33 尾瀬の山々 |
| 31 日光 奥秩父山 | 34 九蔵・阿蘇 |
| 32 那須・塩原 | 35 那須・旗 |
| 33 那須・那須・奥多摩 | 36 奥多摩山系 |

昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年巻頭発行されます。この山行の名はなるべく最新版をご利用くださいませようお願いたします。

昭文社の「山と高原地図」への御質問・ご意見がございましたら、本社編集課(山と高原地図)担当までお気軽にお電話ください。また新情報をお知らせいただければ幸いです。

昭文社 株式会社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 〒102
電話03(3262)2141(代)

支社 大阪府大阪市西成区中島6-11-23 〒532
電話06(303)5721(代)

営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・茨城・立川
名古屋・東京・京都・広島・福岡

べんに取れた気がした。道路を踏めた向かい側の建物には温泉プール付きの浴場があり、地元の人たちが洗面部片手に大勢入っかけているのが見えた。すばらしい温泉に近まられた地元の人たちがうらやましいかぎりであった。

おいしい夕食をいただき、あす登る開闢岳の頂上を夢見ながら、早めに就寝した。

翌朝5時、荷舎を出て登山口の開闢山麓自然公園に向かう。公園事務所前の広場に駐車し、明るくなりかけた山頂を見上げるが、夜半にやんでいた雨が再び降り始めていた。昨夜のうちに用意してあった朝食

を食べながら、頂上を何度も見上げるが、上空からは雨粒が落ちてくるのみであった。これほど深くの地へ、再び戻るにはたいそうなお金と日時を要する。いかなる大雨になろうとも、「雨の中、登るのは嫌だ」という案内をここに置いてでも、一人で登ろうと思ひ、カッパを穿き、スパッツを掛け歩き始める。案内もだれもいないこのような所で一人待つよりは、一緒に登っていたほうがよいと高い、二人で歩き始める。

草スキー場横の急坂を登り登山口にたどりつく。このころになると雨もころろしか小降りになり、雨にからつき弱いな

を歩かせた。

6時50分、「登山口」と標高のある境のやぶから登り始める。しかし、ここが登山口かと疑いたくなるほどの狭さで、両側からは南国特有のジャングルの木々がおおいにおおまわっている。30分も登るうち、ようやく雨も少しづつ上がり始めた。四合目の標高の所にたどり着く。すこしでも雨が上がるあたりも明るくなる。四合目の大岩の木々の間より南方を見ると、九州最南端の海が目前に開け、薄く見えるそのかなたには、いつの間にか延々と広がるコバルトブルーの海が見えるようになっている。

込んであった。皇太子殿下もなかなかの登山愛好家であり、また日本山岳会の名譽會員でもあり、我々同様に百名山をめざされる。今なる日本各地の名峰を登っておられる。

遠くに目を転じれば、霧島連峰・櫻島の横、近くにはきのう行った長崎県、南側は見渡すかぎり太平洋の大海原。

家内と交互に記念写真を撮り、麓より持参のビールで乾杯し、しばし開闢岳頂上からの景色を楽しむ。何處も言うがまるで天界に立っているようだ。九州最南端の名峰とはいえ百名山の中で、私ら夫婦二人のみで占拠した山はいまだかつてなかった。何年か前に、久住連峰の大船山に登ったときも、平日といえ頂上に3、4名の登山者がいた。今回だけは、この名山をまるごとふたりきりで占領している。頂上で40分程休憩していたが、時間的に早かったのか早朝の雨に怖じ気づいたのか、だれも登っては来ず、それはそれは静寂な山頂であった。

山の景色も山の静けさも十分に堪能し、「山よ、お山よまた来るまで」と歌いながら下山を始めた。なごり情しくはあったがいつまでも眺めてもおおられず、時間に追われるようにして、不承不承山上を後にした。

た。

くだり始めて八合目あたりで、熊本のパイティと出会った。今までは静かすぎて寂しいくらいだったのだ、どなたと出会うとそれはそれでなつかしいものである。聞けば、前回登った折はガスで何も見えず、再度の挑戦とのことであった。景色はいかがでしたかと聞かれ、私たちはこんな最高の景色は初めてだと答えた。しかし五合目あたりでまたもやガスがかかり始めてきた。五合目を過ぎるころから、二々五々として来客人がいた。しかし私がいつも登っている近隣の山々に比べると、登山者の数は圧倒的に少ない。思いだして数えても20人にも満たないのでないかと思われた。

11時ごろ、登山口までくだり、頂上を見上げると、案の定八合目より上はガスがかかり、何も見えなくなっていた。先ほどすれ違った人たちは、私が見たようなすばらしい景色を堪能できたのだろうか。ま、それぞれの登山者の運不運、また、山それそれにもよるが、きつと山の神様が遊方から来た私ら夫婦に、ほんの少しだけサビラスしてくださったのだろうと感謝した次第である。

開闢山麓自然公園の道を通り抜け、かい

一年後に実現した山行

三ノ峰と別山

三ノ峰の避難小屋に泊まって別山を眺める山行の計画を所念したのは、一年前の10月末。その月の初めの中央アルプス行きの越前小屋で、突然の体調不良に陥り、たいへんつらい思いをしてからあまり日が経っていきなかつたので、同行の方々にも迷惑をかけるのではないかと心配になり、日帰りの奥美濃花山山行に変更することがあった。それ以降、三ノ峰は心に残る山となった。そして一年経ち、今年も10月を迎えようとした頃、若井さんより三ノ峰行きの計画が持ちあがったものだから、もう心は三ノ峰から別山半の高みに舞い上がってしまったのだ。一度は地図を広げてあれこれ計画を立てたことのある山は、機会が巡っ

松田敏男

白山

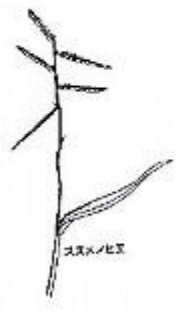
て来たなら、もうまわりは見えない。そんな心境でこの日を持った。別山という名は、全く山に失礼なほどぞんざいなつけ方だが、白山の別山はすばらしくカッコいい山である。白山の優美さに対峙するまうな別山の雄大な表情。特に雪をまとった時の、西面のヒマラヤ級のような雄姿は、本降にすべつたりあえる堂々とした風格。四曲一雙の屏風絵のごとく、またお互いが相色関係のように美しく響き合うさまは、たとえもうない魅力を感じている。

その別山には1992年の晩夏に登っている。それは雨竜ヶ岳からだった。別山の稜線上は西面の殿めしい壁などとは別

三ノ峰避難小屋より朝の別山



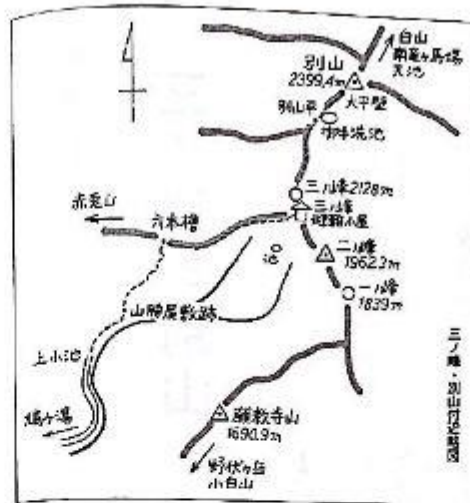
世界の、天上の楽園であった。ほっかりと水面に大空を照り写している天池は、いつまでも佇んでいたい仙境だった。そしてたどり着いた別山の山頂から南側を俯瞰すれば、緑色の広い平の中に夢みるように池がひとつ光っていた。あれが別山で、あの光っているのは御手洗池。次はあの美しい所に行こう。慌ただしく別山の山頂と別れても、その清らかな光景は脳裡に焼きついたままだった。



- ちん山麓ふれあい公園にて暫休、車で山を後にした。途中池田湖の湖畔にて、今登ってきたばかりのガスにけむっている開闢岳を眺めながら、おいしい昼食をいただいた。
- 薩摩半島を後にし、次回来るときには必ず登るつもり霧島連峰の麓、霧島温泉にて汗を流し宮崎へ向かった。
- (平成7年10月7日歩く)
- ▲コースタイム▼
- 開闢山麓自然公園(1時間30分) 開闢岳
- (1時間) 開闢山麓自然公園
- ▲地形区▼2万5千開闢岳
- 5万開闢岳
- ▲宿泊▼
- 国民宿舎かいもん荘
- CGC2(32) 3151

そして今回、岩井さんの車に乗せてもらって、一軒宿の岫ヶ池の奥の上小池キャンプ場に着く。すでに真夜中。テントを張り、ビールを一杯飲んで眠る。土の上での安らぎに眠りは深かった。

朝はうっすらとした霧。今日は晴れるぞ。霧の上には、すぐ近くまであたたかな日差しが広がっているようだ。ひと登りで広場に出る。山腰に散居と呼ばれる所だ。青いシルエットの山並みが直線的に見え始めている。手前の大きく丸く盛り上がっている



三ノ峰・別山の地図

のが願教寺山。その右がモ太郎山。いくつかの山が重なっていて、その奥の大きいのは野伏ヶ岳だろうか。直線から少し右にはずれた、燦やかな峰は小白山。いい所に来たものだ。すがすがしい秋の朝の逆光のシルエット。

ジグザグに登りければ六本槍に出た。前に見える高みは別山か。これまでに眺めてきた山よりも高山的表情が立派だが、別山よりまだこのあたりの標高は低そうだ。草もみじの赤茶色の山肌が朝日を受けて、コクのある秋の色になっている。

六本槍は三ノ峰から赤兎山への稜線の一角。赤兎山への道も整備され、楽しい稜線歩きができそうだった。

ひと休みしたあと、東に向いてゆるやかな登りを続ける。特異なドーム状の願教寺山がだんだん後方の山と重なって、その存在が薄れていくにつれ、左側に見え続けていた赤茶色の山肌の尾根の向こうに、白山木峰が見え始めた。少し遠いからか、抜きんでているような高さには見えない。奥味しい白山の姿だ。

前方には三角影にすどく突った山が見える。これは三ノ峰の南尾根上の一突起だ。一ノ峰や二ノ峰の麓のドームが美しく光っている。その手前の谷あいの笹原には小さな池がひとつ、これも静かに光っていた。誰も行かない道のない池、いつの日か行ってみたいという衝動にかられながら、その光景を眺めていた。

左手の赤茶色の山肌も出る尾根の一角に見えるようになると、その右側に別山が姿を現した。やはり大きかった。風格のある三角形だ。ゆるやかに左へ回りながら登りつめると避難小屋に着いた。小屋の中は広くて、板の間の上もきれいなほうだった。普通に寝ても15名くらいは泊まれそうだが、今夜もゆつくりできそうだった。泊まり場が確保できたから、あとは気軽に別山を往復するとしてしよう。

別山の南側の太平洋という岩壁の周囲の草付き斜面は、もう冬枯れが始まっているのだろうか。岩の色と同じで連続した肌合いになっている。夏の写真に見るような緑がないから、別山の三角影は、想像以上に高山の気風を大空に突き上げている。

白緑に光る種の海のゆるやかなスロープにナナカマドの赤い実の点滅、その上に別

山の雄大な三角影。うっとりとしながらの破綻散策。別山平に登れば、ハイマツの大きな広がりが見渡せ、右奥に御手赤池があった。池のほとりに立つと、逆さ別山を水面に写した光景に出会えた。それは涼としていて、深い孤独感を宿していた。

二重目の別山の山頂に立てば、それまで途切れながら見えていた展望が、一気に360度の大展望となった。北アルプスは白馬岳・御手赤池が雪をつけて白く、天を突く



別山から白山を望む

御手赤池、これまた山頂付近を白くした立山、ぐっと大きく高師岳と続き、槍・穂高連峰に、おおらかな稜線が、そして御岳、その右奥には中央アルプスの空木岳・南駒ヶ岳、そのまた右奥には南アルプスの悪魔岳・赤石岳・御岳が望まれた。

白山木峰は優美な曲線を描いて、北方の展望をすべておおいかくしていた。その左下の隅で、この6月に登った白山沢連岳が確認されるのを待っているかのようだった。逆光きみの南方に目をやれば、平家岳と熊野白山の間にある三角形の屋敷山があった。その右には薄い青色の丸や蕎麦畑山もあった。

小屋に戻ると、7、8名のグループの酒盛りが始まっていた。私たちのあとから単独行の人、夫婦連れなどが続いて入ってきて、15、16名の、ちやうど空の空の時に考えた、体をのぼしてゆつくり眠れる最上層の人数になった。食事を済ませれば早めに眠るといのが大方のルールだが、酒盛りの団体はわれ閑せすという状態が続きそうに思えたので、大声で寝る場所を決めようと思案した。他の人たちが寝袋に入っても懐中電灯を頭上に照らしたまま酒を飲んでいるので、もう消しませうかと言っ

みた。予想通り暗くなった遠景、大いびきの合奏が始まった。

朝のすがすがしさをわざわざかばかり、うずぼんやりとした別山が眠たそうに見える夜明けだった。あきらめてカメラをしまいかけた頃になって、薄い雲の切れ目から朝日が差し始めた。斜めから日差しを受けた別山。これですべてと平面上に見えていた三角影が、縦に彫りこまれたように俄然深みしてくて立体的な表情となった。その時だけ青空が広がり、それはそれは実に神々しかった。

下山はリンドウの花を写しながらのんびりとした。満足できた山旅の締めくくりとして、岫ヶ池の情景あふれる宿の温泉に入り、湯舟にゆったり手足をのぼした。

(平成7年10月7日〜8日歩く)

- △コースタイム▽
- 上小池キャンプ場(4時間30分)三ノ峰避難小屋(3時間)別山往復(3時間30分)上小池キャンプ場
- △地形図▽昭文社「140白山」

人気の岩山から寂峰へ

乾徳山から黒金山

阪本健治

奥秩父

富士山と乾徳山（笠巻山の途中から）



富士山と乾徳山（笠巻山の途中から）

富士山と乾徳山（笠巻山の途中から）

40数年ぶりという岳友二人と20年ぶりに多少長閑だが乾徳山から鞍掛黒金山、大夕オから東奥山脈を歩いてきた。
トリオの年齢を足すと1995歳、すでに中高年の域に入っている年齢だが、山脈で一泊なのでそれほど無理な計画ではない。もちろん異議が出なかつたわけでもないが、「頂上に着いた時点で体力的にも、時間的にも厳しいと感じたら巻き道をつくると」という条件で納得させた。

20年ぶりで今浦島の心境

に出た。

麻かれてくるこの頂上直下の岩壁
頂上直下の30分ほどの壁は写真でよく見るせいか、頭の前側にあった。だが登山者が多かったため、取り付きの岩は研削機で磨いたようにつるつる。クサリを頼りに強引に登れば後はスタンス・ホールなど快適で、クサリを使うほどのことはない。その壁の上が2016分の乾徳山の頂上だ。ベース快調、ピッチが上がりが9時55分到着。週末だからそれほどあるまいと思ったが、すでに20、30人が思い思いに悠遊していた。奥秩父の前衛的な存在のこの山は、お隣り

御新集落の先の登山道入り口に車をアライ30分遅れでスタートする。浅塚地を抜け珠道に出るとわずかで鍋湯水、次のポイントで休もうと駒止に向かう。10年ひとひかしというが、ふたむかしでは初めて来たのと同じ。全然思いだせない。駒止でひと足先に山頂した鈴鹿市から四郎であるという中年の単独者を抜き、落石帯を左へ巻いて登ると鍋湯水、あまりおいしいとは思わなかったが水筒に補給しておく。

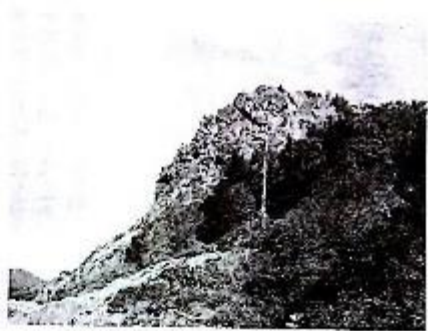
の大岩壁連綿とともに人気のある山で、お天気だと人口も多い。
以前は殊剣がありその前で絶頂まで登った記憶があるが、いまは小判だけだった。北に笠巻山、その上に黒金山から大夕オへの稜線、その後ろには奥秩父主脈の四郎ヶ岳から金峰山、北から東に向けては甲武信ヶ岳から飛龍山、東には倉澤山、大笠山、新道、その背後に奥多摩の三頭山も望まれる。南には三ツ峠山から駒坂の山、富士山、甲斐駒ヶ岳と栗駒山から北岳・間ノ岳・膳所山と続く南アルプスと、眺めは抜群であった。



軽く二層目の朝食をとり、往路をくだる。あす大菩薩に登って帰るといふ鈴鹿の人と別れのあいさつを交わし、小さな鉄梯子をくだって黒金山に向かう。
岩壁からコマツガ・シラベの樹林帯になると、国障ヶ原にくだる水ノタルだ。乾徳山までアサヒヒール丸い道標①から⑤までが続いていたが、②からは水ノタルを起点に黒金山まで⑥を刻んでいる。また新たにY.S.Kの赤い角道標もスタートする。

空と境界をなす稜線の下に、豆粒のように登っている数人の登山者が見えた。
「願平への急登は、あせらずのんびり登る。登頂とピッチがあり、湖で休憩中の三人を抜き登頂し、雨乞岩などを越してコマツガ林から雷帯の岩場となる。それほど垂直のクサリ場に出る。異口同音「こんなの、あったかなー」仲間一人はクサリを使ってのゴンボ登りだ、私は右にトラバースしリッチを左に斜登する。簡単に岩の上

奥秩父特有の幽玄の世界
ベンチのある小さなピークを越え、連続して三つの小ピークがあり、最後のピークに「乾徳山1」・「黒金山1・6」の道標があった。
しばらくすると大岩となり岩壁じりの屋根になる。ふり返ると乾徳山の右に富士山が、五六日あたりから下を雲に隠し浮かびあがり、絵になる眺めだ。
この付近は乾徳山の頂上からも見えたが、広葉樹が多く紅葉が早かった。再びコマツガ・シラベの樹林帯になる。乾徳山までは明るい山境だったが、乾徳山以北はコマツガ・シラベが主体の樹林帯で、しっかりと奥秩父特有の幽玄の雰囲気が漂っている。そろそろ笠巻山では……”と思いつながら登って行くと、判読できない水坑の立つ小幸地に出る。笠巻山かと思ったが、10分ほどで西側が開けた正真正正の笠巻山2の笠巻山であった。
乾徳山から進むと、ドーム状のこんもり茂った黒金山の下に、白く立ち枯れの一角と東側に溶けた方池のようなところがあったが、ここからはすぐ上に見え、ガレ場ではなく夜桜跡のようだ。Y.S.K標識はプラスチック板から錆が出た鉄板に変わり、概



乾徳山を望む

して間隔はベタベタ。アサヒビールの丸蓋は長い間隔で、見落としたのかも知れないが、欠落したのも多いように思えた。

奥秩父主脈のビッグ四峰が並ぶ笠原山頂から樹林帯に入りしぼくするとシヤクナゲが現れ、岩肌じりの低木帯になった。再び樹林帯になり今まではじつとそうとした空気がになると、しばらくしてさまざまな道標の立つ大ダオ分岐。黒金山の肩である。ここにザックをデポして頂上

に向かう。

急な朽ちかけた丸太の階段を登ると、「西沢谷分岐跡まで4.5km」の道標が立ち、左へやぶっぱい踏み跡を入ると、平たい球状岩を敷きつめたような黒金山の31.6峰の山頂であった。

頂上は北と西側が開け、後の二方は低木化したコメツガ・シラバヤシヤクナゲなどがおおっている。その低木をバックに西に向かつて大きな山多層帯が立ち、その下に押さ上がった形で三角点標石があった。跡めは眼下に西沢谷の深い谷を隔てて北沢千丈岳、国師ヶ岳、その右に甲武宿ヶ岳、左には笠原山と奥秩父主脈のビッグ四峰が並ぶ。ただ残念なことは、国師ヶ岳の腹を切り裂くように建っている林道で、痛々しい感じである。

【村に戻り昼食をとって大ダオに向かう。YSSA標識は70を少し、アサヒビールの丸蓋標識はここを記号に乾徳山登山口まで⑧を刻む。

不明瞭なスタタケぎ

コメツガ・シラバの茂る薄暗い道をゆるくくたって行く。はじめはコースを示す針金やトラロープが木から木へ渡りあつた

が、深いスタタケを泳ぐような道になると次第に不明瞭になる。ルートを見失わないよう注意を払いながら歩く。それに加えて足元には、倒木、段差を右など踏まれ、たびたび転倒したり向こう橋を打ちついたり、手探りならぬ足探りと、足元にも注意を払わなければならぬ。踏んだら足が痛む。また倒木は下ばかりではない、踏んだりよじ登ったり、体力的にも大変だ。

笠原山から分れてきた鮮やかなモスグリーン色の笹の叢に出た。くだるのかと思つていたが誤りで、地図を見ると傾斜がゆるみ平原樹状になって、大ダオから小さな支線が張り出し、これをくたるとなつていく。

大ダオから絶品・秀麗な富士

笹原で大の字になる。いい気分だ。乾徳山では澄み渡ったまっ青な秋の空であつた

が、だいたひきが出てきた。それにしてもまぶしうは寒い。黒金山の肩ではチラチラと小雪が舞った。少し休んでいると身体が冷え込んでくる。

こんもりと大きな突起となった乾徳山が左に、正面に秀麗な富士山が雲の上に浮かぶ。富士山と呼ばれるだけのことはある。背後には奥秩父主脈の山脈が大きく望まれた。

昭和30年代に徳和から大ダオに登って、大南群から西沢谷にくだり、京の沢の登山道から天狗尾根・国師ヶ岳に登る計画を立てていたが果たせぬままだった。大南群へくだる道など見当たらなかったし、樹平方面からの林道ができた今日、こんな樹平がりのルートなどやる人もいないだろう。私にとってまさに久遠の峠道でもあつた

大ダオ。去りがたいが、いつまでもここに居るわけにはいかない。若るの南斜面を小さくジグザグに急下りして、再びスタタケの道に突入。左へトラバースぎみに樹林帯に入る。東栗山連の登山道は樹林帯に入ってから不明瞭になり、スタタケの深い茂みや樹林帯の中で、丸標識や赤エフ、赤エフが色あせ白くなったものを、拾い捨いの行動となる。アサヒビールの丸蓋標識の付て、また水場を過ぎると、たびたび道を見失つた。

小さな沢を渡って右岸沿いにくだると古い木道道が現れ、飛び石伝いに岩壁に渡ったり、左崖だ、右崖だと忙しく何度も渡り返して行く。建設中の砂防堰堤に出る。ここからは上野市の林道となり、徳和沢谷探勝路入口を過ぎ、長尾ノ池を見ればわず

かでスタート地点の乾徳山登山口であった。ジャスト16時。予定通りの時刻で着いた。こうきついで一日であった。

この日は徳和で泊まり、翌日は朝刊社のエリアマップ「大笠原連嶺」の再調査旅行を予定していたが朝から雨。再調査は後日に譲り帰途についた。

(平成7年10月7日歩く)

▲コースタイム▼

- 乾徳山登山口(50分) 観音水(25分) 駒止(30分) 観音水(10分) 国師ヶ岳(30分) 樹平(25分) 鹿刺岩(20分) 乾徳山(1時間) 笠原山(50分) 黒金山(40分) 大ダオ(20分) 水場(1時間20分) 登山口
- △地形図▼
- 2万5千円 金峰山・川浦 20万1甲府

近頃の山日帰り沢登り 中庄谷 直著 百回 章著

重版出来

発行部数 3200部 2000部

京阪神から日帰り、初心者や中高年者も無理なく楽しめる沢を厳選して詳しくガイド

若狭・湖東・比良・鈴鹿・白鷺・大津・金剛 和泉・高野・播州高原ほか 全21コース収録

兵庫丹波の山(10) 慶次新一 各2000円

京都北山を歩く(1)②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺) 澤 淵 各19000円

鈴鹿の山と谷(1)②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺) 西尾 寿一 各20000円

京都滋賀南部の山 肉田 嘉弘 20000円

近江 湖北の山 山本 武人 20500円

奥美濃ヤブ山登山のすしめ 高木 泰夫 20000円

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2 京都部 075-751-1211 〒606

石見の旅・古跡を訪ねて

島ノ星山と浅利富士

山陰



多摩雪雄

えたし、八雲立つ風十記の丘の諸難役の充
実ぶりにも感じいった。

棒の里・島ノ星山

JR山陽本線小郡駅でレンタカーを出り、
山口市から北上して山陰の須佐町に出た。
そこより名所古跡を訪ね、一等二河急流に
登って、中日に石見常々油(糸田市下町町)
の国民宿舎・千鳥寮に宿泊する。

ここは石見国分寺跡。同寺瓦葺跡がある。
尼寺は無残な荒れ様であったが、木造大部
像群とクスノキやタンノの自然林の多陀寺と、
下府院寺跡や立派な安国寺跡等と巡って
から、NTT島屋無線山終所内に駐車し
た。

本日の日玉、島ノ星山は棒の里として三
万石方計の地に、七か月もの間花を築しめ
るように世界一の標の変化する。如神を遊ん
で植栽してある。地元での名称の高角山が
正しいのであるが、島ノ星山という名の通
り中腹に巨大な足跡を造成して、格好の日
標となっており、夏の二か月前はライトアップ
して江津市の夜を彩る。

頂上まではほんの一握りで、やや狭長な
草地の頂上には、冊で囲まれた一等三角点
標石が西側の土丘を欠損しているとはいえ、
きれいな顔を見せている。案内図もあり、
四圍の眺望は抜群であった。

登ってきた砂利車道をくたててミニロル
フ自動車の入丸神社(祭神は神本人猿彦)の前
には、彼の五巻の歌二石見のや高角山の木
の標ゆ我が振る袖を味見つゝむか」の歌碑

神の国・松江

山陰の旅を思い立ってから幾年も過ぎた。
十数年前に隠岐全島を探訪した時には、松
江は雲通りしてしまつた。数年前の島根半
島全山探訪の時は、去留瀬北岸の松江神社・
小栗八雲旧宅・武家屋敷と松江市の主要
部は観光したし、出雲大社周辺もくまなく
訪ね歩いた。

この年の一週間の山陰の旅最終日は、念
願の古郷の南の車跡を探訪できた。ことに
兼盛崎と稲田姫のまつられていた八重垣神
社は、和合の神とあって陰陽物が各所に鎮
座し、いやさか社柱なるを祈った。

また国分寺跡や広大な国分・區分寺
跡の巨大な礎石の配列にも深い感嘆をおぼ

がある。トイレもある草地で昼食をとった
が、蚊が多いのは閉口した。

頭の良いこの婦人は、ゴルフ場の休憩所に入
って涼しい顔で弁当を広げ、管理人夫婦
と何やら話し込んでいる様子であった。

向かい側には麗麗なレストランがある
のだが、この日は店を開けていない。

私はといえは、後場より送付された資料
に「食堂あり」とあったので弁当の用意を
怠り、皆より割愛してもつたのでかえつ
て多彩な食事となった。リーダーらしくら
ぬ不心得な所業だったが、常備品の弁当食に
は三をつけていない。

浅利富士(玉神山) 浅利小富士

江津市松川町の島根県松川少年自然の家で
下車したのは12時ジャスト。メルヘン村入



り口から指標標をたどって、少年たちと旅
きご抜かれた、オリエンテーリングコース
やジャングルジムルートに誘われ、本来
の登山道から外れてしまつて50分のロス。

少年自然の家の大奥に山猪コース出口の
指標を見て、狭いコンクリート歩道に入る。
途中から地盤コースに変わる赤松千塚の原
生樹林帯には、寂しい伝承のある「壱さん
井戸」を右手に過ぎ、人工林帯生する山嶺
近く明るい小池をゆつくりと斜上する。銀
物の基礎らしい高みに出ると日面に写える
一帯が高仙地蔵堂で、無作だがサクシの戸
は閉けられていて祭壇には燈明が灯されて
いる。

一帯の地蔵の一体には弘化五年(184
8)銘があり、別祭壇は毎月二十四日である。
その建物の正面にある次道筋に、宝神山と
等三角点標石が設置されたコンクリートの
中に埋定されている。狭い頂部には身大
の石造地蔵尊や各種の石像が配置されてい
る。森林に囲まれているが、北東方だけは
開けていて見晴らしはよい。

地蔵堂が毎朝早くから登つてくるらしく、
燈籠修繕されていてちりちりとなか(気持ち
よく快遊できる。90分経過後は14時50分に、

ドライブの秋行と稲葉はひと足先に引き
返した。残りの10余名はサブリーダーの小
幡に先導されて北方への階段をくだり浅利
町極楽には15時20分に着いて、二台のジャ
ンボ(ワゴン車)を持っていた。
(平成7年9月初旬抄)

△コースタイム(文中を参照)
△地形図(1)5万1頂田・瀬原津

以下この旅で探訪した一等三角点標と①各
所、②最寄駅、③照会先、④宿所、⑤方園、
⑥標・良・可を記しておく。
⑦標・良・可を記しておく。
⑧標・良・可を記しておく。
⑨標・良・可を記しておく。
⑩標・良・可を記しておく。
⑪標・良・可を記しておく。
⑫標・良・可を記しておく。
⑬標・良・可を記しておく。
⑭標・良・可を記しておく。
⑮標・良・可を記しておく。
⑯標・良・可を記しておく。
⑰標・良・可を記しておく。
⑱標・良・可を記しておく。
⑲標・良・可を記しておく。
⑳標・良・可を記しておく。
㉑標・良・可を記しておく。
㉒標・良・可を記しておく。
㉓標・良・可を記しておく。
㉔標・良・可を記しておく。
㉕標・良・可を記しておく。
㉖標・良・可を記しておく。
㉗標・良・可を記しておく。
㉘標・良・可を記しておく。
㉙標・良・可を記しておく。
㉚標・良・可を記しておく。
㉛標・良・可を記しておく。
㉜標・良・可を記しておく。
㉝標・良・可を記しておく。
㉞標・良・可を記しておく。
㉟標・良・可を記しておく。
㊱標・良・可を記しておく。
㊲標・良・可を記しておく。
㊳標・良・可を記しておく。
㊴標・良・可を記しておく。
㊵標・良・可を記しておく。
㊶標・良・可を記しておく。
㊷標・良・可を記しておく。
㊸標・良・可を記しておく。
㊹標・良・可を記しておく。
㊺標・良・可を記しておく。
㊻標・良・可を記しておく。
㊼標・良・可を記しておく。
㊽標・良・可を記しておく。
㊾標・良・可を記しておく。
㊿標・良・可を記しておく。

研究

ネパールトレッキング必携 ヒマラヤ貧乏旅行おぼえ書

塚元一彦

三週間たったの18万円

新ハイ(妻の)の會長で職域の山の会の先輩が、ヒマラヤトレッキングに行くという。一昨年にもルグララからナムチェバザールを歩いた経験があり、現地の事情に明るい人である。噂を聞きつけた4人が参加してパーティを編成し、3月24日から4月14日の間、ネパール西北部のトレッキングを楽しんで来た。

ルートは、飛行機でカトマンズからポカラを経由してジョムソムまで行き、ジョムソム→ムクチナート→ジョムソム→クトバニ→ゴラバニ→ガンドルタ→ダンバス→ナランコット→ポカラを14日間歩くというもの。本誌誌号かゝる図号にかけて掲載され

た山形蔵之氏のコースを、ほぼ逆に歩いたことになる。蒼天を切り裂く八千層級の白銀の山並みを眺めながらのトレッキングは毎日が初体験の連続であり、折りよく晴間だったシヤクナゲが楽しみを倍増してくれた。因みにヒマラヤのシヤクナゲは幹の直径が1尺、樹高20尺に達する巨大なもので、真紅の花は「ラリーグラス」と呼ばれてネパールの国花に定められている。

ところで三週間もの長い海外トレッキングというと、人は必ず、「経費が高くてついでしよう」と聞いてくる。実は旅行会社のバックツアーではなく、全部自分たちで手配したため、支出は18万円で済んだのだ。内訳は

ムクチナートから見たダウラギリの夜明け



▼航空券 11万7千円(大阪→カトマンズの往復の手前金は33万4千円、格安航空券を利用)

▼トレッキング経費 3万5千円(現地の遊歩社に支給、国内航空券代、ロッジの宿泊費と食事代、ガイドと3人のポーターの口当)

▼諸雑費 1万8千円(カトマンズ・ポカラのホテル代、酒・ジュース代、ガイド・ポーターのチップなど)

▼その他 1万円(ビザ申請料、パーミット

手数料、貴重利用料)

ヒマラヤトレッキングの様式は大別して、荷物を自分で運ぶか、ポーターに持たせるかの二種類がある。さらに宿泊をロッジにするか、テントを利用するかで分かれる。大きなザックを自分で担ぐ方式は若者向きであって、私たちが中高年トレッカーには無用である。

私たちが選んだのはガイド一人、ポーター二人を頼み、宿泊と食事はすべてロッジを利用する方式である。この方式で現地旅行社への支払いは、一日当たり25ドルという料金で済むのだから、物価の違いを推察していただきたい。

もちろんそのためには、現地旅行社と事前の打ち合わせが必要であるが、日本語を解するカトマンズの宿を経由して、フアクシミりで連絡することで解決した。

因みにバックツアーの場合には「オルガナイズド」という方式のテント山行となるため、キッチンボーイ(調理係)が必要になる。食糧や寝具(マット)・食卓・椅子まで運ぶため、ポーターの数も倍になり、かなり高いものになる。

▼バッテリーはばっちりくない

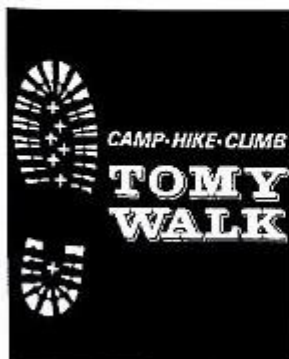
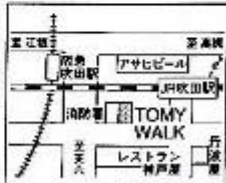
トレッキングに入る前にパーミット(入山許可証)の申請のため、カトマンズでは二泊が必要となる。首都であるカトマンズには、カジノを持つ五つ星クラスの高級ホテルも数軒あるが、私たちがけちけちトレンジャー向きではない。ゲストハウスと称する宿泊オンリー(バス・送迎なし)の安価な宿泊施設を利用した。私たちが泊まったゲストハウスは、ツイン一室の料金が15、18ドルだから、一人1000円程度というところになる。ポカラではバス・トイレ付きのホテルを利用したが、それでもツインで28、48ドル。カトマンズのゲストハウスと提携していて割引があるため、一人10ドルで済んだ。

トレッキング中はバッテリーというロジャリ兼茶店に泊まる。ジョムソム街道は古来インドとチベットの交易の道であり、多くの商人や運送業者が往来するため、集落ごとに必ずバッテリーがある。一軒は5室から30室程度、ツインで一泊ルビド前後(ヘルビーは物々しい)。6、10平方メートル程度の部屋に相模な木のベッド二台が入っており、ベッドにはマットと枕の用意がある。したがって寝袋が必要になるが、私たちの場合はス

世界最高のフリクション性能
FIVE・TENのトレッキングシューズ
(¥14,000～¥19,000)

クライミング専用シューズと同じゴム質を使用。滑りません!

営業時間 12:00～20:00
定休日 月・火曜
吹田市内本町1-23-7
TEL 06-319-0597



リーシーズン用で上凸だった。因みにネパールは北緯25度〜30度の間、ほぼ赤道と同緯度で亜熱帯に属している。3〜4月の日中は30度近くまで温度が上がるが、内陸部のため夜間は10度以下になる。温暖帯のためセーター・フリースは必需品、それにシュラフカバーもあったほうがいい。

パッティの客室はけっこうきれいとは言えないが、日本の夏山の山小屋の混雑を思えば、眠るのに十分なスペースを確保できるのだからありがたい。心配していたノミ・南京虫・蚊は一度も現れず、衛生状態は思ったよりよかった。

都市には電気があるが、トレンキング中は一掃を除いて電気はない。客室のロウソクはパッティが用意してくれるが、トイレが屋外別棟になっている場合が多く、ヘッドランプは必需品ということになる。(一部の村では水力発電や風力発電が行われていて明るい宿もあった)。またどのパッティも「ホットシャワーあり」の看板を掲げているが、太陽熱を利用した温水をホースで引ただけのもので、ぬるいうえにすぐに温がなくなる。まず使えないものと考えたほうが賢明である。もっともネパールの気候は程度に乾燥しているため、汗をかいても

肌がべたつくことはない。バス・シャワーがなくとも、不快感はないと感じなかった(現宿人は入浴の習慣がなく、身体は水で拭くだけだった)。

トイレは屋外に設置して、すべてのパッティがトルコ式水洗便所(汲みおきのバケツの水を小車のおてで流す方式のもの)だった。紙は流せないため、予定の容器の中に捨てなければならぬ(現地の人には紙を使わず、水で身体を洗う)。日本の山小屋の臭が曲がりそうな悪臭に比べれば、はるかに清潔である。もっとも洗い流した汚水がどこに行くのかは、知るすべもないが――。

紅茶とロキシーはミト・チャ

テント宿泊の場合は、自分で作るにしろキッチンポイに作ってもよろしい。持参の食糧を調理し好みのものを食べることが出来る。私たちのようなパッティ泊まりの場合はすべて現地の人と同じ食事になる。その代表的な料理と値段を紹介する。

△朝食メニュー▽

ポリーリッジ・コーンフレックのようなもの。麦とミックスナッツの一種類がある。40〜50 NR S (ネパールルピー)

▼パン類

トースト・バターとチーズ。20〜25 NR S
パンケーキ・ホットケーキ。20〜25 NR S

サンドウィッチ・マト・玉ネギ・卵・チーズなどを挟む。25〜40 NR S
チベタンブレッド・いわゆるナン。集落によって小麦粉と雑穀粉の二種類がある。そば粉製のタカリブレッドは美味。15〜20 NR S

タマゴゆで卵・白玉焼・オムレツ・スクランブルドエッグと多彩。2個分で20〜30 NR S

△朝食・夕食メニュー▽

ダルバート・ネパール料理の定番。ダル(豆乳に味をつけたもの)・バート(米粉)にアチャール(大根と唐辛子の酢漬、おもしろく辛い)とタルカリ(野菜の塩煮)がつく。ダルとバートは食べ放題。50〜80 NR S

ヤキソバ・ヤキニン・スパゲッティ。40〜60 NR S

モモ・キョウザに似ている。集落により大きさと中身(野菜・ポテト・カボチャ・リンゴなど)に違いがある。40〜55 NR S

▼ピザ 60〜70 NR S

ポテトゆでたもの、揚げたもの、ポテトチップなど。20〜40 NR S

野菜・サラダと野菜の塩煮。30〜50 NR S

スープ類・マト・ポテト・玉ネギなど。即席麺はここに入る。30〜50 NR S

朝食・昼食・夕食でも以上の料理の中からいくつかを選んで食べるのだが、味はまずまずというところ。トーストのパンは



ブーンヒルの朝 (後方はダウラギリ山群)

都市部でも極端にまずい。トレンキング中一部のパッティを除いて、動物性タンパクはタマゴしかない。

△飲みもの▽

ホットドリンク・紅茶はこの店にもある。ミルクティが一般的だが、ミントティがうまい。3〜5 NR S。コーヒーの10〜20 NR Sに比べて格段に安い。

コールドドリンク・コーラ・ファンタはすべて瓶入り。25 NR S前後。

ミネラルウォーター・水道の水は絶対に飲めないため必需品。このパッティにもある。12のペットボトルで40〜50 NR S

ビール・地元スタービール以外にサンミゲル・ツポルク・カルスバーグがある。すべて大瓶だが冷えていない。サンミゲルがおすすすめ。90〜120 NR S

▼その他の酒

チタン・米・雑穀のドロップ。1カップ 10 NR S

ブランドイ・リンゴやアブリコットで作る。ボケット瓶で50〜60 NR S

ロキシー・これぞネパールを代表する国民酒。チヤンを蒸溜した蒸酎で、ロー

カルワインまたはホームメイドワインと表示されている。店によって濃度に差があるが、慣れればミト・チャ・ネパールで「うまい」の意。1カップ 10〜20 NR S

以上、おわりのように値段は抜粋に安い。朝食50〜80 NR S、昼食と夕食で100〜200 NR Sも多めにあげよう。ただしビールは山の中までロバで運ぶため、都市部のホテルの割増位になっているが、それでも日本の山小屋のビールに比べれば、良心的な値段だった。

旅行で役立つスグレモノ

街のホテルでも山のパッティでも、登山靴だけというのは不便である。現地でゴムソリを購入したが、古タイヤの再生古底のため重い。日本から軽いビーチサンダルを持参するのが賢明だ。トレンキング中は川の共同水道で洗濯ができる。洗剤・物干し用のロープ・洗濯ばさみ、それに携帯用のビニールバケツがあれば便利である。

パッティの料理は、ときどき味が薄かったり、日本人の口に合わないことがある。そんなときに威力を発揮するのが醤油である。たいていの料理は醤油をかければなん

寺山 英男

⑨ 生駒越・信貴越

5月26日(日)、きょうは「新ハイキング」の合同山行である。夏を思わせるような暑い日になった。

近鉄奈良駅で河田さんと会う。「新ハイキング」26名、「小さな旅の会」25名、合計52名で出発する。聖別から生駒の山並みが見える。それに向かう。古道ではあるが生活道路であり、絶えず車が通りすぎてゆき怖い。外環状線の信号を渡ると天理教の建物を見る。この道は東西野街道である。二基の石碑があり、一つは宝永五年(1708)、一つは元治元年(1864)と彫られている。

突きあたりが教養寺。黄蘗が境内を築めていた。聖徳太子の命により創建されたものと言われ、歴史はあるが幾多の戦乱により伽藍等は焼失したりして、寂しくなっていた。山門を右に折れ、すぐに左に折れると「三丁 信貴山」と印した大きな町石所だ。

所だ。

16時頃に近鉄生駒線信貴山下駅に到着。のんびりと歩いた一日であった。ここで「新ハイキング」の仲間とまたの会う日を楽しみに別れる。

⑩ 生駒越・矢田越と松尾越

6月16日(日)、近鉄南生駒駅は若い朝だ。27名が集まったが、女性が多いのでにぎやかだ。10時過ぎに出発。

国道を南に歩き、暗切を越えて縁路沿いに進む。左方面の坂道を行くと小さな峠になっており右上にお地蔵様があり、きょうの無事を祈る。民家の中をくぐると登山杖の音がある。

左に進むと矢田寺の標示がある。このあたりから急坂になる。舗装道路がうらめしいが、少し休むといふ風があったり、生駒山が美しく見え、所々に石仏や町石もあって心が癒へる感じがする。やがて雑木林になり、道も広く歩きやすくなった。

「右 松尾山」の道標を左にとる。急坂を登れば「八一」の町石。進むとハイキング道は矢田寺をめざす。間もなくくだりに

がある。

近くの家の住所を見ると湯治とある。昔はこのあたり山中であっただろう。突きあたりには郵便社があり、右をくると鳥居があり、八尾市教育委員会の信貴山荘の説明板がある。少し登ると「七丁」の町石があるが、その先からはやぶで登れない。

左方面に迂回する。舗装道路が終わるころ右に八尾の市街地が見える。道端に湧き水場があり、湯抜きを兼ねてひと休みした。このあたりから黒谷道の登り口で、分かれ道に「高安山」の標識があり左側の道を登る。急坂と暑さで汗が出てくる。道は長く踏まれたハイキング道である。10分ばかり登ると見晴らしのいい場所になる。生駒山・高安山・北沢の山々が望める。

木々が茂り、笹が茂り、新緑の陰になった道を歩く。まさに森林浴コースで気持ちがいい。約30分程で南麓からの岩倉道との合流点に着く。ここにも「左 岩倉井財大社 是より教興寺村へちかみち」と記した、立派な石碑の道標がある。

登りつめると露地に出る。見渡すかぎり藪石また藪石である。ここは信貴山公園盛地である。右に進み道道に入るとすぐに明るい場所に出る。階段を登り公園管理事務

なる。右に大きな池、その下に「六丁」 「左 志き山、右 大坂」の石碑がある。左側は松尾からの道である。ここで湧き水「弘法の水」をいただく。甘く感じる。右の坂をくだること15分で矢田寺に出る。紫陽花が咲き始めていて参拝者で溢れていた。自由散策とする。12時矢田寺を出て、元の坂道を登る。

先程の池の側で昼食をとる。「弘法の水」を水筒に入れて13時10分松尾寺に向かう。あとでこの水でグリーンティーを作った。

雑木林が暑い日差しをさえぎってくれる。新緑の中やさしいこもれ陽の下を歩く。おしゃべりの声もいちだんと高く大きくなる。広くて歩きやすい道。肉眼台に着くと展望が利き奈良盆地が見える。木陰ではしのげない日差し。わずかな風が気持ちいい。休風をとる。わずかな風が気持ちいい。

すこし進むと松尾山修行人道の標示があり、すぐ下が松尾寺であるが、右手の急坂を登ることになった。とても登りやすく5分もすれば雑木林の中をくだる。15分もかからずに松尾寺の境内に至る。

厄除けのお寺である。京都の松尾大社はお酒のお社だが、ここにも松尾明神という酒の神様がいる。

境内を登り、三重塔の前を左に折れ、い

所に着く。ここからスカイラインとは反対の道を下る。相変わらず雲雨の中である。よくもこれほど大規模な盛地が作られたものだと関心するとともに、ここまできたら随分疲れたとも思える。

四丁辻の下は自然歩道。この道におりて信貴山に向かう。広くて歩きやすい道を半分あまりで車道にできる。前は盛地であるが、レジャーセンターがあり、休日車で混雑していた。

辻堂の前を左に回りくぐる。薄紫の花が咲いている。ジャガイモの花である。行く手には信貴山が見える。集落の手前で埋もれかけた町石がある。「二五丁」とあり南畑を通り過ぎて少し登り左に折れると「すく木」の道標があった。

道を渡り、信貴山朝護国王子寺の本堂近くで自由時間とした。ここから信貴山頂まで20分ばかり。参加者のほとんどが山頂めざして登った。

参拝を終えて前前町にくだる。石仏が目につく。バス停の後ろに「千木権遊歩道」がある。古道は左側の車道であるが、安全なこの遊歩道を下る。磨練になったケープルカーの跡地を整備したもので桜とツツジが植えられてあり、季節、季節に美しい

またた坂を戻る。先ほどくぐってきた道の前を通り、よく踏まれた木立の中を行く。舗装道路に出る。その手前の右手の草むらの中に優しい顔の石地蔵が笑いかけている。約2000年位前のものであろうか。

左を行けば法隆寺に至るが右の道を行く。ここは白石畑の集落である。ハイキングコースはここから平群駅に通じるが、きょうは古道コースなのでさらに汗をかきながら舗装道路を下る。

左手に池があり、金魚が繁殖されていて群れをなして泳いでいる。分かりにくい。その池の前から右の小道をくだる。あまり歩く人がいないのか道が荒れていた。

やがて歩きやすくなり、舗装道路に出る。集落をくだると岩付街道に出る。その辻に

「右 松尾 すぐ法隆寺 すぐ可堂」と刻まれた道標がある。ここから鹿田川を越えて近鉄草田川駅に着いた。17時であった。当日、大阪では30度を超えていたとあとで聞いたが、若さはそれほどには感じず、森林浴気分が気持ちよく歩けた一日であった。

野の花讃歌 (17)

市川 正次朗

峠ではコーヒーを

なぜか「峠」が好きです。麓から山頂をめざし、たいていはちよつとした急登があつて登りつく峠。「ああ、ここまで来たか」とホッと汗をふけるところ。それまで炎天下で風ひとつないのが恨めしかったのが、峠に出たときとたん涼しい風が吹き上げていることもしばしば。

だけと眺望がそれほど良くないのも峠。わりと樹木が周りにあつて、それまで見えていた頂上もどこかへ隠れてしまいます。それは、峠が頂上へ続く尾根にのっただばかりのところであり、そのあとの起伏に隠されているからです。

石仏、地藏さんにもよく出会います。その昔、この峠を越えて行き来した里人が、また旅人が手を合わせたであろう仏たちが、ほとんど風化した今もやさしく導いてくれます。赤いよたれかけ、かわいいうつ子、野辺の花など季節をられた地藏さんに出会うと、

うれしくなります。里のお年寄りたちが、ここまで登ってきて仏を守っておられる心にうたれます。私たちが町の人間誰より私自身が、とかく利害でしか汗をかかなくなっている風潮が強い今……。

峠ではいつもコーヒーを飲むことにしています。コンロで湯を沸かし、少し冷ましてから時間をかけて注ぎます。峠では鳥の声がよく聞こえます。樹木も里から山へ植生が変化する境目のせいか、新緑の頃も紅葉の頃も変化に富んだ色合いが楽しめます。そんな自然の中に身も心も溶かせながら飲むマグカップ一杯のコーヒーの味はたまりません。



チシマジキヨウ

そんな私ですが、コーヒーにはけっこうこだわっています。日頃の生活圏で、よく行く山行エリアの焙煎店などは、おいしいコーヒーを点でしてくれる店を決めています。初めての土地ではどの店がおいしいかわかりません。

そこで、私流のおいしいコーヒー店の見つけ方をご教示。ごく簡単です。表から見た窓ガラスが曇ってなくてきれいなこと。コーヒーをおいしく飲むには、スバゲッティやトンカツなど油物を扱っている店もあまり期待できません。清潔で花の一つも店先に咲かせているような、ナイーブな心づかいのあるオーナーでないため、というのが私のこだわりです。

ちなみに、私が山行の旅先でおいしいと信じて疑わないのが、白馬・どんぐり村のペンション「ラリーメイツ」のコーヒー。朝リスがやってくるペランダで、パノラマのような白馬連峰を目の前にしながら飲む味は格別です。また、戸隠高原の「檜の木山荘」で戸隠山をおおきながらの一杯もたまりません。

さて、皆さんのこだわりは？

京都北山

やぶ漕ぎ痛快山行記 (27)

読図の楽しみ、カンでの途探し

判官坂・P697から貴船山

京都北山グループ

2万5千の国土地理院の地形図「岡山・大原」のつなぎ目に京都市の北区と左京区の区境があり、その右にP697の独標記号がある。雲々畑川の谷からこの独標の被験をたどり山津川の西谷への縦線がある。雲々畑川からの谷は楕谷(だいが)といわれ、楕谷の東には、楕谷と長谷がP697から同じように両へ流れている。この楕線のP697は「判官坂」と名付けられている。源九郎判官義経の判官に縁があると聞いているが定かではない。判官とは中世の官制(司法の四官官、刑(けい)の位)である。

生石丸、紗那王(はな)はれた妙老時の被馬

山での話は聞いていたが、巻録以外にも判官の官報にいた人はいた。判官(判官)でP697を判官坂にしておこう。このP697は東にのびる渡り廊下状の尾根の横線コースは昭文社の「京都北山」のエリアマップにも赤線はなく、北山のやぶ漕ぎ好きの山やにとっては魅力のコースである。

山町神楽堂京都バスの岩瀬橋行きに乗り、賀谷キャンプ場を降りる。自由降車の手でローディーバスなので、バス停はないが運転手に言えば停車してもらえる。川向かいには北区の青少年総合体育広場がある。ここで距離1.95分。右(北)にのびる舗装され

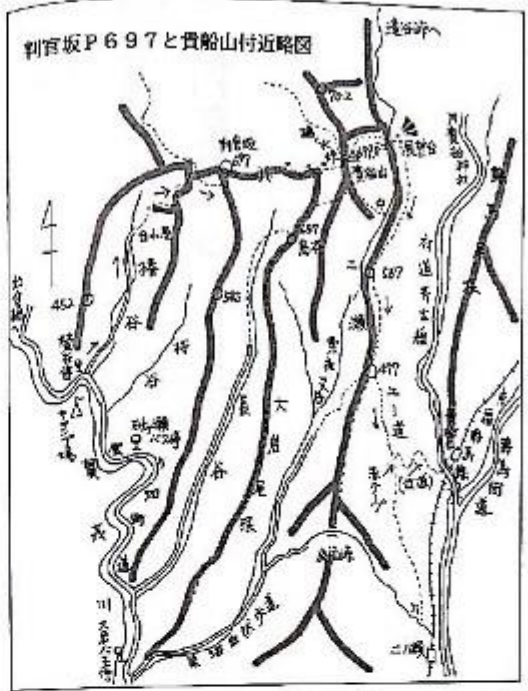
二ノ瀬ユリ道の展望台にて



た林道をとる。1時間程で林道終点に着き、水を補充する。先には水場はない。

しばらくは谷沿いの幅広い山道の登り。右杉林の中に作業小屋があり、このあたりから細い山巾道に変わる。谷間に踏み跡を拾いながら行く。右に杉林林道(細道)の仕事道がある。それにとりつきジグザグにヨシ登り、平坦な杉林のドーム状丘に着く。前方は楕谷の頭が落ちていて、右には楕谷からの尾根がのびている。尾根筋は

植林地帯と雑木林とに区分けされて、右の谷筋からの仕事道を谷谷の尾根にのり、北山ならぬにでもゆる尾根筋は笹やぶの中で、樹高650ほど近から木の問題し右方向にP697付近の高峰が確認できる。尾根筋を東へとドーム状のP697へ、細木のやぶ過ぎが始まる。コンパスだけが残り、一番高いと思われる雑木林の中に松の巨木がそびえるクマ笹におおわれた広場に出る。独特の印は無いが、立ち木に山好



まが付けたのだらう、大木に「判官坂697」と記され、これがP697の標識であることを示してくる。
周囲は雑木林で展望は利かないが、木々の間から比叡山や花背峠の花笠塔が見え、右の長谷、左の直谷と、この先の進行方向の波り庭下伏の尾根筋から貴船山まで確認できる。小休止の後、貴船山へと東へコンパス目盛りを合わせて高度差にして約100メートルの根、笹の葉をつかみながら急降し、三谷谷筋頭の数部こそ「判官坂」の名にふさわしい古い峠道跡だと私は思う。正面の竹を踏み、笹・灌木の下に尾根道を見つけ、やぶの平泳ぎ漕ぎでコブにのる。南側が開けて長谷尾根、栗坂又尾根越しに京都市内方面がかすかに望み、貴船山からの下山尾

根も長くのびているのが見える。先はやぶ消を峠道筋になる。P697から直線距離で2.5程だが、途程と途程の雑コースだ。
けもの途や倒木で途が消えるが、東へのコンパスと時々見える貴船山の方に、ゆるいコブのアップダウンで漕ぎ水峠に出る。左にくたれば直谷、右にくたれば二ノ瀬ユリの北山の銀紙道。漕ぎ水峠から貴船山へは大きい倒木をまたぎ笹の間の道を10分程のがんばりで2.5程三角点標右の立つ頂上に飛び出る。
ナラ・クヌギ・リュウブ・松の雑木林で展望は利かないが、落ち葉の広場は弁当場所にもってこいの山頂だ。ここでお昼弁当をあげる。いつものようにビール・お酒と自慢の手料理を出し合って盛り上がる。
丹波高原の東端標高770の貴船山は、雲石山・鞍馬山ともに平安京遷都以来1200年、えいえいと住民に受け継がれてきた歴史の匂いと自然が残る里山として、自然環境を大切に守られておきたい山だ。きょうもここまではわがグループ以外には他のハイカーに出会わない実に静かなコースだった。
昼食後は東への支尾根をとる。所々にテ

プがあり、しばらくするとよく手入れ下りされた植林地帯に入り、通りぬけると、南北へのびる二ノ瀬ユリ道に出る。ユリ道を横断し左の斜面を上がると笹付きの台状、展望台に出る。

東面の展望がいちだと開けて、鞍馬尾根から比良山系、かすかに鈴鹿の山々まで遠望できる絶景場所だ。小休止の後、本誌25号に記したやぶ過ぎ痛快山行記(23)の参方尾根をとりP477へ着く。マイカー参加の方々は雲ヶ畑街道大岩へと別れた。きょうはP477から夜泣峠へは行かず、二ノ瀬ユリ道から貴船口駅への近道(山仕事道)をとる。

ユリ道の左の杉植林地帯に雑草のガレ道あり、また赤テープと行く。10分程のジグザグくたりに貴船街道の飯沼貴船口駅前に着く。売店にはビール・お酒も売っており、買ってきてから一献。今日のやぶ過ぎ痛快の列会を終わる。

出町通りまでの電車は1時間に二本もあり、日曜日は臨時便もあるから、きょうのコースは帰りの乗物の時間を気にすることはない、のんきコースだった。

(平成8年5月19日歩く)

▲参事タイム▼

- 飯谷キャンプ場出発9・10ー林道終点10・00ー作業小屋10・20ー30ーP697(判官坂) 11・20ー25ー貴船山12・30ー13・50(昼食) ー二ノ瀬ユリ道展望台14・30ーP477 15・00ー10ー飯沼貴船口16・00(解散)

△地形図▽3万5千1000山・大原 明文社「47京都北山」

〔注〕「路」「道」は幅広い山道で、「途」は踏み跡のやや不明瞭な道という意味で文中に使用しました。

(記録) 出口 恵次



(二)の花・(一)の草)
ナンメ (Zingiber Vulgare)
クロウメモドキ科

初めてナンメの実を食べた時、しゃりしゃりとしたその食感や味がまるでリンゴのようだなあと思った記憶があります。茶道具の「抹茶を入れる器」は、形がこの果実に似ていることから名付けられました。

花の時期に雨が多いと実りが悪くなったり、実がついても小鳥や虫が食べてしまったりと、なかなか安全な実は少ないそうです。中国産のナンメは日本へは古くに伝えられ、奈良時代以来、果実を食用および薬用に用いられてきました。秋によく熟した実を採取し、日干しにしてから蒸し、再度日干しにします。

漢方薬では大薬として、『神農本草経』の上品に収載された生薬で、現在も利尿・強壯・緩和薬として多くの処方に使われます。民間薬としては、小児の夜泣き・せき・目眩などの頭痛、また精神安定剤として不眠症・ヒステリーなどに、乾燥した果実を煎じて服みます。里山店に売られているのが、ナンメ、どこかで見かけたら是非一度味わってみてください。

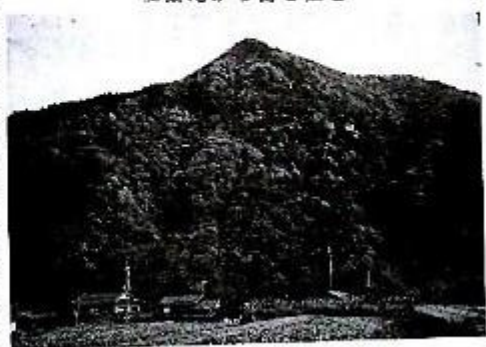
動物の臭いが漂う山頂

岳(向山)

421号線を進み最奥の紅葉尾の集落に近づくと、左手愛知川を挟んで黄和田の集落が見える。その上に岳が聳く天を突いてそびえている。麓には京極政所の黄和田城跡、山腹には岳の大杉がある。昔は大杉の下に池があり雨乞いが行われたというが、現在はその跡に埋まり遺地となり又々場になっている。愛知川から一気に781村まで立ち上がっている岳は、昔は八国街道の見張り台の要所であったが、現在は訪れる人もあまりない。台地状に広がる山頂部は赤松林がうっそうと茂り、大きなヌク場が二か所あって動物たちの臭いが漂っている。

421号線を紅葉尾の手前で左折してキャンプ場の上を通り、紅葉尾橋を左に渡って黄和田に向かう。集落の手前の分岐で、右に登りかけた杉林の角の楓の木に、赤いテープの印と「岳」の表示がある。その横の広場に車を駐める。植林された畑の中の細い道を行くと、森の入り口に谷水を引いたタンクがあった。ここで水を確保する。その右奥に黄和田城跡の古びた高札がある。うっそうと茂る森の中に、古い石壇がのびており、京極黄藤城跡の石碑がぼつんと建っていた。引き返し森に入ると左手の巨杉にしめ細が振られ、根元に祠がある。山の神だ。その左には色あせた赤い鳥居が続き、種神社もある。杉の大木が茂る森の中に深く掘り込まれた古い道が続いた。道には枯木や落ち葉が深々と積もっていた。右上の鉄塔に登る巡視路を見送り森を抜けると、左下の谷の向かい側に鉄塔が現れた。この鉄塔に向かう道を左に見送り、杉林の中の折り返しの巡視路を登りつめると、すぐ道が分かれた。右にとりかやが茂る鞍部に着いた。左の谷には植林が広が

紅葉尾から岳を望む



その先に帯ヶ岳が望めた。2つ近いカヤ原をかき分けながら登ると深い谷に変わり、その奥に岳の大杉が一本あった。昔はこの大杉の下に池があり雨乞いが行われたというのだが、現在、池はあとかたもなく消えヌク場になっている。昔は池が埋まると掘っていたというが、今でも掘ると水が湧き出すそうだ。

近頃、紅葉尾と黄和田の河原はキャンプ場として見直されてにぎわっている。中に

▲コースタイム▼

黄和田(50分) 尾根分岐(6分) 大杉(15分) 岳山頂(6分) 南端(20分) 鉄塔下(20分) 黄和田

▲地形図▼

昭文社「44巻 伊吹・麓原」

(岩野 明)



岳の大杉

は目の前にそびえる岳にせび登ってみたいと言ふ人もいるようで、地元では岳に登るルートを整備する話もあるとのこと。その際にはこの池も復元してもらいたいもの



だ。大杉の裏に回ると中は空洞になり木高が詰まっていた。引き返してヌク場の下から紐の印をたどると、植林の中に急な登りが続き、登りつめて右にとると岳(A711・333)の山頂に着いた。雑木と植林に囲まれているが、木の間から静ヶ岳・帯ヶ岳・三池岳が見えかくれする。ひと休みしてから右に切り開きのゆるい道をくだると、赤松が茂る広い台地に着いた。左の窪地にヌク場が二か所ある。池のまわりの木の根元には泥を盛りつけたあとが残り、けもの臭いが漂っていた。この窪地も雨の時期には大きな池になるようだ。

南に向かって青い紐の印が続き、またヌク場があった。南端の雑木の中に岩が現れ、回りこむと急斜面の樹林の中に紐の印が続いていた。滑りやすい斜面を紐の印に従ってジグザグにくぐり、左は杉林右は雑木の屋根をたどると、鉄塔の下に着き大きく展望が開けた。真下に紅葉尾の集落と愛知川、左には不老堂、正面は紅葉の山頂を見せる度戸山から黒尾山へと続く山塊。腰をおろしてゆっくりと眺望を楽しむ。

巡視路をくだると任路の道に出た。

(平成7年11月6日歩く)

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

(定休・火曜日)

〒604 京都市中京区九太町通堀川東入

☎ (075) 211-5703

℡ (075) 231-0313

山とスキーの専門店

京都 ムラカミ

大バノラマの

丸山から庭戸山

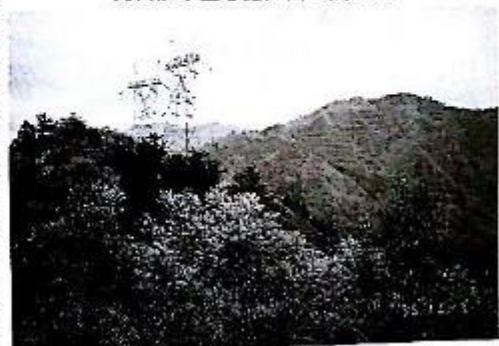
黒尾山から北に派生する尾根は、腰尾根から再び高度を上げ、庭戸山(690m)・丸山(676m)と続き麓で消える。この山は近いわりには知られていない。政所の小堂の横の道路から南を望むと、槍の穂先のような鋭峰の丸山と庭戸山が天を突いてそびえている。庭戸山の山頂は伐採され鉄塔が二基立っているため下刈りされ、あたりにはカヤ原が広がり、360度の展望が得られる。紅葉尾から山頂に登る巡視路があり気軽に家族で楽しめる山だ。山の麓に菜々と続く猪の進入を防ぐ古い石垣が興味深い。

421号線を進み中畑で橋を右に渡り、蓼畑を回りこむと、すぐ右に広場があり車を駐める。広場の道路脇の左から山に登る道があり、たどると楡林の中に右の鉄塔に向かう遊歩道を通ると尾根に古い道が縦

いた。うっそうと茂る楡林の中のゆるい登りの樹間から、右下に中畑の集落と421号線、左下には黄和口の集落が見えかくれる。時々車の音が聞こえてくるだけの薄暗い尾根道を行くと、前方が明るくなり、左斜面は補植したばかりの尾根に変わり左に展望が開けた。

岳不老堂が茶筒川を挟んで背比べをしている。右上には楡林におおわれた丸山。真下の谷底には紅葉尾の集落が、愛知川のかわいた明るい河原の横にこじんまりとまとまっていた。平坦な尾根道が楡林の急斜面の登りに変わると、踏み跡程度の道になり、黄色の杭が続いていた。よじ登ると真上に岩が現れ、右上に明るい尾根が見えた。右に回り込んで尾根道を左に登ると、右斜面は伐採されカヤ原が広がり、尾根には愛知川上流の集落の共同テレビアンテナが林

丸山から望む庭戸山と黒尾山



立していた。その横に登ると展望が開けた。水鏡寺ダムの先に湖東平野が扇状に広がり、右は日本コバの巨大な山塊だ。ひと休みして眺望を楽しむ。

ここから上に道はないがやぶも少ない、雑木の尾根を登る。次第に岩稜の細尾根に変わり、左右の樹間からの展望は良い。登りつめ、丸山の山頂に着いたが、雑木におおわれ展望はない。庭戸山に向かう。ゆるくくたって登ると次のピークの先の岩棚に着

すぐハイパスの上に着いた。

(平成7年11月7日歩く)

☆コースタイム☆

●丸山(45分) 共同アンテナ(35分) 丸山(20分) 庭戸山(10分) 鉄塔尾根(45分) 421号線(20分) 変換

△地形図△

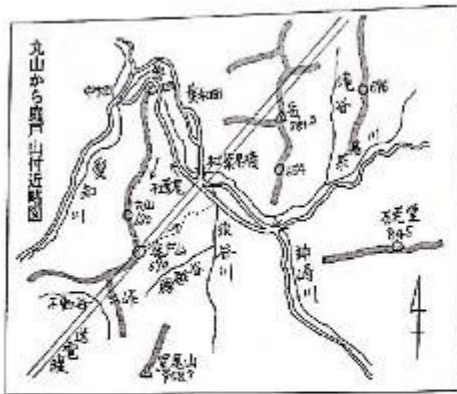
2万5千11号路寺・市ヶ丘
昭文社『144登山伊吹・藤原』

(岩野明)

き、大きく展望が開けた。

紅葉した尾根の上に庭戸山の鉄塔が見えた。右には楡林の緑と紅葉した楡林の黒尾山が深まりゆく秋を告げていた。さらさらだと、すばらしい若葉が現れた。木の根をつかんで岩峰に登り、雑木の尾根をたどると庭戸山の山頂に着いた。

山頂には二基の鉄塔が立ち、カヤ原の広がる山頂はきれいに下刈りされている。360度の大バノラマが開いた。北方には巨大な日本コバ・天狗堂・御池岳・藤原岳・



静ヶ岳・竜ヶ岳と続き、その手前に岳不老堂がそびえている。両方には紅葉した黒尾山、その右下に水鏡寺ダム、その先には湖東平野が広がっている。眺望を楽しんだのち、遊歩道を南にうっそうと茂る楡林の中をくだると、右は楡を植林したばかりの斜面に変わった。下刈りはしてあるが、苗木はほとんど鹿に食い荒らされている。ゆるいくだりになると道が分かれた。左にとり黒尾山へと続く尾根の鉄塔の下で昼食にした。すぐ下が腰尾根だ。尾根が黒尾山へと突き上げ、左には腰尾根、右は不動谷が深い切れこみを見せている。

空は次第に雲におおわれ、パラパラと降りだした。急いで引き返そうとしたが雨はますますひどくなったので、庭戸山下の楡林の中で雨雲の通り過ぎるのを待った。しどろもどろと小雨の中を歩き始めたが、北方にガスがたちこめも見えない。遊歩道を打撃尾根におりる。

支尾根の岩壁には鉄パイプの階段が設置してあった。うっそうと茂る楡林をおりると、背丈を超すほどの古い石垣が岩のようにならびにびている。猪の進入防止の石垣ということだ。昔はこの石垣のあたりまで出畑が新かっていたようだ。楡林を出ると

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



スキーバスもあります

〒578 東大阪市池田本町1-20 オカダビル4F
電話06(745)3911・FAX 06(745)3988
(夜間・電話06(946)9810・FAX 06(945)8044)

仙香谷から赤坂谷をつめて

釈迦ヶ岳・猫岳

釈迦ヶ岳は鈴鹿の中部にあり、三重県側からの登山者でいつもにぎわっているが、近江側から登る人はほとんどいない。以前特選コースガイド(19号・93年11・12月)で八風谷から仙香谷・赤坂谷ルートを紹介したが、今回の神崎川林道から釈迦ヶ岳に登る人もあまりいないだろう。仙香谷から赤坂谷へのトラバースルートは一部消えていたが、近年赤坂谷の植林の下刈りが始まったため、しっかりと道ができていた。このルートで人に出会うことはまずない。心を無にして自然にどっぷりと浸りながら歩いていると、いつの間にか大自然の中に溶け込んで汚れないすがすがしい気分になれる。そして何ものにも替えがたい無事の一ひとときが経く。

神崎川林道の取水口上の広場に車を止め、石段をおりると道が分かれ、真下の神

崎川に向かって急斜面の踏み跡をおり、河原に着き上流にあった流木を流れて渡して、杖でバランスをとりながら対岸に渡る。河原を仙香谷の出会いに向かうと、岩壁が現れ下は淵になっていて渡れない。その手前で雑木を手掛かりに右壁を登ると、雑木の斜面に古い道が現れ仙香谷の出会いに着いた。右折して谷の左岸を登るとすぐ古い道があり、古びたテープの印が続き、右からゴウゴウと流の音が遠い上がってくる。常緑樹林の中を登ると、笹圍れて道が消えた所があったがその上に踏み跡が続いていた。谷を大きく高巻きながら登り男女谷を渡る。雑木の生え込みから杉林の中に道が続いた。薄暗い杉林の中をたどると道が分かれた。右は赤坂谷への道だ。直進すると、次第にゆるい登りの雑木の斜面に変わると、明るく広い谷を渡り、すぐ左に流り返す。

赤坂谷から釈迦ヶ岳を望む

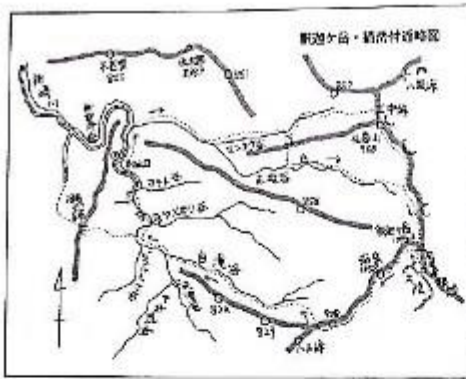


平坦な道を谷に沿って行く。湿地に丸木を半分に切った橋が架かっていた。谷を右に渡り、植林の中のカヤ原をたどると道が分かれた。右にとり赤坂谷に向かう。広い台地には疎らな植林が広がっていた。谷におり、植林とカヤが茂る左岸をゆるく登り、支慮根を越える。赤坂谷へのくぐりに変わると、まわりの植林は下刈りも終わり、左前方に釈迦ヶ岳が顔を出した。

赤坂谷におりて左にとると谷の西側には

雑木林が続いた。忽然と管林帯の作業小屋が現れた。中を覗くと、フトン類が天井から紐で吊り下げてあり、あたりには山仕事用の道具や食糧類が置いてある。この小屋は今も使用されているようだ。小原の回りには3つ近いカヤ原が広がっていた。その中を谷に向かう。

落ち着いた雑木林の中に、テープと紐の印がどこまでも続いていた。踏み跡が一部消える所もあるが、以前付けたテープの印が残っている。木々が葉を落としてしまっ



た谷は明るく、古い道には深々と落ち葉が積もり、カサコンと落ち葉を踏む音と谷の瀬音だけが聞こえていた。左上に稜線が見えてくると雑木の中の広場に着いた。まわりの木々の黄色のテープの印は、左の稜線に向かって続いていた。左折して印を追うと稜線路に着いた。右にとり左手に広がる三重県側の眺望を楽しみながら登ると約50分で釈迦ヶ岳(△1092.3)の山頂に着いた。

西北に展望が開けた。左手の稜の上に御岳・阿アルプス等が雪の山頂を白く輝かせていた。そして眼下には伊勢平野が広が



稜線より仙香山と釈迦ヶ岳を望む

四日市・名古屋から伊勢湾が際の中に見え、二重県側から登山者が次々と現れては去っていった。松尾尾

根ノ頭はすぐそこだ。順に着くと14、15名の人たちが昼食の最中。釈迦ヶ岳よりこの山頂のほうが人がいるようだ。右には猫岳からハト峠・水尾岳へと続く主稜線、その先は御在所岳・阿ヶ岳・鏡子ヶ山系へと続いていた。左下には三重県側が大きく広がっている。眺望とまわりの人たちとの山の話を楽しみながら昼食をとった。

復路は時雨の余粉がない場合は同ルートを引き返すのがよい。稜線を北にとり、中峠から仙香谷をくだるルートは、右下に三重県側が大きく広がり、ガレ場が続く稜線からはアルペンの景観が楽しめる。私は主稜線を南にとり猫岳に向かう。

いったん引き返して稜線の分岐を左にくだって登り返しピークを越すと、笹におおわれたくぐりになった。笹部から骨丈を組む笹をかき分けながら登ると、左に松尾尾根ノ頭が望めた。大陰の岩壁は深く影を刻み荒々しい岩壁を見せながら突き上げていた。猫岳(1058.8)の岩の上に立つと360度の展望が開けた。北方には主稜線の奥に御池岳・藤原岳・静ヶ岳・電ヶ岳と続いていた。

稜線を南に向かう。ちょうど太陽が斜め上であり、笹の銀色に反射する光の洪水を



松尾尾根ノ頭から猫岳を望む

かき分けながらのくんだり登りが続いた。白流谷分岐から右によく踏まれた道が谷に沿って続いていた。何回か谷を渡り管林帯の小屋を過ぎると、右手に大きく枝をくねらせ怪獣を思わせるような輪の太木が現れた。その右には白流谷の赤ナメが音をたてて流れていた。神崎川におりつき、その右岸をくだる。この急な流れでは簡単に右岸へ渡れそうもない。約2分の距離の太さの流水が見つかつた。ツメカリ谷の出会い

を過ぎると、右岸は岩壁の下が淵で流れない。岩の上から流れにその上層の棒を立て、棒の結びの要領で左岸に渡る。その下のゴルジュニ帯は左斜面を高登きしておける。左上の方に林道が望めるがまだかなり先だ。左岸に又岩壁の淵がある。棒を使って流れをなんとか飛びこえて右岸をくだると、また淵が現れた。淵の手前にチーブの印がある。印をたどると高登きして右斜面に道が続いていたが、私は河原におりた。左岸に渡ると、左から合流した谷の上が林道の終点だ。この谷を登り林道の車を駐めた所までくだった。

今回は神崎川の右岸をくだつたが、白流谷をおりて神崎川を対岸に渡ると印があり左斜面に巻き道が続く。夏草が茂げる時期は一部はつきりしない所もあるが大体通れる。

神崎川に登る道は坂八日市警察署によって整備され切り開かれていた。登りきつた山腹の巻き道から神崎川林道へ通じる吉の道が切り開かれ道標とピンクの紐の印が続いている。(平成7年11月18日歩く)

△コースタイム▽
神崎川林道(20分) 仙妻谷分岐(40分) 赤

坂谷分岐(30分) 赤坂谷トラバース分岐(20分) 赤坂谷小屋(50分) 鞍馬(30分) 釈迦ヶ岳(5分) 松尾尾根ノ頭(25分) 猫岳(40分) 白流谷分岐(35分) 神崎川(1時間20分) 神崎川林道
△地形図▽
2万5千1100 御在所山
昭文社「45御在所・鎌が岳」
(岩野 明)

リュックザック製造販売

秋山・すすき・お月見・虫の声
いい汗、ながそう。
応援します。あなたの山登り
イモックのオリジナルザックで
快適な山登りを……
・定価に納まら……
・登山用品のことならおまかせ下さい。

神戸ザック

オリジナルのパンフレット御希望の方は
¥100円同封して下記まで。
神戸市長田区大橋町9丁目3-1
〒653 TEL (078) 621-5651
FAX (078) 621-3528

エリア別 徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ④3

八風峠から

三池岳・御池

(お菊ヶ池)

三池岳は鈴鹿を代表する古い八風峠・八風峠の北にそびえる峰で、東に源生する尾根をおりると中腹に御池(お菊ヶ池)がある。そして峠から南のピークを越えると鳥居があり、八風明神の石碑が建っている。昔は多くの人たちが越えた道も源流域で道が消えていたが、近年このルートを歩く人も増え、チーブと紐の印そして踏み跡が続く。

江原一氏の著書『鈴鹿源流』の中の「八風谷」の章に、この峠にまつわる民話

が記されているので引用して紹介する。
「永徳寺町杜野尾のお菊が所用で伊勢の四日市に行った帰り道、八風峠に差しかけたところで転んでしまい、土間に買った皿を割ってしまった。お菊さんは悔しきまじめにその欠片を壁の穴に投げ込んだところ、みるみる雨一帯に雨雲が広がりはじめた。天

気になった。暴風雨は数日間続き、田畑を押し流し家々も大被害を被つた。そしてお菊さんの所業を知つた村人はお菊さんを責め、とうとうお菊さんは村を出ていく羽目になつたという。又明治期になつて米相場での大儲けを企んだ男が付近の池に陶器の欠片を投げ込んだところ、本当に暴風雨が起り近在の田畑が流されたという話も伝わっている。」

そのうち大正期に八風峠の南のピークを越えた昔の八風峠に、三重県の田光の在郷軍人会によって鳥居と八風明神の石碑が建てられている。

八風橋を渡り右折して八風谷林道を進むと、八風谷キャンプ場の広場があり車を駐める。谷を渡って左岸の林道を登ると、左に「八風峠」の道標が現れた。左折して谷を渡り、杉林の中の昔の道を行き、右折し

て森林小
区を過ぎ
ると杉林
の中にゆ
るい登り
が続いた。
仙妻谷に
向かう袖
道を右に
見送ると、
雑木の中
に深く掘り込まれた古い折道が続いた。右
から谷川の音が聞こえ、次第に音が大き
なってきた。人が通らなくなった道には笹がおお
いかぶさり、自然に覆りつつある。笹をか
き分けながらチーブと紐をたどると、谷の
源流で道が消えた。しかし、印は谷から左
斜面の雑木の中に紐を踏み跡もある。たど
ると古い道が現れた。



旧八風峠から三池岳を望む

北斜面に雪が薄く積もっている。二、三日寒い日が続き高い山は雪になつていようだ。この先が思いやられる。谷の源流に鞍が望めた。右に回りこんで登ると、ガレ場道は消えたがその上に印が続いている。ガレ場を登りつめ、古い道をたどると、深い谷におおわれた八風峠に着いた。左折し



三池岳に向かう。縁線の深い笹に雪が積もっていた。杖で笹に頼りながら進む。三池岳に向かう。縁線の深い笹に雪が積もっていた。杖で笹に頼りながら進む。三池岳に向かう。縁線の深い笹に雪が積もっていた。杖で笹に頼りながら進む。

山頂には御影石に「三池岳」と刻んだ碑が建っているが一部欠けていた。360度に近い展望である。傍方には八風峰・中峰・仙香山・釈迦ヶ岳と続く主要峰、ガレ場を駆け上った左の急斜面にはカヤ原が広がり、その下には伊勢野が霞の中に消えている。

右はゆったりと広がる樺林。奥には御在所岳・熊ヶ岳・獅子ヶ口山系・湖東平野から琵琶湖・比良山系・朝北の山々から御池岳・藤原岳・竜ヶ岳と続いていた。

ゆっくりと歩を進んで奥に続く尾根をたどる。樺林と笹の尾根をくわって登り返すと、△90°・1・8の山の山頂に背いたが、笹におおわれ展望は良くない。三角点を確認して御池に向かう。笹の中をおりると広い尾根に着いた。その時左斜面に黒い動物が二頭右に走った。急いで尾根の左端から覗くと、もう一頭いた。踏んだ。低気圧の道で二、三日山は荒れ、雪に変わっている。夜行性の猪が必死に餌を探していた。広い尾根上の印をたどると、左斜面にガレ場が現れた。ガレ場から樺林の中の御池根を、雪をかき分けながら進むと広い鞍部に着き、中央に御池(お菊ヶ池)が現れた。お菊が身を段けたと伝えられる池だ。しかし落ち葉におおわれた池は、昔目の御影は消えていた。三池岳の山頂まで引き返し眺望を楽しみながら昼食。

食後八風峰まで引き返し中峰に向かう。ピーク一つ越えると突然鳥居が現れ、その奥に八風明神の石碑が建っていた。八風谷におりる古い道を探したが、笹と

雑木におおわれ、完全に消えていた。笹をかき分けながら登り、ゆるいくだりをたどると中峰に着いた。右折して、熊ヶ岳の源流をおりる。はつきりした道はないが谷には印があり、左岸に古い道が現れたが四回か谷を渡る道は消えた。印は谷を直線おりていた。右から支谷が合流するとゆるいくだりの谷に変わった。右岸に道道が現れ、左岸に着くと杉林。谷間に道は続いたが、谷におりると道が消えた。谷の左に、「谷を二分下ると分枝」との道標があった。河原におりて右の道を上がり、右折して八風谷林道に向かう。杉林の中のゆるい登りをたどり、峠を越えると八風谷林道の終点に着いた。(平成7年11月16日歩く)

△コースタイム▽

八風谷キャンプ場(20分) 八風街道分岐(1時間15分) 八風峰(15分) 三池岳(20分) 御池(30分) 三池岳(30分) 中峰(40分) 八風谷林道分岐(60分) 八風谷キャンプ場

△地形図▽

2万5千11御在所山
昭文社「45御在所・鎌ヶ岳」

(宮野 明)

近世の古道を歩く③

旧中仙道から朝鮮通信使の道(JR草津駅・近江八幡駅 18キロ)

①草津駅・草津市(草津市) ②伊勢野(草津市) ③御池(草津市) ④大宮神社(草津市) ⑤伊勢野(草津市) ⑥近江八幡(近江八幡市) ⑦日牟礼八幡(日牟礼町)

中村 敏文

復を終えて平成8年4月27日に公開され、3日間は無料とて見学者であふれたが、十分に屋敷内蔵と貴重な宿場資料等を見学できた。

② 伊勢野神社(草津市伊勢野)

現存に残る文化十三年(1816)銘の道標に従い中仙道を北へと、あまり行くと、明治初年に祭神三神の頭文字を辻名とした伊勢野神社が右側に結核する。

近江源氏佐々木一族の六代当主が相模園から制したといわれ、石長比元命・寒川比古命・寒川比元命をまつ。宗廟建築の手法がよく残る重文の社殿は、棟札に必二(1488)銘と大工藤原明臣長が新兵衛・長宗父子の名字がある。

④ 藤原神社(守山市藤原町)

大宮神社から5分も行く守山市の二町町に入り、左側に市井神社がある。街村風の町並みが続くと藤原町で、諏訪神社がまつられ、近隣の参詣者が多い開闢堂と一田家の跡がある。

守山女子高校前から北にのびる中仙道の東側のバス道に入る。藤原バス停の北方に物部神社の藤原神社が鎮座する。経津主命・天火明命・三麻志麻知命をまつり、左々木高根が明応元年(1492)に建てた三間社流造檜皮葺きの本殿は重文であ



草津宿五分

① 草津宿本陣(草津市宿本陣)
草津駅から南へ5分、草津川(天井川)のトンネルを抜けると東海道の草津宿分、「左東海道いま道 右中仙道美のち」と記された常夜灯などがある。京から大津宿を経て六里(四丁)、江戸からだと一八三三二丁の東海道五三次の草津宿場は、古い建物と宿場らしい店の看板や草やかな「のぼり」が点在する。

国指定史跡の田中本陣が数室にわたる修

る。

伝えによれば大化五年(649)に、物部守麻呂が祖神をまつり物部神社と稱した。その他に延暦年間(704-715)に慶俊が建立したともいわれ、武岡の神である。織田信長が折衝文を奉納し、豊臣秀次が神領を寄進している。2000人の大規模な乱舞する1月8日の火祭り(750年の伝説を伝える有名な)である。



守山宿

⑤ 守山宿(守山・古身)

守山宿は古代の東山道の要地としていち早く形成された街村で、鎌倉時代には守山から京に向かう道筋を鎌倉道(志那街道)とも呼んでいた。織田信長も安土城から京への上洛路としてこの道筋を利用し、徳川家康も正式には上洛路としていた。

江戸時代には中仙道六十七宿の最終宿場となり、東下りの「京発ち守山泊まり」は一日平均七半(30%)である。現在の守山町が宿場の中心である本宿

守山で、今宿町と古身町は江戸中期に加宿として本宿に連統された地域である。

この地の領主は、宝暦九年(1769)より明治までは丹波国河津藩松平七万石で、本姓は徳川綱吉の丹桂宮院の出である本庄氏であるが、以後に六万・五万に一万石の大宅となり松平の名を許されていた。守山町の東門院は最澄が建立した延暦寺三千坊の一つで、観山の東端にあるので東福寺としたという。昭和61年に本堂・庫裏が全焼し文化財を失ったが、国玉文の鎌倉時代の石塔二基は現存している。

東福院から東へ曲がり、天鼓宮・森殿院のある古身町を行くと野洲川に沿く。

⑥ 行畑(野洲町行畑)

野洲川を渡ると堤防下に、野洲町野洲の十輪院がある。行畑の蓮華寺前から唯心寺前へと東へ行けば御上神社への道である。中仙道を直進すれば行幸神社があり、朝鮮人街場が左へ分岐して、しばらくは東海道路の東側に沿って北へのびている。

野洲駅の少し北で東海道路を横切って西へ行くと、久野部集落の入り口に、最澄が開いた長福寺が江戸期に再興された円光寺、東隣に大行幸神社、すぐそばに寺屋がある。

て、寺・宮・墓三者一体の形で残っている。藤原時代の阿蘇比知米を安んずる本堂と九重石塔、神社本殿はともに聖文である。

⑦ 生和神社(野洲町生和)



同光寺から少し北上して東へ折れて朝鮮人街場へ戻り、富坂のなかばまで行くと、平家末別御所の生和神社がある。藤原藤足の子孫の忠重は、

この地の表に住む大輪を退治して田入を致したといわれる。祭神は中重・野種神・菅田別尊の二神で、本殿と鎌倉時代建立の末社春日神社本殿は聖文である。

⑧ 御茶屋御殿跡(旧永原城(水原))

高野原を抜けて水原に入ると錦織寺への道筋に永原城の石垣が残る。室町時代に野洲郡域に支配を構えた地頭永原氏の居城

跡で、永原氏は安土本六角氏に組みして織田信長に敗れ、没落し文禄年間に廃城となる。

関ヶ原で戦勝した徳川家康はこの廃城を整備して、朝鮮使節の専用宿舎「御茶屋御殿」とし、その後は将軍の上洛時の休憩宿

合として利用されたが、現在建物は無い。北条家の浄泉寺の門と草津市の草津観音の聖文の石碑は御茶屋より移築した遺構である。

御殿跡から中北に入ると、平家盛の愛妾であった姫土・孤女の生埋地で、孤土やが



旧中仙道から朝鮮通信使の道村近地図

ある。再び朝鮮人自道に戻り、北・小南の単調な御手道を行くと、野洲町の北端は日野川である。

⑨ 近江八幡市(豊臣秀次の八幡城跡(下町))



仁保橋を渡ると近江八幡市で、十王寺前を通り加茂神社へ直行し休憩をとる。この地の名は平家末に親茂(雷神社)の御成跡高の御料地となっていた所以である。

白鳥川の小船木橋を渡り百平街道を進むと、安土より移した本願寺別院西御坊がある。朝鮮通信使の休憩舎食所や徳川将軍の宿泊にも利用された大寺である。道中の無事を感謝して日平八幡に参詣し、我々一行は野放し、八幡山に登るグループと城下町見学グループとに別れた。

塔と柿の里・斑鳩いかるが

松永恵一

柿食へば
秋になると大和路はどこへ行っても、赤く色づいた柿を見る。

「句集の東阿端の出口から外へ出る。茶店があってふゆう柿が委命を誇っている」

〔大和豆司〕 芥上教次

正岡子規は、明治二十八年の十月、鏡池そばの茶店に休んだ。

「少一行儀が悪いが、喰ひながら二間はかり先の子規の句碑を見に三丁く。『法隆寺の茶店に憩ひて』と詞書をして、柿食へば鐘がなるなり法隆寺 子規」とある。声の笑をすうすうと置いたような例の筆跡がなつかしい」

〔大和豆司〕 藤原雄も茶店で憩った。『十月』に記す。『そこで子規の茶店に立ちより、柿など

食べながらしばらく話とあひ、それからいっしょに玉蔵を見にゆくことにした」

若山秋水は詠った。

雲やゆくわが地やうごく秋更夜

鐘も鳴らざる古寺にして

「子規の茶店」として親しまれた茶店も、大正三年に取り払われ今はない。

「きのふは朝から一生懸命になって、新規に小説の構想を立ててみたが、どうも駄目だ。けふは師面と換のため最後のとおっておきにして法隆寺へ往って、壁面の模写でも見せてもらって、大いに自分を発奮させ、それから夢殿の前にある、あの處で『斑鳩物語』に出てくるあのなつかしい宿屋の上へ上って、そこで半日は小説を考えてくるつもりだ」

〔斑鳩 丁丸〕



法隆寺

黒松の並木道の参道を南大門へと歩く。願戸の皇子のありし昔より

しずけさもか新鳩の里 (五十年の閑寂な気分にとり、心静かにお参りできたのも、今は遠い昔の話)

いかるがの堂は御願堂

天宮にちかく藤ひらめけ

行く秋をしぐれかけたり法隆寺

〔斑鳩 丁丸〕

四のあたり生ける仏にあひまつる

熱れをもちて細つきにけり

〔小村翠石〕

美しき法隆寺は

千二百年余の昔に建ちけらし

嗚呼、巨いなる日本のことを示す

僧伽藍殿

かけはのぐらき金堂の

扉がし扉を共に看て

赤茶掘虫くをとめ予の

むかし情るも懐かしく

〔法隆寺〕 河井静雪

「わたくしたちは皇子の左側に立った。高い碑は静かに左右に開かれた。長い重幕もまた静かに引き分けられた。香木の強い匂がわれわれの感覚を曇ふと同時に、秘仏のあの奇妙な、神秘的な、何ともいえない顔がわれわれの眼に飛びついて来た」

〔古事談〕 和井哲郎

「立ちあらわれた彼世相書は、くすんだ黄金色の肉体をもった神々しい婦人であった。瞳のない銀杏形の眼と分厚い唇、その口辺に浮んだ魅惑的な微笑、人間というよりはむむしい野獣ともいえるような御姿であった」

〔斑鳩 丁丸〕

父子二代の塔再建 (斑鳩)

斑鳩の三塔、法隆寺の五重塔、法隆寺の三重塔、法隆寺の三重塔、塔の白眉と称えられた法輪寺の三重塔が、落雷のため消失したのは昭和十九年七月一日のこと。紅蓮の炎に包まれた塔が、ぐるぐる、ぐるぐる身もたえしているように回り、炎の中に全身が埋まっていくように、三重塔が初出にかぶさったような格好で、ダダダと崩れたという。

住職の井上隆徳師は、どうにかして再建を奔走するが、戦後の荒廃と欠乏の中で一般の関心も薄いまま、いよいよ月日が流れた。塔が雷火のために焼け落ちてから二十年近くなった昭和二十八年、ようやく法隆寺宮大工西藤敬光さんが、設計図を引き始める。住職が全面を回って集めたお金で、樹齢千年以上の松を台湾から買い付ける。いよいよこれからという時、住職の他界。

材木が積たわったまま塔は建たないのではないか、そんな噂が広まった時、父・幸田露伴の小説『五重塔』と重複し、露伴師の意図の切なさを感じ、ひそかに悪い言葉を寄せていた作家の幸田文さんの、捨て身の協力に立ち上がった。父の悲願の実現に奔走する重世師も、原資料も遺棄されいっ

さいき再建資金に注ぎ込み、肩を崩壊に移し、総木造りで最も古い様式を伝える塔の再建に全力を傾けた。

再建工事の棟梁は敬光さんの二息子の四間常一さん。本にはおのおの跡があり、それぞれが育った山の様子や、風雲に耐えた加減さによって木の心が違う。その木の心を細く合わせ、木の性質を組み合わせて建築物を作る。大勢の人がかわり、木の心を組み人の心を組み込み天柱ができたという。昭和四十九年十一月十日、上樑式。墨堤、短尺、手拵が祭壇に飾られる。身を清めた若き匠たちの手によって、空気が凝縮のいちばん上に納められる。

法隆寺第三、四間中、定規大権正の銘文奉納。皇子が悲願を受け継ぎ今日を継いだことを表す述べる。

住職康世師の表白。今まで多くの人の協力、ことに幸田文さんの献身的な援助に対しての感謝の気持ち述べられた。西園第一棟梁の墨堤。立烏帽子に赤衣の棟梁が、天地の神に加護を祈る祝詞を奉告する。木造りを歌う調子を、無事に建が立ったことを祝って住職をたたく櫓打の儀。多くの人の賛助と情熱で三重塔はよみがえった。昭和五十年十一月四日、落雷法隆寺。



法隆寺

「民間四本線」の法隆寺頭で下車。北出口。駅の東の道を北に行くと右手に茅池と呼ばれる湖池がある。池の北側を東西に走るのが古代の太子道、のちの養老道。西にとると、回道25号線と交差する手前の地蔵堂様に養老堂の井が残り、東に進む。道沿いには太子伝承遺跡が残る。神宮の黒い漆が現れる。ここ法隆寺は聖徳太子崩去の地。昔回堂跡。回道25号線沿いの法隆寺口へ。スグ近くに太子の養馬場跡を築いたといっ駒塚が残る。「太子崩す日、白駒(白駒)鳴呼と啼き、……一躍驚る……」と「太子伝書」は伝える。

回道を渡る。寺前の集落を過ぎ、聖明神社の北で法隆寺・法隆寺・法隆寺の塔、斑鳩の三塔が見える。創建当時の姿を今に伝える三塔塔の残る法隆寺は、聖木古墳。」「小前サン、塔に登りたいのですが……」「塔にお登りやすう、きたなまうおまっせ」といひながら無造作に承諾してもう線を取りに行くと。

北側の丘陵に三井其宮跡がある。白鳳時代のもので、法隆寺や法隆寺の瓦を焼いたものと考えられている。眼下に法隆寺と白蓮の光る民家の群、青い水をたたえた用水池。大和野が広がる。

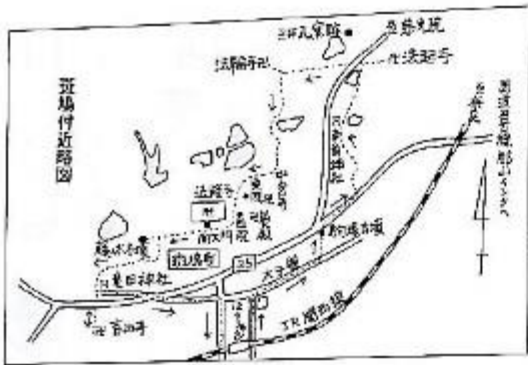
法隆寺から道を西にとると法隆寺に出る。法隆寺から道を通ると法隆寺に出る。くわんおんのしるまひたひにやうやくのかげうごかしでかせわたるみゆ(養老八)三井の里と呼ばれる。太子がここに井戸を掘り、わが子の産湯に使ったという美しい伝説が残る。赤紫の井が集落の西に残る。扇形の礎を積んでいて、古代朝鮮と同じ形式である。

さて、法隆寺に向かう。法隆寺から南に、左右の風物を楽しみながらゆるゆる歩く。このまま行くとも法隆寺へは狭口から入るようになる。やはり南大門から入りたい。中宮寺、東院をやり過して南大門まで回り道をする。参道には黒松の並木が連なる。大垣と呼ばれる背の高い築地塀を左右にのびた南大門。松の繁緑と白砂を置いた境内参道。参道の中間を真ん中に五重塔、右に金堂の礎が見える。いくたび訪ねてきても、引き締まった気持ちになる。

西院伽藍の蓮子窓とエンタシスの柱がリズムカルにうちつく回廊の美しさに目を奪われる。金堂に入ると釈迦三尊像に対峙する。聖徳太子の御遺物を祈るために止利仏師に造られたもの。飛鳥仏特有の杏形の戸、半月形の扉、面長の額は「古伽藍の笑

コース概観

今回のコースは、銀色の堂宇の輝、樹木の緑、古の香りたたく山鳩の田に、聖徳太子ゆかりの法隆寺・法隆寺を訪ね、世界最古の木造建築として有名で、世界でも屈指の文化遺産だと評価され、大切に保存すべきものとして、ユネスコの「世界文化遺産」に登録された法隆寺にお参りし、豊富な副産品で知られる藤ノ木古墳、法隆寺の守衛神・聖明神社、さらに古伽藍へと進む。



み」とたたえられている。周囲の壁面は、昭和二十四年の失火で惜しくも消失したが、その模写がはめ込まれている。薄暗く、重々しく、微雨な室内は、古代の空気がそのままここに氷結しているような空気があふれている。五重塔の御影掛は、仏教的な情景をあらわしている。

この地に班鳩宮が造営されたのが推古九年(640)。日本書紀は天武九年(679)四月二十日に「あかつきに法隆寺に災けり。一、屋も余ることなし」と記す。若草伽藍跡とともに法隆寺再建、非再建論争をまき起こした。若草伽藍は四王寺式の伽藍配置を持ち、現在の法隆寺堂宇よりも古い建造であろうと認められている。

古代に想いをよせながら回廊の外へ出る。聖徳太子の聖徳院は聖徳太子を祀るお堂である。前に広がる銀池の池畔に正四角子の白蓮がある。大正政成で「百済僧宮」に会う。多くの文人から絶賛を浴びた飛鳥彫刻を代表する仏像。スラリとした長身で、神秘的な表情。「推古仏には達のような大きな美しさがある」とは、志賀直哉の言葉。聖徳太子像、玉皇太子、仁徳太子、敏達太子、聖徳太子など、見たいものがある。聖徳太子の御遺物を祈るため上宮王院を創立した。太子の御遺物を祈る時、夢の中で東方から余人があつた、それ解答の教典の賜を下さる、と云う。承から夢殿と呼ばれた。

東院の東に接しているのが新羅菩薩で知られる中宮寺。天宮御影掛は、太子の妃大女御が太子を思んで作られたもの。西大門を出てまっすぐ進むと藤ノ木古墳。昭和六十年からの新羅三王ヒングニースとして発掘された。現在石室は埋め戻されている。六世紀後半に築かれたと考えられている。聖明神社は法隆寺を建立するにあつた土地を祭っているときに、聖明明神が伽藍建立の助成を教えたという。南に進み回道を渡る。中宮寺、ハッタリ寺を参拝され、下巻を供えて祈願すればその世話をかまらずに往生できるといふ。

この地に班鳩宮が造営されたのが推古九年(640)。日本書紀は天武九年(679)四月二十日に「あかつきに法隆寺に災けり。一、屋も余ることなし」と記す。若草伽藍跡とともに法隆寺再建、非再建論争をまき起こした。若草伽藍は四王寺式の伽藍配置を持ち、現在の法隆寺堂宇よりも古い建造であろうと認められている。

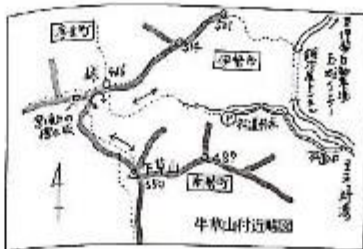
「コースタイム」
 京大寺駅(快速線)① 法隆寺駅(30分)
 法隆寺(5分) 三井其宮跡(10分) 法隆寺(3分) 三井(15分) 中宮寺(2分) 法隆寺(10分) 藤ノ木古墳(10分) 聖明神社(15分) 吉田寺(30分) 法隆寺駅
 (費用)
 京大寺駅、法隆寺駅 4,400円
 (地形図) 2万5千11 奈良山
 (問い合わせ先)
 法隆寺本山法務部
 TEL 7457 (5) 2 2111

2等三角点のある山

牛草山と姫越山

うしくさやま ひめこえやま
初級コース(★)

山形 蔵之



牛草山(百名山)は、米津の干支(五)の山である。また、仲西政一郎氏が選定した「近畿百名山」の一つでもある。名取自動車道を東に走り、関インターから伊勢自動車道に入って玉城インターで降りる。ここから志摩の五ヶ所湾に抜けるサニーロー

ドに向かう。伊勢市から徳島尾崎のトンネルを抜けて南勢町に入り、少し坂をくだった所の右手に、逆V字型で入る林道がある。坂をくだってくると、入り口は判りにくく通り過ぎてしまおう。幅は狭くて車一台がやっと通れるくらいだが舗装はされている。この林道を沢沿いに進むと、途中で舗装が切れ、さらに100mほど行くと終点になる。ここに車を置いて沢沿いの登山道に入る。

林の中をゆるやかな流れに沿って道はゆっくりと登って行く。数段沢を横切るが、靴を濡らすこともない。途中に牛草山頂登のテープがあるが、難路と書かれているので入らないほうがよいだろう。やがて峠に登り着く、まずひと息入れよう。

ここから緩やかな道を左に50分程行くと、白い林帯の標示板があり、ここで尾根道と分かれ左の山道に入る。うっかりしていると標線依り登ってしまうので注意すること。すなわち逆V字型に逆戻りするようになる。少しくだりきみののち、やがて牛草山に登って行く。木々におおわれていて山頂は望めないが、山頂の分岐にはテープがあり道も明瞭である。

良くないが、志摩の海が眺められる。登山道は全部木かげで日ざしが避けられ、沢沿いは水も手近にありのんびり登れる静かな山である。



牛草山山頂

▲コースタイム
林道終点(50分) 峠(20分) 牛草山
△地形図V20万 伊勢 5万 伊勢
2万 5千 五ヶ所浦

姫越山(百名山)

伊勢自動車道を勢和多気インターで降りて、国道42号線を紀伊長島町へ走る。紀勢町伊勢相模で錦への車道に入る。道はやがて国道260号線に合流して錦峠に向かう。ここから錦までは、大型車は通れない急坂の曲がりくねった国道になる。対岸の山麓には新しい国道が工事中で、この対岸の山麓の最高点が目的の姫越山である。本日に



姫越山



これでも雨道かと思ふような道はほとんどとくたつて錦の港に入る。錦は有名な磯釣りのメッカで、磯漁しの船がたくさん集まっている。姫越山は福徳港の背後にのびる山稜の一角にあるが、港からは前山にかくれていて山頂は望めない。地図には、錦の村の北はずれと、南部の浅間神社からの登山道が二つ記入されている。北はずれのほうが目印で近いのだが、たずねた村人は「手入れされていず、やがっているかも知れない」と言っているので、道回りになるが、昔道回りの浅間神社から登ることにする。

港の公園の道路に駐車して、目の前の尾根の突端に見える階段を登る。人家の裏側なので浅間神社への行き方をたずねるとよい。階段を登ると、これも神社かと思ふくらい小さい社が現れる。登山道はここから始まる。

道は右へ右へと目的の姫越山とは反対の海岸の方向に行く。しかし尾根を回り込む道はゆるやかなで、所々の小さな沢では水も得られる。やがて木の間から熊野灘の灘が覗きかえってくる。すこい音と立ち立つ海、壮麗である。やがて少しくだつて尾根の端に着くと、姫越山の道標が現れる。ここは声

派との分岐点で眼下に青浜と小さい池が望まれた。

ここからが登山の始まりで、尾根の上を登っていく。道沿いにケーブルのび、上にはマシナがあるらしい。道中に中部電力の標識が打たれている。尾根上に出ると古鉄塔や電線の資材が散置され、工事現場の工事が中止されたようだった。



錦の浅間神社

前山を乗り越すと、自然を少し積んだだけの姫越山が現れる。ここからひと登りで山頂に着く。展望は期待できない。標高は508だが、海抜から登るとは道回りの道、その上三つ程のピークを乗り越えればならぬので、けっこう疲れた。

錦港の北から登る道は標高からでも分かるなかつた。
▲コースタイム
錦港(1時間) 古浜分岐(1時間) 2分 姫越山(15分) 姫越山
△地形図V20万 伊勢 5万 長島
2万 5千 錦

江戸時代の信仰の道

宝山寺旧参道

初級コース(★) 柴田 昭彦

宝山寺は聖天信仰によって発展を遂げ、江戸中期から大正期にかけて、周辺からの参詣道が六本も存在していた。辻子越・八丁門越・正面参道の二本は、現在でもハイキング道として利用され、宝山寺で購入できる「古道に因る信仰の文字」(生駒長裕会)の冊子に詳しく紹介されているが、菜畑参道・暗峠参道・庄兵衛道の二本については、簡潔な紹介があるだけで人々の記憶から消え去りつつある。庄兵衛道については、本誌29号(96年7・8月)で紹介したので、今回は菜畑参道と暗峠参道をたどるコースを紹介することにしよう。

(全長大巻)である。参道を上がると右側に緑結びの杉がある。北へ続く道をくぐると出口に古い石橋がある。左へ進むと道が左右に分かれる。左側に安政五年(1858)の道標が立つ。左への道が菜畑参道で、少し歩くと五つ辻に出る。カーブミラーの立つ曲折の多い道を進む。次の分岐の左手にマンションの入り口があるが、舗装のため半ば埋もれた道標が左隣にある。ここから宝山寺方面がよく見える。道なりに進み、右へカーブしたあと左側に旧家が現れる。次の分岐で右をとり、橋を渡ってすぐ左折する。川沿いに進み、ガードレールのある橋が見えたら手前で右折する。この分岐点にも道標が立つ。谷に入る手前で右側の坂道を上がる。右手は岩の集積地である。林道に合流し、雑木林の中を進む。気分爽快である。林道が左へカーブしてきたら、左側の岩に注意しよう。岩を見つけたら、右手の木にテープの印があり、林道と重なっていない菜畑参道の入り口となっている。中へ入ると少しやぶっぽい。通行には支障がなく敷石の名残りもある。ほどなく右手にコンクリート壁が現れる。この先は排水池が埋められて中部配水池が建設されたため、昭和57年末以降は通過不能となっていた。昭和57年末以降は通過不能となっていたので右手の階段を上がって



かつて、菜畑参道が正面参道と合流していた地点

橋を渡り少し上がると、正面参道と交叉している。参道を上がり、三丁、四丁の丁石を見ながら数分歩をたどる。大正三年に高橋治之氏のつけた高橋道と合流したら左折し、すぐ右折すれば、左手に五丁石橋が見つかると、その上に、女人宮趾の願影碑が立つ。その上には正面参道と菜畑参道の分岐点を示す安政四年(1857)の道標がある。六丁石橋を見て石段を上れば宝山寺に到着する。たどってきた菜畑参道は、中大和・南大和の人々が利用したものである。宝山寺からケーブルの右側の道を上がり、磯ヶ丘駅の上側の道をたどる。この暗峠参道は昭和四年にケーブルが開通するまでは、旧水呑大陣(現暗峠寺)の南側に、辻子越との分岐点があったという。よく踏まれた道を行くと五つ辻があり、道標に従って右

へ上がる。途中にベンチがあり展望が開けている。歩きやすい爽快な道が続く。生駒山上からの道と合流したあと、急坂をくだれば日本最古といわれる八咫王(雨乞の神)がまつてある。奈良時代建立の鬼取山觀音寺の跡と云われていて、復行者の霊感治の伝承地である。薬師山崎



林寺、元薬師ともいう。境内には道標が立ち、室町初期の地蔵石仏が蓮華台に鎮座している。石段をくだると薬師の滝があり、春から夏にかけて行者たちが修行にやってくるという。その前を横切って、心細いような踏み跡を水平に南方へたどっていくと、5分ほどで「家の薬師」と呼ばれている所に着く。永正七年(1510)銘の十二仏(地元では「うっせ地蔵」と呼ぶ。「奈良原史」右巻「参詣」(後編)が建てていて、ここが古くからの交通路であり、暗峠から宝山寺への参道であったことを窺わせるが、ここから先の道はたどれるのはわずかで、樹林に埋もれ廃墟となっている。薬師の池へ戻り、鬼取町への急な急道をくだる。岩が散在している中を通り、立合池の堤の下に出ると好展望の地である。左手の池の手前の岩壁に、梵字で「ア」と刻んだ行円(安中期の遊行僧)の銘

記がある。「ア」とは、どんな仏様をも表せるオールマイティな文字である。前方に民家が見えたら、右手の池の石垣の前へ回り込み舗装道へ出よう。急坂をくだると大幡寺がある。ここは観音寺の入り口にあたる「明堂の門」と呼ばれている所である。その少し下だった右手に歯痛地蔵があり、大門西の入り口のカンジウの森だといふ。大幡寺・竹林寺・別院神社を経て一分駅へ帰り着く。

平成8年1月21日・8月5日(日歩) ▲コースタイム▼ 近鉄一分駅(1時間)宝山寺(35分)八咫王(5分)十二仏(1時間20分)近鉄一分駅 ▲地形図▼を乃子山・生駒山・信貴山 上方・生駒山・生駒

前著「特選コースガイド」庄兵衛道(29号)所収の修正 29頁中段以降「菜畑参道」と誤記修正 29頁中下段「庄兵衛道の道標本文」について ①文獻(即ち、道標)ではなく、道標の紹介している。 ②道標の③において、すべて、右を左に、左を右に訂正。 ③道標の④で、右元山を左元山に訂正。

特選コースガイド⑧

鈴鹿

思わぬ展望に恵まれた

赤石

中級コース(★★)
慶佐次 盛一

犬上ダムの西南に位置する赤石は、名だたる名峰を連ねる鈴鹿の山の中では際立つピークでもなく、登山者からは見捨てられたような存在だ。だからこそ静寂な頂を楽しめることにもなり、予想外の展望にも恵まれる。しかも、頂上まで高圧線の巡視路を利用できるし、電車とバスを利用するだけの交通アクセスも便利である。

東海道本線河越駅下車。駅前で待っている湖北バス普屋行きに乗る。バスは犬上川沿いを軽快に走る。犬上の名の由来は、その昔、犬と共に狼に出た箱根別王命が木の下で憩っていたところ、木の上で大蛇が主君を襲おうとしていた。それに気づいた犬がけたたましく吠え立てた。何も知らぬ主

君は、あまりにもやかましいのでその人の首を刎ねた。刎ねられた犬の首は木の上的大蛇に噛みつき、主君の危機を救った。これを知った主君は殺した犬を憐れに思い、六神社を建てておんごころに葬ったという。それが犬上の名のおこりで犬上部の名にもなっている。

ただバスにゆられて周回などをすると、りも、こんなちよとした知識を事前に仕入れておけば、山へのアプローチも楽しい。バスはその六神社を右に見て走る。終点の一つ手前の須田のバス停で下車する。終点の吾原で下車するよりも、地形図の極頂のすぐ南の吊り橋を渡って赤石北麓の林道に入った方が早いと考えたからだ。

ところが、この吊り橋はとうの昔に取り払われて今はない。結局は一つ先の吾原のバス停まで一歩歩くことになった。地理院の地形図もあてにならないと、こぼしながら歩いたが、道標や秋色標や山頂の見事なケヤキを目を見張った。

終点吾原には東国風のバス停がある。旗守橋を渡り右折。犬上川の左岸を北へ歩くと、白いガードレールの橋を渡る。左に「八ツ尾山国有林」と書かれた大きな看板があり、左折して地道の林道に入る。左に谷川のせ

せらぎを聞きながらの気持ちのいい林道だ。右の深谷林道を過し、赤石北尾根に沿って高圧線をめざして歩く。



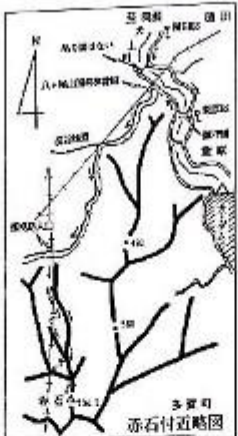
赤石からの展望

高圧線は視路に気をつけながら歩いていると左に「火の用心」と書かれた標識が現れ、そこから谷川を渡り視路に入る。最初は沢状の草むす道っぽい道だが、左に巡視路への標識があり、赤石の北尾根へ階段を登る。途中で右に分かれる巡視路があった。実はその巡視路をたどったほうが赤石には楽に登れたのだが、巡視路は緩線にあるものとなって思いこんでいた私たちは北尾根の高圧線鉄塔まで登った。ところが巡視路はここまでだった。

やはり先程の右の巡視路が正解だったと気づいたが、せっかく険しい高度を落とすのが嫌でそのまま標線をたどる。やぶっぼ

い険線だが森林公社の赤い杭があり、かすかな踏み跡をたどり高度を上げて行く。西に赤川山を見ながらしげく登っていると、再び右からの巡視路に出合う。しかし巡視路は北尾根を大きく巻いているようなので、そのまま標線を登る。

少し傾斜が増してきたが、雑木の間から赤石の頂が見え隠れして頂上が近いことがわかる。また石からの巡視路に出合う。今



度はもう頂上が近いということで巡視路をたどり、途中から巡視路から分かれて左の雑木を分けて登ると赤石の3等三角点に出た。荒々しく切り開かれた雑木の中に三角点が睡まるだけの山頂で、展望にも恵まれない。ところが登事を終え、付近の様子を探りに東へ雑木を分けてみると、なんと目の前に鈴鹿核心部の山々がパノラマのように広がっているではないか。

近くに弘根さん、天狗堂。奥には長大なスカイラインを推く御池岳と嵯原岳、静ヶ岳、竜ヶ岳までも視界に入るというすばらしい展望だった。今までの展望よりいっしょに恵まれた。山だから、昔思っていた写真のシャッターを切り、下山にかかった。

登山情報など、投稿募集中!

登山・ハイキング バス時刻表

近畿 96夏秋号

JR用時刻表には掲載のない路線も多数収録
登山道に通じる停留所をピックアップ
登山・ハイキングファンのためだけの時刻表です
三重・滋賀・奈良・和歌山・京都・大阪・兵庫の2府6県をカバー

関東 96夏秋号

東京・埼玉・神奈川・静岡東部・山梨・栃木西部・群馬・長野中央部を収録!

「関東版」「近畿版」ともに書店や有名スポーツ店で発売中!

関東版・近畿版とも 86円(定価)200円
tel.03-5285-7445

書苑新社

連載

達芬尖山

山形歳之

八通関は登山路の分岐点で、「玉山6.6.」秀姑巒山12.4.、觀音崖(東埔温泉)2.3.2.等の道標が立つ。東埔温泉は今回の私たちの下山路である。

八通関は夏のシーズンには、たくさんキャンパーでにぎわうそうだ。ここから八通関古道に入る。庫方はかな山並みの中に、ひととき突出したピークが見える。「あれが達芬尖山ですよ」とガイドが指さす。明日の目的の山だ。そう高くはないが、遠く霞んでいてとても一日で行けるとは思われぬ。もともと道標は承知していたが、山を望んでその遠さに、あらためて明日の山行が思いやられた。

八通関古道は沢沿いの中腹に水平に付けられていて、林の中をぬって行く。途中八通関大山の登山口を過ぎて、2時間足らずで巴奈伊克小屋に到着する。

小屋は道の山側に建てられた古いプレハブ小屋で、路側より1.5mばかり高い所にある。出入りには不自由で斜面をよじ登らねばならない。八通関小屋と同じように戸はなく開け放たれたままで、格子式の高窓が付いていた。床は半分程板敷が残っていて、何とか8人くらいは寝られそう。八通関小屋やこの後に見た白洋金嶺山小屋、達芬尖山小屋も同様のプレハブ小屋だが、申し合わせたように入り口の戸がない。最初からなかったとも思われず自然の力のせいかな、もともと南回台地では、今の3月で朝は摄氏10度くらい。寒さは感ぜられなかった。

小屋の前と少し先に空地があり、7.1.9張のテントが張れる。水量は少ないが30分くらい先に水場もある。谷ははるか下で、水音も聞こえない。木々に囲まれた静かな



達芬尖山と山小屋

所である。明るうちに夕食をとると、日没(18時15分)とともにシニラフにもぐり込む。私たちはこの小屋に三泊した。

達芬尖山と違って、谷筋でいくぶん高度が低いせいか思ったより寒くない。午前8時起床。餅入りラーメンの朝食。バック御飯の茹でたのを弁当にして午前4時出発。寒暖計は摄氏9度を示し、空には星がまた

たいている。きょうも天気は良さそう。ライトを手にガイドに従い山腹の道をたどる。まっ暗でよく判らないが、谷側に深く切れ落ちていくらしい。一步一步注意して歩を進める。15分程で秀姑巒山との分岐点に到着する。沢沿いに直進すると秀姑巒山である。

きょうのコースは、ガイドマップによるよ登り7時間、くだり6時間半、休憩を除いて13時間半の長丁場。これでは往復ともライトが必要である。分岐から沢に向かってくた。こちらのほうが八通関古道である。15分程で沢を渡る。暗くて周囲の状況がよく判らず、対岸の道を探すのに苦労する。道は笹がかがぶっているがはっきりして、まっ暗な中、ガイドに離れないように登っていく。



達芬尖山村近略図

「巴奈伊克小屋1.8.」村隣地1.1.」の道標の所でひと休み。目的の達芬尖山の文字はなかなか出てこない。やがて足元も明るくなり峰に登り替くと、はるか達芬尖山が姿を現した。高度3090mのこの峰は達芬尖山と標高は同じであるが、道は大きく大氷窟山の中腹を迂回し、谷を隔てた中央山脈の先で、気の遠くなるほどのかなたにある。

気をとり直して歩を進める。ここから大氷窟山の中腹を横断する水平道が4.5.ばかりも続く。水平だから歩行は楽だが谷側はすこい絶壁で、道幅も狭く、山側からかぶさる草が体を押すので、いっときも足元から目を放せない。やがて杜鵑谷地に到着する。広場ひと休み、テント十数張りがある。少し先には大滝があり水も得られる。

前方を眺めると中央山脈との間には深い谷が横たわり、この深い谷にくだつて又登り返すのかと思ふと少々うんざりする。長い長いくだりは帰りの登りなおしと思ひやられる。やと沢に到着する。ここはもと小風跡で、先着していたガイドがお湯を沸かして待っていた。コーヒータイムでひと息入れる。ふたたび北面山への長い登りに挑戦する。この先達芬尖山まで、また二つの山を越えて行かねばならない。所々に咲く石楠花の花もゆっくり見てもいられない。道ははっきりしていて迷うことはないが、北面山まで1時間半の長い登りだ。北面山からは南側尾根をたたらとくたつて中央山脈終走路に合流する。ここには「大氷窟山3.6.」達芬尖山3.9.」の道標が掲げていた。

終走路を西へ、三つ目の3171mの山も非常に登りが長い。北面山が3214m、次の無名のピークが3171m、達芬尖山が3208m、と標高は大差ないが、まだ先は長い。やっと達芬尖山が大きな姿を現してきた。しかし、その間にはまだ深い笹藪があり、大きくくたつて登り返さねばならない。まだかまだかたくたつて最低部に達すると、いよいよ最後の登りにかかる。

京阪電車事業部06(944)
25250

▽スズキツアミリーバイク・東
山三十六峰シリーズ④「福満山・
清水山」10月13日(雨天中止)集
合伏見稲荷大社15時00分(コー
ス)伏見稲荷駅・伏見稲荷大社・
一ノ峰(加納山)・豊国稲荷清水
山(高台寺前)八坂神社(船場)
四交駅(約11・5分)参加白
由・京阪電車事業部06(944)
25250

▽比良連峰アタック「ヤケ岳・秋
連岳」10月27日(雨天中止)集合
J.R北小松駅9時50分(コース)
北小松駅・比留げんき村・根物の
滝・流崎・ヤケ山・タンヤマの岨
・ヤケ山・フジハゲ・駒形市
カラ岳分岐・シヤカ岳駅(リフト)
山麓駅(バス)比良駅(約7分)健
脚河)参加自由・京阪電車事業部
06(944)25250

京福電車

▽京福バイク・王朝の野庭園「氷
室の里」「沢ノ池・京福コース」
10月6日(雨天中止)集合京福電車
高塚口駅9時10分(コース)高
塚口駅・鳴滝・沢ノ池・上ノ水跡
・京福線 水室・山手橋 参加自
由

由・京福電車事業部075(80
1)50321

神戸電鉄

▽丹生山田の秋まつり「六條八幡
宮神楽祭見物バイク」9月15日
富津駅集合10時10分(コース)
富津駅・長坂山麓(六條八幡宮
神楽)・長坂山麓(約8分)八幡
宮(神楽見物)参加自由(約8分)八幡
宮(神楽見物)参加自由(約8分)
1)50321

▽交と徳のベージュ「健脚院
大塚温泉見物バイク」10月10日
船場集合10時10分(コース)
志保駅・白田が丘(六地蔵)千体
地蔵・加那院(大塚温泉)・神船
バス(加那院)約8分(一般向)神
鉄観光事業部078(522)0
3221

▽丹波の勝野の里を訪ねる「鹿生
蔵山と立石の里バイク」10月20
日(雨天中止)集合10時20分(コ
ース)藍木駅・酒車神社・鹿生蔵山
・又統の里・J.R相野駅(約12分)
一般向)神鉄観光事業部078
(522)03221

うもり谷・シビレ山・丹生山・神
戸市バス神社前(約13分)上級
向)神鉄観光事業部078(522)
1)0321

山陽電車

▽山陽ハイキング「ひよどり森林
公園バイク」9月8日(雨天中止)
代取(文化体育館前)10時(コー
ス)県立文化体育館前・徳政山
ひよどり森林公園・神鉄橋越駅
(約9分)一般向)山陽電車ハイキ
ング係078(941)6915
6

▽山陽ハイキング「ノスキと麻生
山(小富士山)バイク」9月22
日(雨天中止)集合10時(コー
ス)市立孝徳公民館前
10時(コース)市立孝徳公民館前
お祭山・麻生山・白浜の宮駅(約
10分)一般向)山陽電車ハイキング
係078(941)6915

▽山陽ハイキング「御津町イモ畑
バイク」10月6日(雨天中止)
集合山陽橋越駅(白旗保山河川敷)
10時(コース)揖保川河川敷・R
2500 菊屋・成山新田上高野神
社・龍山寺・大谷等(山陽橋越駅
(約10分)家族向)山陽電車ハイキ
ング係078(941)6915

○新ハイランドサービステーション
名前・二軒山・小倉等(大和郡)甲
子・津原の郷(大和郡)1名(白旗保
山河川敷)1名(津原の郷)1名(内
務省)

福島・二峰温泉

日蓮達 大和館

〒949-0101
福島県福島市大谷村二峰温泉
0248-13411
0248-13412
0248-13413
0248-13414

鉄友鉄道 クーポン券も
東武鉄道 利用できます

秩父 不動の滝

〒368-0000
埼玉県秩父市山田2-43-12
電話 049-41-2311
1126

富士登山・富士五湖
買物連自然歩道
(石巻山・ハリス・精林)
三蓮山の麓
スズキツアミリーバイク・東山
山陽ハイキング コットンテール
〒401-0105
山梨県南都留郡山中湖村平野
05555-1185
115

大菩薩連嶺の中継
大菩薩連嶺の中継
大菩薩連嶺の中継
大菩薩連嶺の中継

▽山陽ハイキング「六甲連嶺台・
有馬越バイク」10月20日(雨天
中止)集合山陽電車事業部06
阪急海影駅(山側)10時(コー
ス)深田池公園・白旗保山河川敷
切道・浅草台・紅葉谷道・神鉄有
馬温泉駅(約13分)健脚河)山陽電
車ハイキング係078(941)
6915

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「宇賀深砂山
(沢コース)」9月8日(雨天中止)
止木集合近鉄富田駅三岐線ホーム9
時(コース)富田駅(電車)大交
駅(バス)宇賀深砂キャンプ村
(沢コース)宇賀深砂キャンプ村
(砂山コース)砂山・宇賀深砂キ
ャンプ村(バス)大交駅(電車)富田
駅(約8分)参加自由 参加費2
00円・三岐鉄道通運課観光係0
5933(64)2141

▽鈴鹿の山を歩こう「初秋の御池
岳」9月22日(雨天中止)集合近
鉄富田駅三岐線ホーム8時(コー
ス)富田駅(電車)西濃原駅(バ
ス)御池岳登山口(コケツミ倉
一池池)鈴鹿北詰一級峠(バス)
西條原駅(電車)富田駅(約11分)
参加自由(雨天中止)200名
参加費166円 バス代大人10

90円 小人500円、三岐鉄道通
輸課観光係05933(64)21
41

▽鈴鹿の山を歩こう「初秋の電ヶ
岳」10月13日(雨天中止)集合近
鉄富田駅三岐線ホーム8時(コー
ス)富田駅(電車)大交駅(バス)
宇賀深砂キャンプ村(五ヶ岳)石
谷出合(山道)一鶴ヶ岳(石神
峠)小峠(旧道)一鶴ヶ岳(石神
峠)宇賀深砂キャンプ村(バス)大交
駅(電車)富田駅(約12分)健脚河)
参加自由 参加費200円・三岐
鉄道通運課観光係05933(64)
2141

▽鈴鹿の山を歩こう「晩秋の藤原
岳」10月26日(雨天中止)集合近
鉄富田駅三岐線ホーム8時(コー
ス)富田駅(電車)西濃原駅(バ
ス)富田駅(電車)西濃原駅(バ
ス)大交駅(電車)一級峠(バス)
一級峠(バス)富田駅(約8分)参
加自由 参加費200円・三岐鉄
道通運課観光係05933(64)
2141

奈良交通

▽万葉の大和路を歩こう「巨直立
つ巻城古道」9月22日(雨天中止)
集合近鉄大板駅(雨天中止)参加自
由

ス)大和郡田原(バス)高橋神社
一柳堂・高天原神社・藤原寺・長
柄神社・三宮神社・藤原天皇古
丘宮跡・丹波寺前(バス)大和
高田駅(約10分)参加自由(約10分)参
加自由(雨天中止)参加費200円
00円)のほかバス代と洋服料な
どが必要*参加申し込み制*日前
までにハガキか電話で〒66303 奈
良市大谷町上1丁の25奈良交通
「万葉の大和路を歩こう会」宛07
42(20)8100

▽万葉の大和路を歩こう「神さぶ
る三輪・山の辺の道」10月27日
(雨天中止)集合JR・近鉄桜井駅北口10時
50分(コース)桜井駅・初瀬川・
海老瀬市跡・磯城御本神社・大
神神社・拾原神社・井寺池・孝中
・笠野内・藤原天皇陵・志保天皇
陵・森田万葉歌碑・大和神社(御
藤原)中山(バス)桜井駅(約8
分)神前武庫川女子大学教授和由
翠美氏、参加費は無料ですがバス
チケット代(400円)のほかバス
代と洋服料などが必要*参加申し
込み制*日前までにハガキか電話
で〒630奈良市中谷町1丁1
の25奈良交通「万葉の大和路を歩
こう会」宛0742(20)3100

海から見る朝日と夕日に沈む夕日
を眺め、山と海との両方が楽しめる。
大佐渡島は島の風情、早と夜
景に酔いながら眺めたい。ははは
国民宿舎 大佐渡ロジジ
〒102-8202 新潟県佐和田市
025-262-1714
025-262-1715

尾崎 平ヶ谷(尾崎と釣りの山小屋)
尾崎 三井物産(尾崎と釣りの山小屋)
清二郎 小島
ほんもの手打そば(尾崎)
尾崎 海
〒949-0101 新潟県中頸城郡
妙高町妙高 0255-1851
0255-1852

高山の花、忍原の花
妙高山・火打山
忍原山を二季楽しめる山小屋
黒沢池ヒッコリ
〒949-0101 新潟県中頸城郡
妙高町妙高 0255-1851
0255-1852

海から見る朝日と夕日に沈む夕日
を眺め、山と海との両方が楽しめる。
大佐渡島は島の風情、早と夜
景に酔いながら眺めたい。ははは
国民宿舎 大佐渡ロジジ
〒102-8202 新潟県佐和田市
025-262-1714
025-262-1715

せせらぎ

題字・小林玻璃三

5月16日の木曜ハイイクの井ノ口山・片波山山行のため地図や本を見ていた。『片波山は森本次男氏が名付けられた』と、なつかしい名前を見かけた。

うん数年、森本次男先生の晩年の頃、「女子とのおんりり歩くはうかいよ」と北山の峠や木馬路の峠歩きにつれてもらった。北山で朽ちかけた木馬路に足をすべらせ、怖くなって足が震えた。先生に、「木馬道を怖がってはい、北山は歩かないよ」と笑われた。となぞ、懐かしく思い出された。ドジッ子も今はすっかりおばさんになり、昨年より新ハイイク西の仲間に入った。

木馬道が苦手で歩みにくかった北山も、今はほとんどの木馬道も

林道に変わった。北山で一番高い皆子山や焼酎岳・井ノ口山など大好きな北山の、ホクホクした土と杉林を今になってまた歩けるなんて夢のようで感動。だが、林道ができてだれでも行けるようになると、井ノ口山等の天然記念物状台形などの樹元の地面が踏み固められ、根が枯れてしまうおそれがあるとか。なかには心ない人が巨木にナイフで名前を刻み付けたりするの聞く、心が痛む。

健康で歩けることに感謝し、小鳥のさえずりやせせらぎの音に耳を傾け、草木や花と語りながらいつまでも歩きたい。一步、一步また一歩。(相井 和子)

5月26日、西月沢の寂峰・菘

途中のツキノワグマの生痕調査用の罫や木の幹に残る鋭い熊のツメ跡を見て、「こりゃあ、大波」と思々に鉛を出すが、ザワザワと仲間が笹をかき分けながら追ってくる音もまた無気味だ。

重い荷物を背負ったのやぶこぎの連続は、いい加減うんざりするが、涼風快感の中、木々の間に咲く方線一紅のトラゴキミアパンツジや林の斜面に咲く美しいエビネやコケイランの花、また元気なブナの明るく新緑など無心に生きた草や木に元気づけられて、寂野山の頂にたどり着いた時は更わす「パンサーイ」と真心に叫ぶ。

早速コーヒーマシを沸かし、背々と暮れかかる山並みを前夜下、ほん

林道登山入門者歓迎
10名以上マイクワバスで送迎
箱根仙石原温泉
箱根 仙石原 温泉 館
〒250-0066 神奈川県足柄下郡
箱根町仙石原 1330-3
電話 04560-4900-1

四葉旗のなす登城跡のハイイク
上野地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき道り味の宿・日蓮連
温泉旅館 けやき山荘
〒360-115
長野県南木曾郡安曇野市乗鞍温泉
電話 02663-9312555

さわやか信州
露天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
〒381-004 長野県下高井郡
山ノ内町湯田中温泉後波
電話 02669-333576

標高2000.0 血堂上の温泉
海の丸島崎自然休養林
ハイキングにXCスキー
高 峰 温泉
〒384
長野県小市市高峰温泉
電話 02667-2512000

やり陰む夕暮れの中流らぐ土山を遊歩しながら、長い尾根歩きの実感に浸った。帰りはヒメイチゲ咲くフナ沢沿いの道をくだる。蛙の合音を聞きながらバス停に着く頃には、とっくに最終バスは出て月明かりの中。

近くの民家で電話を拝借してタクシーを呼ぶと、その家の方から「寒いでしょ? 車を持つ間暇まって行きなさいよ」とこたづけよばれ、熱いお茶と熱いものや漬けものなどの持てなしを受けて送別する。

郷愁を誘うような山道での親切にすっかり身も心もあたたまり、都会人が忘れ去ったよつな人の優しさにふれて、きょうの山歩きが一回思い出深いものとなった。

(霧生 功)

6月初旬、阿蘇山と相母山へ登った。ミヤマキリシマ咲く仙傳歌から、私たちが女性パターナ四人は観光客の視線を背に浴び、遊歩の扉板に取りついてる時間、高橋が中岳へ阿蘇の大草原を遊歩した。

翌日は名実共に祖母さん行。全関係ありの印を、心を引き締め、5時40分には居平の宿を出た。

ところがいつの間にか道があやしくなり道標もない。後河、最後の道標確認地まで引き返し、その道標を見見。沢を渡る地点で足踏とし山中の道迷い入っていたのだ。あと後面通りに山頂へ。神話と伝説の石祠の前から傾山へ続く橋梁や久住山の噴煙を眺めて下山した。

14時半無事居平へ。夕刻の18時には別荘兼ホテル・サンフラワール号の乗客となって、ゆつくりと山道の余韻をかみしめていた。

(青木 美津子)

山と渓谷を往復行の「中七郎年の山ベストコース(関西川沿道)」(高田收樹)に、琵琶湖をめぐり山々として湖北の山に巨鳥山が取り上げられている。足取りが少し涼しいのであまり関心はなかったが、6月初旬の遊歩阿蘇月町の鎌倉の里を歩いたとき、湖北松林の中心地だったと説明されるこの山を感得てから一度登ってみようと思った。そして一か月後、降水確率0%の7月4日(確率10%以下でない)と登山を歩かないことになっている。それを克服した。

道は分かりやすく、六地藏や牛

止めの岩に背を思いやりながら八合目の鶴尾寺跡に達し、さらに「捕鯊の道」を進んで最後の急登をこなし頂上(標高923.33)に到着した。成長した樹木のため展望は利かなくなが、しめ縄が回された大岩にも山岳神話の時代を想わせた。

急坂の連続だ。たためか、出発

点の林道(八合目)に降り立った時、賑が賑々、膝はガクガク、爪先はツキンチで立っているのも嫌になり、しばしばは脚向けになるありさまだった。40年前には富士山も立山も麓から登りきったほどの勇力があったのに、78歳の想像するら簡単にこなせなくなったのか。そう思った感嘆や、梅雨を理由に一か月も山登りを怠っていた報いたるつかとささざまな思いが去来する。

それにしても登りくたりの間はもろもろ、こうして休んでいてもだれ一人出合わない。5月の大田原(奈良原で無理)でもそうだった。平日の登山は無人数が多い。中高原の山ピークと三つわても獅子山や有名な山(阿 日本百名山)だけに日が向いているのであるからうかつともあれたりよ。

日本地質院の温泉 2493号
立山・室堂平
みくろが池温泉
連絡先 0300-14
高山市新山部大山本 056-47
0766-4-83-1880
4/8/11/25は定期
電話 0766-4-85-145000

ハイキングにノスキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 無の湯温泉バス
電話 02669-34242-1
東京本社・東京駅前新宿区新宿3-1-20 (15) (箱根東三本丸)
電話 スキーツアーサービス
電話 03-8534-0211

箱根の道 千國街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランドシエ
〒360-115
長野県南木曾郡安曇野市乗鞍温泉
電話 02663-9312555

箱根より日本カモンカ毎日20頭
以上、北アの観光客、北ア
全体の大勢の観光客、箱根
御用部、箱根大田原
あふれんばかりの山荘
〒358-2 長野県上高井郡
高山村山田牧場 奥山田温泉
電話 02622-420000

ともあれ、今回の山道はほとんどが樹林の中だったので強い日差しを受けることなく、吹く風も爽やかであり、朝早く六地蔵や牛止めの岩の所で拝啓朝や緑北の町の眺望が開けて、気持ちよくハイキングできた。(東谷 宏)

「山へ行ってくるとわが家を出た回数、最近の三年間で百回を数える。人によっては多いとも少ないとも思われるかも知れない。二泊や三泊の時もあるがほとんどが日帰りである。またそのうち約半分は単独行である。」

単独行山については賛否両論の議論があるが、それをいままらうとは思わない。年を経るとともに家人の気遣いが多くなり、出来るだけグループ登山をしてくれとされる。そのせいでないが昔のことを思うと一人歩きの数もずいぶん少なくなった。だからと言ってこれからは一人の山行をやめる気は毛頭ない。

近郊の山にはいつでも登れるし、老年になっても気力と体力があれば行ける。しかし山小屋宿まりの道は辛くなるだろうとかつてな

理由をつけて、最近では今のうちにとばかり、遠征の道に由けることも多い。

いつまで山に行けるか分からないが、気力と体力の衰えが「山へ行ってくると」と元気に出かけた。

梅原岳には14年間住んでいたが、この山にも古くから登っています。

「梅原岳」は、花の百名山に名を馳せ、鈴鹿では御在所・鎌ヶ岳と並んで有名な山の一つです。梅原町には14年間住んでいたが、この山にも古くから登っています。

梅原岳は天狗岩の1771mですが、山頂小屋のあたりは約1100mになります。通常鹿野岳を山頂にしている案内書が多いようですが、高さが気になります。高度を標高1120mとした本が多いし、また現地の標高も1120mとなっていますが、実際は1140m以上あります。高さが不明なのは三角点も標高も無いからで、小屋の西に標高1120mの三角点があるのですが、そこから見ると思えます。見晴らしも天狗岩より鹿野岳のほうが良いです。小屋からの距離も近いの

で訪れる人も多いようです。梅原岳には二つあるのですが、隣の御池岳は一つもありません。梅原岳の土着岳にあるのみで、大きな山になせ無いかと思えますが、平頂峰の山で見通しが悪いのでしょうか?

御池岳の完全縦走(無積雪期・ヒコバから奥の平の峰まで)は小生もまだ実行していません。今年ぜひ実現させたいと思っております。(山田 明男)

梅原の晴れ間にヒキノの山頂から見た静ヶ岳四重岳の、稜の盛り上がり山頂の谷へのコントラストを眺めながら「寂になったあの静ヶ岳を伝って、静の頂へ行こう」、そして「紅子岳から手前の尾根を伝って、紅葉に身を染めよう」と語り合った。

そして秋、串は茶屋川の林道をゆるゆると進んで、上谷谷の手前に駐めた。谷を迂回する尾根志をたどる心はチョイ迷っていたが、足はかたどりに谷に向いていた。わずかでよい雲間谷の谷になってくる。

谷風は冷たく手袋を擦すがザックに無い、たんだんと寒さが回ってきたのかしらんと思ふ。

ボケーとしていたゴールテンタイプ。

忙しかった仕事も一区切りついたし、今年の秋は無事の二次林を訪問しようと思っていた。知りたかった理由も、ガレの鞍部をめざすダイレクトにくだる。登りは靴子めがけて左にトラバースをみに行く。頂には「若狭・湖の峰」の走破プレートが目についた。

入りは木太谷尾根を伝って、森林地帯が歩きやすい道だ。藤原三山と御池岳の巨体が連なり、天狗岩とボタン岩とが目に飛び込み印象に残る。そしてその真ん中を銀の鉄塔が無様に横切っていた。

林道の深気だ所は足跡がたくましく残されていく。なれたように女学生に会ったが、その人たちは若い女学生のにぎやかで華やかな一団だった。僕の気持ちは折れやがただった。(南井 克法)

春・秋 小ケルブ 白鳥の目黒案内します 白馬ファミリーペンション

和 田 森 電話 0266-183 長野県北安曇郡白馬町野 0266-172-5351

登山歴20年のオキナグが案内、針の木岳、西郎山、火打山などへご案内します。 テントキーパー

1泊2食付き 6500円から 電話 0266-172-2151 長野県北安曇郡白馬町おちくら

八ヶ岳南十峰の中心地 50年秋新築増築完成全棟個室 木の香気、新浴室、生木造りオーレン小風呂

1泊2食付き 6000円 電話 0266-172-2151 4月末・11月末開設 長野市中央2-27-20 小平町 電話 0266-172-1276

北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー、夏は野営、北八ヶ岳登山口まで送迎します。 資料請求

フテホテル カナール 電話 0266-172-2258 長野市北山街新原町丸平5-5

日本唯一の女人禁制の山「天狗山」(白ヶ岳)の登山口、新井村、温泉、名水の里 旅館 紅の国屋 電話 0747-614-0309 長野県新井町天川新井 0747-614-0309

九州の景勝地・日本百名山 宮之浦町一帯に宿 屋久島安産登山口

屋久島グリーンホテル 電話 099-9141 熊本県阿蘇郡 099-9141-6666

ハイキング・キャンプに 鈴鹿国立公園

朝明温泉 あさけ茶屋 電話 0570-22 三重県三頭郡野町千草 0570-22-933-1788

「せせりぎ」朝は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。山行の思い出や感想など、一行の手始め・お行啓 氏にお寄せください。 新ハイキング関西編集部

二次林谷は細いがまともな登脚だ。空は青く始まったばかりの紅葉を透して雲は早く流れていく。初めての空間はいつも清々しいトキメキを感ずる。釣り人の跡すかずな足跡の他に何の目印もない。無事二次林は、僕の気持ちを落ちつかす。谷が三又に分かれて形相がまっすぐなるころ、尾根にルートをとる。高みに出るよ谷を隔ててゆったりとした初山は、太尾だ。西風に流しかけろ。『手が冷たいよ』。風さんは強く吹くけれど、葉っぱははしはし。かりとつかまって『離れないよ』とつぶやいている。

急だが歩きやすい二次林の中のけもの道を伝う。ベキベキと枝折れの音がビュールと雄雉の鳴き声や葉の音。太尾はいつの間にか道筋から消えて先が草がキャンパスの上にかかっていた。

ある時、京都の山仲間と藤原の山は鉄塔が無くてスッキリしているところを見ていたが、その理由を尋ねられた。考えももなかった。『中国電力と関西電力との間に位置するのだから』と答えておいた。後日、山へ入るたびに尾根を越えて鉄塔のびていないのを確認し、答えがはずれていなかったのホッとした水覚えしている。

山は、自然を手にしたら、山窓という世界を築く世界である。庭の美しい山窓を眺めた時、鉄塔が林立し電線が山を切る姿は、山の価値を下げて人間を台無しにするものである。(須藤 剛)

歩いていきます。

こういう山歩きを何というのでしよう。リーダーは、けもの道しかない所をすたすたと歩いてしまふ。道標も目印のテープもない山の中をちやんと方向も間違えずに歩いていく。たいへんな驚きです。わたしは常に2万5千円と銀右を尻ながら歩いていても現在位置を見失ってしまいます。少しでもその技術を身につけようと思っ

今まで一番印象的だった山行は3月に行われた「ノタノ坂から珠翠の御池」へのコースです。御池岳の山頂部は濃いガスと残雪でホワイトアウトにちかく、わたしは現在地を確認することもできません。しかしリーダーとサブリーダーは不安なく歩いて行きます。ただ驚嘆。

一般道歩きと違い道なき道を歩くのはしつかりしたルート・フラインディングの技術が必要です。わたしにはまだその技術がありませんが、せむしにつけたいものです。

(大石 将美)

梅雨の晴れ間をぬって比良の八洲ノ滝に行った。

一行は奥谷で名、女性5名の計5名で、6時に東大坂を車で出発し、7時すぎにJR湖国線北小松駅に着く。近くの駐車場に車を置き、近江宮原駅までJRに乗る。そこからタクシードでガリバー旅行社に向かう。

タクシートの運転手さんが「私は昭和20年生まれだが、あなたたちは22年か23年生まれかな。都会の人は若く見えるネ」と言ってくれる。ガリバー旅行社に気分よく到着。早速に彼の出迎えを受ける。

半分ほど歩き、本道から道を右側へおれば、ゴキウと水音が聞こえる。汗ビッシェリになりながら、足をすべらせないように左右の上を慎重に「一歩一歩登る。クサリやロープにつかまりながら、陣子の滝・大瀬・小瀬・屏風滝・貴船の滝・七瀬の滝と、時には滝の湧きを浴びながら30分も登った頃、ようやくお盆の八洲の滝が現れた。しかし、汗をふくのも忘れて見る。昨夜からの雨で水音が増し、水しぶきをまきまきらして落すさまは、まさに自然がくれた一服の清涼剤である。

思いわずらうことが多く、心にゆとりが持たない毎日。そんな思いを胸に流れていくと、心のや

いを胸に流れていくと、心のやすらぎを感じる。大自然がそのまま心にしみこんでくるようであった。

梅津は釈迦岳から比良三大坂の一つ、ヤケオ山からヤケ山に向かう急坂をくだる。おぎをかばいながら尻元に気を配る。ヤケオ山からは眼下に琵琶湖が広がり、南北に長い比良山系が一望できた。やがて、涼峠にたどり着く。涼峠がなければ味と気が付かないくらいの小さは時だ。

涼峠からくだり、左手の脇道に入り、谷へおると最後の目的地、梅津の滝は目の前だ。雄滝は落差約40m、勢いよく流れがいがいされるようだ。雄滝から雌滝へは岩にすがりつき、所どころにあるテープの印を唯一のたより、ヨツンバイになっており、滝下の水でタオルをしぼり、汗をぬぐってひと息つける。

車道に出て、比良山岳センターの立派な建物を左に見ると、今朝の出発点北小松駅に16時、ようやく到着した。幸い雨にも遭わず、沢伝いに歩いたせいかな、早さを覚えたならなかった。シャクナゲ・ドウダンツツシ、

レンゲツツジ等の花が、少ししか咲いていなかったようだったが、私の気のせいなのかなあ……。(内山 真)

六月山行報告

1日 Ⅲ△大岩(2万5千「生駒山」)五段。
7日 Ⅲ△大岩(「奇風」)とⅢ△大岩(「天都山」)再訪。
16日 点のついで例行。Ⅲ△大岩(「大和石」)とⅣ△大岩(「月ヶ瀬」)へ。参加引名 26日 大和石行(伏見公民館主催) 天理市栴尾の滝、大観寺。参加引名。(上田 博也)

山行計画 (9・10月)

第1回ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」として特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように保ちて申し込んでください。「費用」のほかに参加者代その他の資料代実費を頂くことがあります。山行申し込み後参加できなかった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例年の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料(日額50円)・夜行(日別)の場合200円(100円)を支出して頂きます。(A・T・U保険会社と契約)

任意保険特約内容は次の通りです。
死亡・後遺障害賠償金 1,000万円
入院保険金 5,000円
運送保険金 2,500円

保険の対象は集合時かつ解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①でマケル・日本車以上のマイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷・雪登山を目的とした山行 ④海沿い沿いの事故(詳細は係まで)

(記入例) (往復ハガキを使用)
山行申込み書
山行名
期日
住所
電話番号
氏名
会員番号 (会員でない方は会員外と記入)
生年月日
緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

地蔵堂山行17

北山・魚谷山 (一般向き)

(新ハイ關西支部合同)

期日 9月1日(日) 日曜日

集合 彦根出町柳駅バスターミナル8時30分

コース 出町柳駅(バス)・岩屋橋

一ノ瀬谷・魚谷山・滝谷

船口(車道)・出町柳駅

費用 約2,000円(交通費・保険代)

地区 2万5千・大原・周山

係 塚元一彦(○中村 登)

申込み 2万5千大阪府城東区関

白4の14の9の91 塚元

まで

定員約名

*8月25日まで

昨年10月は雨のため参加者が人とお少でした。改めて実施しますので特に初心者参加を待たせします。指定の地図(シルバーストコンパス持参のこと。雨天中止)

美濃・恵那山 (中級向き)

期日 9月8日(日) 日曜日

集合 JR中津線中津川駅前

7時

コース 中津川駅前(タクシー)

山行計画の実施について

当会の山行計画は保険を付けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに規定通り、往復ハガキで申し込んで下さい。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも知れません。緊急連絡先など、山行申込みハガキに記載すべき事項は必ず全てご記入下さい。

申し込みの返信は案内の粗大が決まり次第、遅くとも10日前までにはします。早くから申し込みで右られることを前提にしています。

(初級回)どなたでも歩けます
(一般回)ハイキングの経験者コース
(中級回)かなり難関のあるコース
(やや難関回)難関回(登山・危険な所があり、ホイイ登りや、下りが必要で続くコースと、ご理解下さい。

黒沢沢登山口→野熊ノ池
→志那山→野熊ノ池→黒
井沢登山口(タクシ)
中津川駅前(約12:30・7
時間)

費用 約2000円(タクシー
代・保険代)
地図 2万5千→中津川・美濃
郡山
係 ◎登山 〇
申込先 〒5004岐阜県各務原市
蘇原村南町1-19の5
電話 27-5555
見えて

深田百名山に選ばれた美濃の山
の最高峰(2130m)。黒井沢
の原生林はすばらしい。小雨決行
の日は見えて

平日木曜ハイイク24
鞍馬山経路(一般向き)

期日 9月12日(休) 日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅⑤出
入口東(京葉百貨店の
前)京都市バスのりば8時
20分

コース 北大路駅(バス)旧道別
れ→田代橋→鞍馬山
→鞍馬寺→南尾根→十王
橋→南土岳→薬王取→戸
谷鐘三角点→静原下ノ町
(バス)北大路駅(解散)

御池活の池に深く分け入り、神
秘的な新ルート歩く。笹やぶあ
り(2号・55ページ参照)。
雨天中止

播州・七種池から七種山
(一般向き)
期日 9月29日(日) 日帰り
集合 JR姫路駅南出口9時30
分

コース 姫路駅(車)キャンパ場
→仁王門→七種池→七種山
→つなぎ池→林道→キ
ャンプ場(車)姫路駅(解
散)

費用 約1200円(交通費・
保険代50円)
地図 2万5千→事前・前之庄
係 ◎登山 〇
申込先 〒610-0010 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで

大崎・十津川から東道ヶ岳
(一般向き)
期日 9月23日(日) 日帰り

17時30分頃 →出町柳駅
費用 約2000円(バス代・
保険代)
地図 昭文社「47京都北山」
係 ◎前中 〇

中込み 〒610-0010 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで
鞍馬の山中に点在する経塚を訪
ねます。やぶこぎあります(⑤マ
12ページ参照)。雨天中止

鈴鹿を歩く13
能登ヶ峰 (一般向き)
期日 9月15日(日) 日帰り
集合 新宮駅の城川橋9時
コース 城川橋→左岸林道→能登
ヶ峰→世の草原→600m

費用 保険代50円(交通費含む)
地図 昭文社「45新在所・鎌
ヶ岳」
係 ◎前野 〇 山本久雄
申込先 〒610-0010 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで

*マイカー山行に限る
カヤと笹原が広がり道が狭く
若干やぶあり(⑦号・46ページ参
照)。雨天中止

集合 JR五条駅前8時
コース 五条駅(車)168号線
(車)旭橋(車)林道登
山口→鞍馬→東道ヶ岳
(往復コース)

費用 保険代50円(交通費含む)
地図 昭文社「56大江山」
係 ◎前中 〇
中込み 〒545-0015 大阪市阿倍野区
西田町1-1の7
福本まで

*マイカー山行に限る
大崎の大腰塚台、天気が良けれ
ば360度の眺望が楽しめます。
*マイカーに同乗を希望される人
はハガキにその旨を記入ください。
小雨決行

平日木曜ハイイク25
登道三山 (やや難向き)
期日 10月3日(日) 日帰り
集合 清瀬バスプール9時
コース 清瀬→表巻道→表巻神社
→首見谷→清瀬→表巻山→
表巻東林道→地蔵山→西
向加減→(一般)→越前
(バス)JR八木駅(解
散17時30分頃)

費用 保険代50円(交通費含む)
地図 昭文社「47京都北山」

伊賀・雲ヶ岳 (一般向き)
期日 9月16日(日) 日帰り
集合 JR関西本線伊賀駅8時
10分(8時23分発に乗り)
コース 加茂駅(電車)加太駅→
越ノ木林道→登山口→旧
越ノ木林道→鶴ヶ岳(往
復コース)→加太駅(解
散)

費用 約3000円(交通費・
保険代)
地図 2万5千→鈴鹿市・平松
係 ◎河田智哉
中込み 〒510-0010 城陽市寺
田大群10の10 村田まで
岩場の頂上からの展望がすばら
しい山です。小雨決行

台高・伊勢辻山から明神平
(一般向き)
期日 9月22日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原駅8時30分
コース 橿原駅(バス)大久保
佐藤池→三度小倉辻→伊
勢辻山→明神平→
大久保林道→大久保(バス
橿原駅(解散)

費用 約4000円(交通費・
保険代)
地図 昭文社「52高尾山・香
取

訪ねて地形図とコンパスの使い方
を知ります。初心者歓迎。指定
の地形図とシルベリア型コンパス持
参のこと。雨天中止

中込み 〒610-0010 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで
山上の大社・美濃・1等点・急
登・急降・笹やぶありと、変化に
富むタナコースです。曇天の場
合は灯籠の点灯を(会費・1ペ
ジ参照)。雨天中止

地図 昭文社「和泉新田」
期日 10月10日(日) 日帰り
集合 南海本線新田駅バスの
りば8時30分

コース 新田駅(バス)牛滝山
→二十一丁→増城→和泉新
田→(新ハイイク)西支那会館
(新ハイイク)西支那会館(ス
ス)水間線道水間駅
費用 約2000円(交通費・
保険代)

地図 2万5千→内浦
係 ◎前中 〇 中村 雄
中込み 〒533-6 大阪市東区阿
倍野1-14の9の901 坂元
まで
定員30名

ブナ林の南限(天然記念物)を
訪ねて地形図とコンパスの使い方
を知ります。初心者歓迎。指定
の地形図とシルベリア型コンパス持
参のこと。雨天中止

別荘
係 ◎村田智哉 ◎山本久雄
中込み 〒610-0010 城陽市寺
田大群10の10 村田まで
閑静なあふれるスキの高原を
たどる。小雨決行

鈴鹿を歩く14
御池岳主峰と池を巡る
(一般向き)
期日 9月26日(日) 日帰り
集合 306号線鞍馬橋8時30
分

コース 鞍馬橋→御池谷→ヒルコ
バ→御池→丸池→風池
→ボクランブチ→幸助池→
オチヨコブチ→ウリハダ
カエデ池→サワグルミ池
→京原池→元池→鈴北岳
→鞍馬尾根→湯野路→鞍
馬橋

費用 保険代50円(交通費含む)
地図 2万5千→新立
昭文社「44龍池・早吹・
藤原」
係 ◎前野 〇 山本久雄
中込み 〒610-0010 城陽市寺
田大群10の10 新ハイキ
ング関西まで

*マイカー山行に限る

京都北山歩き
城丹国屋屋敷を歩く
(一般向き)
期日 10月10日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口近鉄改
札口付近8時

コース 京都駅(バス)大森東町
→長谷→ナベコ→鞍馬
→森山→天童山→ノカ谷
→牛滝→大森中町(バス)
京橋駅

費用 約3000円(バス代・
保険代)
地図 昭文社「47京都北山」
係 ◎村田智哉 ◎中野信行
中込み 〒610-0010 城陽市寺
田大群10の10 村田まで
定員50名

アツパダワンの秘跡を歩く。
小雨決行

鈴鹿を歩く15
御池岳主峰と池の平
(一般向き)
期日 10月13日(日) 日帰り

山行報告 (5・6月)

新ハイキングクラブ編

ワイヤモント・トールル線
二上山から横尾山

5月3日(祝) 5日(祝) 2泊3日
(今日) 晴れ 近畿三上神社口駅
9・06(集合) 9・15二上山駅
岳19・10(20) 横尾山12・30(40)
半石峠12・00 岩橋山12・40(20)
急倉13・30 杖原辻14・10(20)
大和葛城山15・45(16) 30(葛城)
高尾ロッキー16・40(20)
(4日) 曇りのち雨(ロッキー)
15(水越峠) 55(9) 06(金剛)
の木場 9・30(40) 葛城台10・
00(55) 金剛山(別出) 10・00(香)
駒山11・20(25) 久保峠11・50(1)
中葛城山12・00(25) 12・55(1)
千早峠13・30(行者杉) 14・00(10)
杉尾峠14・30(西ノ行者) 14・55(1)
15・05(紀伊峠) 16・10(紀伊見
庄16・30(泊))
(6日) 曇りのち晴れ(紀伊見庄)
8・15(紀伊見庄) 8・35(40) 木谷
ノ池 8・25(30) 三ヶ谷 10・10

15(五ツ辻) 11・10(15) 葛城山
11・50(急倉) 12・30(横尾山)
13・50(14) 01(オオツツ) 14・40(1)
常盤峠15・00(迫谷) 15・10(葛城)
山越峠15・30(16) 00(横尾山)
バス峠16・25(40) (バス) 南滝
大津峠17・50(解散)
新緑のタイムを平定タイムで
安全に踏破した。長い道のりだっ
たが、充実した山行ができた。整
頓された隊の盛り上がりが見に
こえた。
(参加者) 尾辻新美 竹田利夫
岡部邦彦 富岡彰子 狩野東彦
松井徳永 仲秋一郎 加藤孝子
大平 満 大平孝子 稲本芳雄
多賀孝子 新出孝子 城月満幸
横川 賢 横田昌彦 加藤久彦
林 鈴彦 三宅 明 船橋みゆ子
船橋利明 西内美一 小林 裕
吉田誠彦 木村和彦 渡辺隆雄
河井 武 奥山聖二 安倉正勝
青木 雄 ○奥村誠治
○山崎治浩 ○村山智俊 (計23名)

小太郎谷から御新平・仙ヶ岳
(御新平を歩く)
5月12日(祝) 晴れ
嵐集落8・30(集合・池) 1田
村谷林道8・45(小太郎谷) 10
(05) 水無し 12・25(仙ヶ岳) 11
16(急倉) 12・00(仙ヶ岳) 13・35
1(コッス) 13・20(湖の水平) 14・25(1)
1(村谷林道) 15・55(解散)
小太郎谷(葛城・御新平・仙ヶ岳)
からの眺望を楽しんだ。アゼの薪
炭、ミツバツツジが咲き始め、カ
タクリも咲いていた。英動き山笑
う。鹿もいた。そして八丈王孫
鹿やぶこぎ鹿の鹿の角を撮影さ
れた人もあった。
(参加者) 飯田 昇 松田紀子
森澤正博 森澤孝子 川端 進
大石啓夫 高杉 輝 池田啓彦
海田誠夫 城月満幸 高橋 文
興村一平 河辺俊男 和泉元一
剛定保夫 横田昌彦 横尾孝子
徳田峰雄 ○岩母 明 (計19名)
宝生・兜谷から登頂
5月12日(祝) 曇り
近畿名勝園8・55(バス) 高尾ロッ
ジロ9・40(10) 07(ロッキー)
10・55(11) 01(無地) 11・04(1)
15(兜谷) 11・55(急倉) 12・55(1)
崎夜峠13・24(26) 急倉13・56(1)
14・12(清水山) 14・22(新吾
本店前) 15(バス) 10(27) (バス)

新ハイキング会

ニュージラント
・ハイキング(二回) 同日
期日 12月26日・12日
10泊1日
コース 成田(中泊) 二
ライストチャーチー
タイスタウン(リアナ
ウ) (泊) 1(グレイド)
ウス) (泊) 1(ボンボ
ノ小原) (泊) 1(クイン
ト小原) (泊) 1(ミルホ
ードサウンド) (泊) 1
マウントクック(泊)
1(オーランド) (泊) 1
成田
費用 約4万5千円(予研
申込み) 予研
申込みには後日詳細を連絡
します。

多摩川16・06(解散)

初参加の人が13人あり、地形図
の成り立ちとコンパスの使い方を
勉強しながら、急降を克服する案
した。横尾山・古光山・高見
山の山車固定ができるようになっ
た人もいた。
(参加者) 内田基茂 木村 晃
横井 徹 横井孝子 川端孝子
堀 久子 金光新一 金井泉美
小田正子 山口静香 田中かね子
西村京子 三浦基幸 三木隆子
宇山尚志 回田洋典 堀井清之
真田明子 高橋信男 橋本哲二
野口 隆 川端昭彦 川端孝子
上野 安 上野 薫 田中三恵子
前田孝子 藤田和洋 ○中村 隆
○松元一彦 (計36名)

大峰・柏原山から西ノ口

5月12日(祝) 曇り
近畿下市口駅9・10(タクシー)
赤坂9・40(50) 横尾山10・10(柏
原山) 10・00(10) 12・00(集合)
13・40(新茶屋) 13・55(四寸岩
山) 13・15(25) 大津平谷下峠13
・50(急倉) 14・30(バス) 15・10(1)
大和上野駅16・50(解散)
登山者の訪れるところ少ない大
峰の穴場 踏み跡を探しながらの

やぶこぎが続いたが、越前川原野

を楽しむ予想とおりのコースタ
イムで横尾山下山できた。
(参加者) 恒任正昭 竹田聖英
佐々次男 松井徳永 西原清樹
前田政雄 岡田真介 ○藤原誠之
○橋本勇作 (計9名)
北山・井ノ口山(本峰・イヘイ)
5月16日(祝) 晴れ
高尾山(別出) 10・00(バス)
1(中ノ町) 11・25(25) 急倉11・
55(1) 06(北尾) 12・45(急
倉) 13・25(1) 井ノ口山(大杉) 14
・00(25) 衣笠峠16・05(20)
急倉17・35(バス) 北大院18・
55(解散) 1(北尾) 18
巨大谷の雄姿を鑑賞した。コ
ースを放棄し、直取へ下山した。
(参加者) 仲水 一郎 木止秀
村上等代 川端孝子 吉田誠彦
白根清子 辻 行子 大宮健太郎
前田 勇 瀬田祥香 松尾孝子
石田正子 今西光男 田中真純子
藤原誠子 水田重子 永見誠子
藤原誠子 水田重子 中山吉太郎
中野英雄 大谷孝子 中上紀子
南 寛子 河江光枝 下山三平子
井上正重 三浦基幸 広田不佐子
北原信枝 入江武史 阪口千鶴子

日野久郎 日野孔子 徳島ヨシ

藤田光彦 藤本 天 松本いづ子
曾田孝江 関口重子 田中かね子
本田博子 田中孝二 百村孝次郎
上坂征枝 長谷川英 関口内前子
西原明一 中村 隆 中村信彦子
尾原孝子 柴山隆夫 小杉秋子
吉藤孝次 中村和子 山本千鶴子
細井和子 末 直葉 朝田聖子
阿部邦彦 藤 嘉子 網水英基子
押木正 〇前中 敏 (計10名)
英道・伊吹北尾編
5月19日(祝) 曇りのち晴れ
春日村9・00(集合・車) 急
倉1(急倉) 10(急倉) 11(急倉) 10
・40(急倉) 10(急倉) 11(急倉) 10
・25(急倉) 12・10(急倉) 12・
25(急倉) 13・50(急倉) 14(急
倉) 15・10(急倉)
登り始めは雲が多かったものの、
次第に雲空が広がり、どっしりと
構える牛吹山に向かい、汗をかき
かき下坂し、帰程を歩きました。
花をつけていた草木は、前45種。
イネンソウが咲き始め、カタタ
リが咲き始め、サンカヨウの花が
ありました。霞むようなやわらか
な新緑に身体が染まるようでした。
(参加者) 高橋明菜 南 寛子

秋の準備(ハイキング)

「神生の聖ハイキングと
富士山の秋祭」
9月18日(祝) 晴り
(集合) J&K京都駅八条口ニ
イネンソウ18時
(行先) 京都(1日) 笠置駅
1(聖生) 1(聖生) 1(聖生)
(マイクボックス) 青葉
仁の家(富良野) 富良野・雄
雄・松尾明子・松尾
後マイクボックス) 近鉄
奈良駅(定款特等) 京
都駅(総務課) 15時45分
(定員) 20名
(費用) 6800円
秋風が吹き始めるころに京都
の一帯南・西北側の遺跡・寺社
から御霊神牛土流神の旅を歩
きます。
「百鬼夜行の家」は従来の社会
福祉施設のイメージから少しか
け離れていきます。ぜひ皆さんの
眼で確かめて下さい。
(申込み) マウ・スポーツ
Office (03) 3366-7777
(申込みまで)

宮崎山子 加藤元彦 池田彦彦
池田繁夫 豊田真雄等
◎読者守衛 (計8名)

魚谷山から二ノ瀬ヨリ道
(京都北山歩き⑬)

5月19日 晴れ
地下鉄北大路駅8・30(集合) 8
・40(タクシ) 洲文谷林道車止
9・20(バス) 魚谷峠10・00(バス) 魚
谷峠10・45(バス) 魚谷峠11・10
・15(バス) 魚谷山11・25(バス) 魚谷峠
11・35(バス) 魚谷峠合12・15
(集合) 13・15(集合) 魚谷峠13・30(バス)
40(バス) 瀬ヨリ道14・10(バス) 40
二ノ瀬峠(車止) 出町駅
二ノ瀬峠(車止) 出町駅
新緑の下、よい天気にもまれて
京都北山のプロムナードコースを
満喫した。

(参加者) 新出愛子 野口 修
水田千加 鈴木吉和 岡崎豊彦
石田美夫 石田和彦 森崎昌義
河兵典子 上坂延茂 水木加津米
平 幸子 高岡愛子 小林 桂
秋田博二 中村愛子 城月清幸
多田信二 西田 寛 下江俊子
奥山繁二 田原文雄 鷗水千穂子
岡田正治 池田 敬 小島フジ子
◎測定係夫 ◎中西信子(計16名)

雲取山・雲取峠から上野田へ
(京都北山歩き⑭)

5月19日 曇りのち晴れ
京阪出町駅バスターミナル8・
00(集合・バス) 花見岡原前9・
00(集合) 花見岡原前9・05(バス) 10
山峠9・30(バス) 10(バス) 10(バス)
10(バス) 立命館大小屋10・30(集合)
取山11・00(集合) 12・00(集合) 14
・30(バス) 上野田15・10(バス) 大石
16・10(バス) 北大路駅17・
45(解散) 出町駅17・50
さわやかな涼風が吹き抜ける樹
林帯の雲取峠コースを歩いた。
途中のやぶこぎも健く通過した。
上野田から大石までのバスまでの
4、5分の距離は足にこたえ
た。

(参加者) 船越利明 船越みよ子
今西実男 中川光郎 前田政雄
森川信之 吉嶺 清 吉嶺ミチ子
木村雅志 渡辺康郎 白根功子
辻 行子 高橋孝浩 高橋出紀子
小林 桂 近藤 義 吉田誠宏
下村啓子 中村愛子 中村誠美子
小田利子 入江史史 大木政夫
北尾信枝 中村啓子 辻 昌子
堀居勇雄 武部 順 武部美美子
田中博幸 秋田英穂 井林秀幸子

石原君子 川入麗子 谷角マナ子
堀 久子 松岡好市 瀬戸内伸子
藤本善雄 林 陽子 橋本孝久夫
多賀久子 沼田定夫 菊池みゆ子
西村義朗 原田昭子 岡田千穂子
横井 徹 横井裕子 佐古田文子
佐田次男 竹内正三 中路雅代子
江上 浩 ◎呉其裕英 (計56名)
◎村田智徳

千早城跡から金剛山・葛城山へ
(文学歴史散歩⑩)
5月19日 晴れ
河内長野駅前9・00(集合) 9・
22(バス) 登山口10・00(千早
城跡10・10) 30(一本木茶屋10
・56) 11・10(金剛山神社前11
・50(集合) 12・30(葛城岳12・
45(分岐点) 13・00(水越峠14・10
・15(葛城山15・20) 16(10(ロー
プウェイ駅) 17・10(解散・バス)
近鉄御所駅
金剛山は桜の花が満開、葛城山
は一面のソラジで真っ赤に染まっ
ていた。今年はおちこちでお花見
が楽しめました。

(参加者) 奥田貞雄 青木一雄
岡田真介 荒木 裕 千穂千枝子
萩田久子 小林 昇 伊藤慶麿香
森田順子 田中 誠 田中喜美江

山本 勉 石井博紀 安藤志保子
堀内秀紀 森野隆太 山本史之
藤山俊隆 中西亮太 北川浩光
松本幸太 藤原浩二郎
◎松永一 (計23名)
◎松永一

イブネ・銚子・ダイショウ
(鈴鹿を歩く⑧)
5月26日 晴れ
フジキリ谷旧出入口8・40(北谷
出口) 10・00(アケギキ) 11・00(北
谷峠) 11・20(イブネ) 11・50(新
千12・20(集合) 13・20(アケギ
キ) 14・15(ダイショウ) 15・05(フ
ジキリ谷) 16・45(新千) 17・50
(解散)
北谷ではヤマシタクヤクの花が
迎え、新緑の中イブネ・イブネ、
銚子とけもの道を歩いた。横風が
吹くアケギキのブナ林から10
64時・ダイショウ・南池・89
1(新千) 横線を歩き谷にくたるとク
マガイソウが咲いていた。

(参加者) 飯田 昇 小林 裕
中山建男 大谷将英 高杉 博
谷 久雄 森崎元博 森崎淑子
林原芳生 成清 茂 奥山真穂子
池田彦彦 池田繁夫 馬場広美
奥村一平 吉原 務 ◎山本久雄
◎岩崎 明 (計18名)

吉野・ドウトク山から首頂山

5月26日 晴れ
近鉄下市駅9・20(集合) 9・
30(タクシ) 清水10・00(ドウ
トク山) 10・35(40(地蔵峠) 11・10
・20(陣馬寺) 11・50(集合) 12・
30(10(陣馬寺) 13・00(10(西行峠) 13
・55(14・10(吉野駅) 15・35(解
散)
町入に恵まれた。帰宅時間の遅
れを考慮して下山コースを吉野駅
に変更した。歩行中のトラブル
もなく、静かな山歩きが満喫でき
た。

(参加者) 金光新一 金光淑夫
梅田 實 河井典子 内田其茂
瀬田真介 平塚英子 船越みよ子
青木一雄 竹田豊英 原田久子
西園徳精 岡田昭治 岡田昭子
中村和子 横井徳水 安田文美江
船越利明 野野重志 横井 徹
横井裕子 ◎森崎浩之
◎橋本勇作 (計19名)

生駒城・首頂山

(関西山越の古道を歩く①)
5月26日 晴れ
近鉄生駒駅9・30(集合) 10・05
・1(教員寺) 10・20(植現社) 10・35
・1(水堀) 10・45(50(水堀) 植現社

下11・40(集合) 12・30(信長山
公園管理所) 12・45(55(1(のち村
13・25(信長山境内) 14・00(山頂
14・20(30(木堂) 14・50(境内休
憩所) 15・15(信長山下) 15・15
・25(1(回ヶ浦) 15・30(近鉄生駒山下
駅) 15・50(解散)
霊園茶屋の広さにはびっくりした。
信長山の山頂から展望を展望した
り、木堂をおまわりした。小さな
旅の会の人となごやかに交流でき
た。

(参加者) 里井博子 新出愛子
新出民子 高松雅子 中田茂子
前田幸子 木村 晃 藤原さち子
林 田 高木 晋 田中かお子
隣 嘉子 北川身子 若本いすゞ
中西 昭 中野祐一 川端豊子
大崎智伸 木村昭雄 高月マツミ
山名止彦 山本 勉 ◎村田智徳
田中順子 山本 勉 ◎村田智徳
◎寺山英男 (計27名)

新栄・一徳坊山から羅雲山

6月2日 晴れ
南海三貝市町駅8・50(集合) 9・
05(1(三貝市町駅) 9(バス) 9・18
(バス) 花台合4丁目(バス) 9・
25(大ザオ会堂) 9(バス) 9・40(50(一
徳坊山) 11・15(一徳坊山) 11・30

(集合) 12・30(羅雲山) 13・10(一
徳坊山) 13・55(14・10(天見分岐
14・35(養谷八幡神社) 15・20(35
(解散) 一徳坊山) 15・50
梅雨のはじりの時期だったが晴
天の一日、楽しく歩いた。岩湧寺
周辺は目かえるほど整備されて
いた。流石の道師にはシラフが
美しく映っていた。

(参加者) 竹田繁英 兼田幸子
青木一雄 森澤元博 森澤淑子
萩田久子 木岡慶次 千穂千枝子
高岡愛子 三木良子 安田文美江
佐田次男 仲秋 修 野口志津子
仲秋一郎 仲秋豊子 湯浅次男
吉橋 清 松井徳水 川端昭治
川端敏子 新出愛子 岡田恵美子
平塚英子 高田明子 岡田政雄
野野重志 横井 徹 横井裕子
近藤 義 渡田俊男 高橋 寛
則定保夫 ◎岡田 昇 (計35名)
◎岡田昭治

台高・三峰山(水喉ハイク)

6月2日 晴れ
近鉄磯城駅8・30(集合・バス)
御津青少年旅行村9・30(45(一徳
山口) 9・55(池袋小島) 10・05(12
・1(三峰山) 11・35(集合) 11(平
野) 12・50(不動滝) 13・45(14・

15(熊谷) 14・45(15・00(バス
橋原) 16・00(解散)
6月とは思えない涼しい風が吹
き、遠く山々がよく見えた。八
丁平の新緑の美しさは感動的だっ
た。お日当てのヤシオソウジはな
びか花をつけておらず残念だっ
た。

(参加者) 岡田敏子 仲秋豊子
前山政雄 船越敏子 船越美美子
川上友登 林 田 潤 田中かお子
白根功子 辻 行子 堅田美奈子
平塚英子 萩田久子 千穂千枝子
熊本秀雄 谷原的千 久保田信代
西沢広一 青木一雄 小林伊子
中村英雄 石田輝子 家人敏光
家人和子 藤田幸子 秋田英穂
新治博子 隣 嘉子 阿部邦彦
西原定夫 古川裕子 山本千穂子
大本公子 長沢友美 成川みさお
佐藤三三 林 秀男 細井和子
松本健二 仲秋一郎 岡田千穂子
船越みよ子 ◎岡田 昇 (計44名)
◎湯浅次男

木曾・田立の滝

6月9日 雨
JR中津川駅8・00(集合・車)
坪米休遊館8・35(夫河原) 8・50
・35(木下) 10・45(大河原) 11・

30 (昼食) 12・05 一峰 養子 15・00 (車) 中津川駅 14・00 (解散) 梅雨前線の影響で、終日小雨模様だったが、よく整備されて歩きやすい登山道と、半上橋などのスリルある吊橋を造り、花崗岩の美しい滑滝を長大な一段岩に駆け上れた大河川の迫力を堪能した。ヒノキ・サワラ・アスナロ・コウヤマキなどの木曾巨木を観察した。(参加者) 近藤 崇 田中健子 (計) 5名

大峰 天和山と滝山
6月9日(日) ①瀬本勇作
雨のため中止しました。

水上町・五台山
6月9日(日) ②井上 保
雨のため中止しました。

能登ヶ峰 (鈴鹿を歩く)
6月9日(日) ③尾野 明
雨のため中止しました。

比良・笠谷ヶ峰 (大坂ハイクル)
6月13日(木) 晴れ
JR近江高島駅 9・05 (バス) 畑
9・25 10・05 10・15 10・30 10・
谷ヶ峰 11・55 (昼食) 13・00 13

川本 隆 平 龍一 平 幸子
大野 博 大野晴紀 岡本孝子
石田真由美 稲垣恵美子
○稲上逸夫 ○尾崎英五

八風谷・赤坂谷から釈迦ヶ岳
6月23日(日) 曇り (鈴鹿を歩く)
八風谷林道入口 8・45 林道終点
9・15 赤坂谷 10・05 赤坂 10・
55 釈迦ヶ岳 11・30 松尾尻根の
頭 11・40 (昼食) 12・30 中津 13・
30 センコウ谷分岐 14・35 八風
谷林道 15・05 421号線 15・35
(解散)

○山本久雄 ○尾野 明 (計) 5名

の馬場 14・00 15 15 養子 15・00
(バス) JR安曇川駅 15・30 (解
散)

天候が前後の予報からは予想で
まないほど好天、好山行になっ
た。山頂からの雄大な展望と、猪
の馬場付近の雄大なフォレスト
が印象的だった。

(参加者) 川崎孝子 仲秋一郎
木全正秀 村上孝代 奥田貞彦
三浦弘幸 藤田光彦 橋本賢二
瀧里博幸 鈴木春雄 柴田美奈子
中村英雄 水見山二 水見孝子
北尾信枝 今光光男 小林伊守子
佐藤春彦 南 寛子 山本千鶴子
新沼信子 高木 晋 中上信代子
長沢裕美 三宅 明 松本いづ子
小林政男 大木久子 伊藤みほる
宮坂政彦 吉田英宏 新井寛世子
加藤佳彦 岡原定夫 中村佐子
本田博子 河江光枝 土肥三枝
隣 孝子 東 直美 瀬戸内節子
吉岡英枝 明神成行 阪口千鶴子
上尾健枝 佐田次男 中路加代子
黒川孝子 砂原恵美子
○前中 毅 (計) 50名

比良・八洲の滝から釈迦ヶ
6月30日(日) ④村田智俊
雨のため中止しました。

新ハイキングクラブ関西
入会のすすめ
このページの山行例を通じて
正しい山歩きを、たのしい山仲間
たちと味わいませんか。リーダー
(総)はすべて無償の奉仕で、各
自で初符を買い袋代を払い、宿泊
料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関
西に入会してたのしいお仲間にな
りませんか。会費には毎月「新ハ
イキング」別冊関西の山(年間隔
月は毎月)をお届けします。会費
は山行別会に優先参加できます。
入会費 5000円(バス代)
年会費 2500円(送料別)
新ハイキングクラブ関西への入
会申し込みはこの雑誌に随入の帳
付用紙を印刷ください。裏面に
は氏名(ふりがな)及び郵便号か
ら送本せよと明記ください。
尚、定額郵便を希望される方
も同封にてお送りください。お申し込み
毎号郵便でお送りします。

1 林道終点 9・50 10・00 1 合
目 2 本杉 10・40 10 40 合目 小風
11・30 1 七合目 河内道分岐 12・
00 1 八合目 13・30 (昼食) 13・15
1 経塚山 13・40 1 歌譜山 14・05
1 5 1 経塚山 14・30 1 お虎ヶ池 14・
45 1 汗ヶ池 15・40 1 林道 15・50
1 香積峠 16・35 1 40 (解散) 16・
50 1 六ノ宮 16 井沢・米原駅
長い道のりの植道コースを走
仙山へ登った。山ミルは一日目の
杉の下までで心穏なかった。リー
ダーと他一名がコムラ返りを起し
し、湯ヶ池まで下山したが、持んな
よい汗を流した。

(参加者) 仲秋一郎 仲秋孝子
森川信之 中村信子 田田正高
野口 健 前田政雄 村野秀彦
奥田貞彦 近藤 恭 小林 隆
渡辺健郎 瀧里博幸 川崎 隆
上田孝子 瀧里博幸 八木喜武
白根孝子 北 口子 三津敏一
吉本一雄 小西静雄 山本多美子
長塚孝子 奈良孝子 石田豊夫
大塚孝子 船越初明 船越孝子
鈴木吉和 古田誠宏 安田文夫
高岡孝子 鈴木木和 橋田昌雄
下江孝子 高橋孝若 高橋山節子
築山深夫 木島孝子 家入敏光
家人孝子 吳比裕美 松井徹水

○新入会員紹介(25名)まで)

奈良孝子 村上信夫 渡田友子
小森 隆 藤野直樹 福田宏子
池田 敬 天野孝子 金栗りん子
中尾隆雄 福田 真 稲尾多恵子
松本悦子 若林和吉 松本いづ子
樺田隆子 伊藤信子 安藤志保子
加藤孝子 福井俊介 福井寛枝
山下智子 佐藤雅人 小沢天公子
竹村吉生 佐藤人輔 佐藤まも子
小川豊夫 磯部 純 若林敏太郎
山下秀之 新保康司 小坂きぬ子
今井淑雄 山本善治 山本真智世
原田昌子 山本善治 今村四郎
原田 隆 坂谷孝子
樺野英夫 小森孝子 小川武久
小川五十鈴 三輪ひろ子
若林孝子 柴田善雄 野田雅子
熊原好子 今福克俊 佐竹百合子
熊原 尚 原 政義 山藤隆美
鈴木健雄 鈴木早苗 久次止巳
中島 章 野子 市川リエ子
上田正計 左々春夫 明也サト子
末木和子 松本英子 岩谷孝子
小林 忍 岩谷孝子
後谷 昭 橋口武明 木谷カズミ
村田孝己 竹内誠司 坂本孝子
(計) 5名

南 寛子 辻野恒夫 邊見千恵子
若木健一 寺本志男 内海三郎
血原勇男 血原賢子 辻 恭一郎
秋田英輝 田中健子 吉田孝子
入江武史 松田孝郎 松田孝江
岡本政一 野田 昇 岡田恵美子
宋 豊敏 内田基茂 宮村孝次郎
太田政孝 太田孝子 中井ひろみ
小林 桂 奥村誠治 田原啓司雄
則定保夫 安田正勝 森本賢孝子
山崎加奈子 ○山崎誠治
○上村 操 ○村田智俊 (計) 78名

鈴鹿前線・那須ヶ原山
6月22日(日) 曇り時々雨
JR関西線園田駅 9・00 1 園田 1
1 園田 坂下第六橋 1 林道入口 9・
20 1 坂下第六橋 10・20 1 坂下第六橋 11・
00 1 那須ヶ原山 12・05 (昼食) 1
12・45 1 那須ヶ原山 13・25 坂下第六橋 14・
30 1 林道入口 15・30 (解散)

訂正とお詫言

28号(初夏) 25ページ下段3行
目「……頂上七高山、新山の雙峰
對峙す、」の部分には「出羽風雨降
からの引山部分でした。」(敬告)
28号(初夏) 13ページ中段の東
京都の高峰ベストテンの順位を
丸丸山、四日辰岩山、天守山
④西谷山に訂正。なお、巻頭の順
野山遊覧 などの小ビークは除
いた。(編集者)

28号(初夏) 33ページ上段16行
目「以前は閉鎖中……」の
以前は閉鎖中……同ページ下段
24行目「槍平山荘(今時山)も
閉鎖中……」(編集者)